
ちょっとエッチで正しいハーレムの作り方

上級読者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちよつとエッチで正しいハーレムの作り方

【Nコード】

N4617U

【作者名】

上級読者

【あらすじ】

100の諸侯を束ねる魔道王国エロス。その頂点に君臨する10歳の魔王王子と、彼のハーレム候補となった少女が織りなす、ちよつとエッチな恋愛ファンタジー。第1章メルル章ではみつくみくな少女に初恋をしてラブラブ。第2章のキリノの章では実のお姉さんに甘えてラブラブ。第3章まどかの章では奴隷少女へのドス黒い支配欲が芽生えてラブラブ。サブタイトルに含まれるパラメーターは各話のエッチ度です。恋愛要素なし

ラブラブ

ちよつとエッチ

萌え

ラ

プロローグ

異世界ルーンの西の大陸の中心に聳える白帝城。1000の諸侯を束ねる魔道王国エロスの都城であり、そこには絶世の美少年と噂される魔王子アベルがいた。

今年10歳になる王子は無事精通が始まり、自分のハーレムを持つことを許されたが、ハーレムはエロス王家にとって神聖なもので、代々の掟『性約』に従わねばならなかった。

?、エロス家の後継者は精通・初潮が始まるとハーレム主となることが出来る。

?、ハーレム主は10人までハーレム候補を選ぶことが出来る。

?、ハーレム主とハーレム候補の関係は互いの合意の上に成り立つものとする。

?、ハーレム候補の選定は精通・初潮が始まってから半年以内に終わるものとする。

?、但し性交を誰かに一度でも行つとそこでハーレム候補の選定は強制終了となる。

?、選定期間が過ぎた後にハーレムへ女子・男子を追加することは一生出来ない。

?、ハーレム主はハーレムに入った者以外と性交してはならない。

アベルは淫乱だが、しかし愚鈍ではなかった。今、この時が（以下
会話文

ゲシュタルトよ。

はい。王子。

決められぬな。

駄目ですか。

うむ。余は女とは99パーセント容姿だと思う。

はい。存じております。

このように国中の女子をカタログにしてあると確かにハーレム入りの選定をするには分かり易い。

6歳〜10歳まで、殿下のストライクゾーン70万人でございまする。

うむ。だがな、ゲシュタルトよ。

はい。

駄目だこれは。写真は写真でしかない。

はい。写真は写真でございます（何言ってるのこイツ）

写真写りというものがあるつ。ブスが美人に、美人がブスに。どうするのだ。

カタログにて100人ほどお決め頂いて、その後、直接……

ゲシュタルトよ。余を謀るのか？

は、はい？

ブスが美人に見えていた場合はそれでよからう。しかし美人がブスに見えていた場合はどうするのだ。見逃してしまうのではないかつ！
愚か者めがつ！……！！

ひええええええ。ボシュ……。墨墨 骨 墨墨。

ふん……。暗黒公爵サキエルはおるか。

シュタツ！ くくくつ。こじこ……。。

狩りに行くぞ。ふはははははっ。

くくくつ。

メルル、時間にゃ。ペシ、ペシ。

う、うん…。

起きるにゃ。ペシ、ペシ。

王子たま〜。もつとキス…（／／／／

寝ぼけるにゃ。もう教会に行く時間にゃ。ドス、ドス。

ゴホゴホ…。ん？ あれ？ なんだあ。にゃん太かあ。うん…。
もう少し寝かせて…。

遅刻したらまたメルルがシスターに怒られるにゃ！ ドス、ドス。

痛い…。もう…。にゃん太がメルルの代わりに行って来てよう。あ
たしは、あと少しだけ、夢の中の王子さまとキスしてるんだから（
／／／／

にゃん？ 王子さま？

えへへっ。ゆうべ、にゃん太が読んでくれた絵本の王子さま…（／
／／／

にゃー？ シンデレラ？

うん！ でもそれはお姫様の名前。お姫様はメルルなの（／／／／

にゃにゃ…。王子の名前ってなんだっけ…。にゃん太？

……違うと思う。

にゃ…。そっか…。にゃん太じゃにゃいのか…。しょぼん…。

あつ。ごめん、にゃん太…。撫で撫で。にゃん太が嫌いって訳じゃないの。撫で撫で。

にゃん…。

絵本に描かれた王子さまとにゃん太の姿が違うから、あたし、つい…。ごめん…。

にゃ…。にゃん太は猫だからメルルの王子になれないのにゃ…。仕方ないのにゃ…。

そ、そんなことない。絵本の王子さまには名前が無いの。読んだ女の子が好きな名前を入れていいんだと思う。女の子は誰もがお姫様になれて、みんな自分だけの王子さまがいるんだわ。だからメルルが望めば誰でもメルルの王子さまになれるよ。

そうにゃの？

うん…。

メルルは誰が王子になって欲しいにゃ？

メルルの王子さまは…。にゃん太がいい…。(／／／／

にゃ…。メルルはにゃん太のこと好きにゃんか？

コクン…（／／／／

にゃはははっ　　やっぱりメルルもボクの魅力にメロメロにゃったか

ふえっ？

ボクはチョーカッコいいから求愛されまくりなのにゃ　　まあ、来るもの拒まずにゃ。メルルよ、そちをにゃん太ハーレムの一員にしてやるにゃ、他のメス猫たちと仲良くするにゃんよ？

ムカツ。

んにゃ？　　どうしたにゃ？　　ハーレム39号よ。

ギョッ！

ふにゃあああ！！　　痛いにゃあああ！！　　メ、メルル、つねるの駄目にゃ、やめるにゃ！！

メルルの王子さまは、メルルが何をしても許してくれる優しい王子さまなんだもん！

い、いやにゃ〜！！　　痛いにゃ〜！！　　王子なんてもういやにゃん〜！！　　そ、そうにゃ、メルルの王子は、にゃん太じゃなくて、アベルにするにゃ〜！！

……ん？ アベル？ 誰それ？

ふにゃー！。この国の王子にゃ。ルーンで1番の美少年にゃ……。しらにゃいのか？

知らない……。

この家はテレビもラジオも新聞もにゃいからにゃー！。しょうがにゃいか。

アベルさま……。この国の王子さま……。

そつにゃ。まだ10才だから7才のメルルにピッタリにゃ。結婚相手も探してるにゃ。

……。

にゃ？ どうしたにゃ？

なんでメルルが知らないこと、にゃん太は知ってるの？

にゃん太はこの村に来てメルルに拾われる前は、王都と呼ばれる街で暮らしていたにゃ。その娘達の間ではアベルの噂で持ちきりだったにゃ。

王都……。

にゃにゃ。この国、エロスの中心、王都ナロウにゃ。王子が暮らす真っ白い城があって、その周りは森や湖の公園になってるのにゃ。綺麗にゃんよ……。南に行けばお空の雲より高い塔がいくっぴい立つ

ていて、人がた〜くさん暮らしているのにや。

たくさん？ この村より多いの？ 100人くらい？

もつとにや。

110人？

もつとにや。

120人？

もつとにや。

130人？

にやー！ キリがないにや！ メルル驚くにやよ。王都の人口はにやんと150万人なのにや！

ひやくごじゆうまん？ まん？ まんつてなに？

にや…。ええつ…と、とにかくたくさんにや！ この村の中心にある世界樹の葉っぱより多いにや。

えー。にやん太、うそばっかりー。

本当の話にや！ 行けば分かるにや。

行けばつて…。

にゃ？

あたしは行けないよ…。

どうしてにゃ？

だってこの村から出たら駄目だもん。シスターに怒られるもん…。

にゃはははっ。怒られるのが怖いのにゃ。メルルは怖がりになゃ。
弱虫なんだにゃ。

うううっ。怖いんじゃないもん！シスターは…。シスターは今
までみなしごだったあたしを拾ってくれて、育ててくれた人なんだ
もん。だから…。だから駄目なんだもん…。

にゃくにゃ。そうなのよか。王都はいいところにゃのにゃー。綺麗
な服が沢山あって、美味しい食べ物も沢山にゃ、みんな自由に自分
のしたいことをして、支え合って、楽しんで暮らしてるのにゃ、友
達も沢山出来るにゃ、こんなちいさな村とは…

にゃん太のイジワル！

にゃ？

そんなにそこがいいなら行っちゃえばいいんだ。

行くにゃ。

ええっ…。

にゃん太はもう直ぐこの村を出て王都に戻るにゃ。

……。

にゃ、どうしたにゃ、メルル？

にゃん太がいなくなったら、またあたし一人…。

にゃあゝっ！ にゃあゝっ！メルル泣くにゃ。メルルも一緒に連れてってあげるから。泣いちゃ駄目にゃん…。ペロペロ…。

だって…。だって…。シスターが…。

メルルの人生はシスターのものじゃないにゃ。ペロペロ…。

うん…。

ボクと一緒に王都へ行きたいんにゃろ？ペロペロ…。

うん！

にゃ。じゃ、一緒に行くにゃ。ペロペロ…。

……メルルの王子さまは、やっぱりにゃん太がいい。チュッ（／／／

にゃにゃん。うれしいにゃん。メルルのキス気持ちいいにゃん

（／／／／

えへへっ（／／／／

にゃにゃん。ではメルル姫、もうベッドから出るにゃ。……目覚め
の時間にゃ。チュッ（／／／／

うん…（／／／／

にゃん太…。歯ブラシ取って。

にゃ。ライオンこども歯ブラシにゃ！

歯磨き粉…。

にゃ。甘口、いちご味にゃ！

んー。ぶちゅ…。はむっ。シュコシュコ…。シュコシュコ…。

メルル、今日のヘアースタイルはどうするにゃ？

ん…。シュコシュコ…。シュコシュコ…。チラッ)ノノノノ

にゃん？

こっぴゅ…。

にゃ。お水にゃ！

ぐくぐくくくちゅくちゅ、ぴゅっ。うー。ど、どうしようかな。
……に、にゃん太はどんなのがいいの？ チラッ)ノノノノ

にゃん太？ にゃん太はそうだにゃ。メルルはアクアブルーの長い
髪が綺麗にゃから、ツインテールで、みっくみっくにして欲しいに
ゃ。

みつくみく？

初音ミクちゃんみたいなのがいいにゃ！

ムカツ。メルルはメルルだもん！ 初音ミクちゃんって人じゃないもん！

にゃー。ミクちゃんは人じゃないにゃ、電子の世界の歌姫で実在しないのにゃ。

人じゃない？ 電子？ 歌姫…？ よくわかんない…。

にゃにゃ。説明するのはむづかしいにゃ。とにかくメルルはそのミクちゃんに生き写しにゃにゃ。ちょっとやっつけて欲しいにゃ。

えー。

ちょっとだけにゃん。ミクちゃんに会うのが、にゃん太の夢だったにゃ。

にゃん太はミクちゃんが好きで、メルルはミクちゃんの代わり…。

ちがうにゃ！ にゃん太はメルルが好きにゃ！ コスプレという遊びのつもりだったにゃ…。メルルを悲しませて、ごめんにゃん…。

チラッ。もっつ、しょうがないなあ…。ツインテールってどうやるの？（／／／／

いいのにゃ！

う、うん（／＼／／

じゃ、にゃん太がくくってあげるにゃ！　ぴよ〜ん。バシッ。

わわわっ。にゃん太が、頭の上に…。

髪をこうして束ねてリボンで括って、こっちも…。うんしょよいしよ。……できたにゃ！

す、すごく手際いいね、にゃん太…って、うわあ…。メルルの髪が尻尾みたい…。くるくる。あはははっ、面白い。ミクちゃんって変な髪形なんだね。

変じゃないにゃ！！　みつくみくにあ…！！　綺麗にゃ…！！　にゃああああああ…！！　最高にゃ…！！　メルルは間違いなくルーン1番の美少女にゃ…！！　天使ちゃん光臨にゃ…！！

あ、ありがとう（／＼／／

そ、そうにゃ…！！　衣装も合わせて…。ああ…。鼻血出てきたにゃ。

ね、ねこが鼻血って…。ちょっと落ち着いて…。

はあはあはあ…。にゃはん…。グウ…。にゃ？　グウ…。グウ…。にゃ…。

ん？

グウ…。にゃ…。にゃん太、興奮し過ぎて、おなかすいたにゃ…。

朝ごはん欲しいにゃ（／＼／＼

はいはい。じゃ、料理作るね。お味噌汁と、ご飯。あとメルルは玉子焼き。にゃん太はカツオ節ね。

にゃー！ にゃー！ わーい！ ねこまんまにゃー！

あたしはメルル〜 なるうの少女なの

にゃにゃ メルル

なるうの少女はあ〜 異世界に飛ばされて〜イケメン王子に玉の輿

にゃ〜にゃん 玉の輿〜

それで満足？ NO NO なるうの少女はあ〜 ちょぴりビッチ
な乙女なの〜

に、にゃ？ ビ、ビッチ？

王子だけじゃ満足出来ない〜 ニヒルな執事も〜 ワイルドな将
軍も〜 クールな魔道師も〜 ショタな天使も〜 イケメンだっ
たら〜 あたしのキッスで〜 虜になつて貰うわ〜 チュッ

にゃー！ にゃー！ 駄目にゃー！ 駄目にゃー！

なるう なるう なるうの少女はあ〜 ちょぴり夢みがちな乙
女なの〜

にゃ…。やれやれにゃ…。

なるう　なるう　なるうの少女はあゝ　ちよぴりサツキュバス
ちゃんなの～

困ったもんにゃ…。

くるるるる。ビシッ！　ドンブリ。ビシッ！　ごはん。ビシッ！
お味噌汁。ビシッ！　にゃん太のはごはんとお味噌汁をぐちゃぐち
やで、かつお節をぱくパラ…。あたしのは、たまご焼き。はい出
来た！

す、すごいにゃ～～～！！　歌を歌い終わったら、いつの間にか、
ねこまんまと、たまご焼きご膳が完成してるにゃ！！

にゃん太。ねこまんま、どうぞ、めしあがれ！

わーい。バクバク、むしゃむしゃ。おいしいにゃ！

えへへへっ。パクパク。おいしいね！

にゃはははっ。むしゃむしゃ。ごっくん！　むしゃむしゃ。ごっく
ん！　むしゃむしゃ。ごっくん！　むしゃむしゃ。ごっくん！

にゃん太、お髭にごはん粒ついてるよ。ひよい。パクツ。もぐもぐ。

ありがとにゃ、メルルのほっぺにもごはん粒ついてるにゃ！　ペロ
ペロ。パクツ。もにゅもにゅ。

にゃん太、ちよっとたまご焼き、食べてみる？

にゃー!!

あ~~~~ん。

にゃ~~~~ん。パクツ。もぐもぐ。うにゃ!!! 甘いにゃ! 美味しいにゃ!

砂糖入りなんだよ。

お返しにゃん! にゃん太のねこまんま食べるにゃ! にゃ~~~~ん。

えっ! はづう…(ノノノノ

爪は引つ込めてるにゃ。大丈夫にゃ。にゃ~~~~ん。

う、うん。ぱくつ。もぐもぐ。えへへっ。美味しいよ(ノノノノ

にゃー。にゃー。ぱくぱく。もぐもぐ。しちそうさまにゃん!

おそまつさま。ぱくぱくぱく。もぐもぐ。しちそうさま!

にゃはははは。じゃもうメルルは教会に行くにゃ。後片付けはにゃん太がやっとくにゃん!

あっ、もう8時が。急がなくなっちゃ。ごめんね、にゃん太。

にゃー。

バタバタ。ぱじゃま脱ぎ脱ぎ、ブラウス着たし！ ネクタイ締めたし！ スカート穿いたし！ ハンカチ持ったし！ テッシュ持ったし！

にやあああああ！！！！ みつくみにや！！！！（／／／／

ふ〜んだっ　メルルはメルルだもん　（くるくる〜と7才の幼女が体を回転させ、ツインテールの髪と、ミニスカートが舞ってパンチラ。水色と白のストライプのみつくみくなく、おパンツでしたぞっ！）

ふにや〜！！！！！！！！！！（／／／／

おとなしくお留守番してるのよ。教会のご奉仕が終わったらお手当てで晩ご飯に猫缶買って来てあげるからね！

にや！！　にや！！　わーい！！　カルカン！　カルカン！　猫まつしぐらにゃん！　にゃん太はお魚味がいいにゃ！！

うん！　じゃ、にゃん太、行ってきます〜。ボタン。

行ってにゃっしやい〜。メルル姫にゃま〜。

ルンルン、ルン。アハッ 今日もいい天気だな。お日様がキラキラと輝いてるわ エヘッ

待ちたまえ。

ふへえ？ キョロキョロ…？ ん…？ てくてく…。

キョロキョロとした君だ。ツインテールの。みっくみくの。

うにゃ？ キョロキョロ…。

余は君の頭上、50mの位置にいる。

えっ…？ あっ！ 世界樹のテッペンに誰がいる…。

とう…。くるくる。スタツ…。

はわわわわ…。

おはよう。

お、おはようなのだ…。

そちはメルルだな？

うん。おねえさん誰？

おねえさんではない。余はアベルである。男である。美しきゆえ、女に間違われることもあるが、それは失礼なことである。以後、気を付けるように。で、メルルよ今日はお前にだな…。ん？ どうした？

本当に男なの…？

うむっ。余は男であるぞ。

……。ジー。

な、なんだその目は。疑っておるのか？

疑ってないよ、サファイアさん。

……わかった。ズボン脱ぎ脱ぎ。おパンツ脱ぎ脱ぎ（／／／／

きゃっ！！ なにすんのよっ！！（／／／／

証拠を見せるのだ。余も恥ずかしいが、話が先に進まぬからのっ。

ポロン…（／／／／

わわっ…（／／／／

ほら！ どうじゃ！ 余は男であろうっ（／／／／

……お股に変なの付いてる（／／／／

しっ、失敬な…。変なのではないぞっ。これはチンチンというものだ。男にのみついておる。知らんのか…？（／／／／

うん、初めてみた…（／／／／

そ、そうジツと見るな…（／／／／

チンチンって、ちっちゃくて可愛いものなんだね（／／／／

よっ、余はまだ10才だからのう。こっ、これからチンチンも大きくなるのだっ（／／／／

ふっふん。

も、もう分かったであろう？ 余は男で…（／／／／

……。ぐわしっ！

ぎぎややややっ！…！ いつ、いつ、いつ、痛いつ！…！ な、な、なにをする…！…！ なぜ触るっ！…！ い、いや、なぜ握り締めるのだっ！…！ それも躊躇なく、思いつきり…！…！ 信じられんわ…！…！ 離すのだっ…！…！

うん…。ハシッ…。

うっうっ。酷いぞ…。余のチンチンが吃驚して縮んでしまったではないか…。

触ったらいけなかったの？

当たり前だっ！！ メルルも触られたら嫌であろう？ 同じことじや。

メルルはそんなの付いて無いけど。

無くてもだ。そちも誰かにお股を触られるのは嫌であろう？

うん…。嫌だ…。ごめんね、チンチンさん。

……余のチンチンに謝るのならともかく、余の顔を見ながらそう謝られると違和感があるのう。余はチンチンではない。チンチンというのは余の下半身の名だ。余の名はアベルだ。

アベルさんの下半身はチンチン。

あつ。いや、そうではなく…。むうつ…。余の説明が不十分であったな…。チンチンはこの部分だけだ。

これも？

下はタマタマだ。上がチンチンだ。そして余の名はアベルで、そちの名はメルルだ。よいか？ 覚えたか？ ああ…。メモするのか…。うん…。よい心がけだが…。

たまたま…ちんちん…書き書きと。

くくくつ。違います。メルルさま。上から、チンチン、タマタマの順でございます。逆でございます。

そ、そつか…。消し消し。ちんちん…たまたま…書き書き…って、アンタだれ？

くくくつ。わたくしでございますか？ わたくしの名はサキエル。
アベルさまの執事にございます。ああ、ちよつと失礼。大切なお話
がございますのでメルル姫は少しお眠り下さい。……パチッ

ほえ……。ぐう……。ZZZZZZ……。ZZZZZZ……。

……なんの用だ。サキエル。

くくくつ。王子、生き残った村人達が教会に結界を張って立て籠も
ってしまいました……。

……あのような連中の結界、お前なら簡単に崩せるであろう？

くくくつ。出来ますが、先ほど降伏したいとの申し出がございまし
て……。一応、王子にご報告とご確認を……。

……計画に変更はありえぬ。降伏は無視せよ。結界を崩し、中にい
る全員を殺せ。

くくくつ。殆どが非戦闘員でございます。女性もおりますが。

くどい……。殺し終えたら焼却魔法でこの村の全てを焼き尽くせ。地
下室もあるかも知れん。探知魔法を使ってぬかりなくな……。

くくくつ。御意。

……行け。

くくくつ。催眠解除。……パチッ シュタッ！

ん？ あっ、あれ？ あたし…。

……メルルよ。立ったまま寝てはいかんぞ。ああ、よだれが出ておるのう…。ハンカチで拭き拭き。

わわわっ…（／／／／

よし…。綺麗になった。

あ、ありがと…（／／／／

夜更かしは程ほどにせねばいかん。よい子は早寝早起きである。

メルルは夜更かしなんかしないもん！

嘘はいかんぞ。ゆうべは夜遅くまで遊んでおったではないか。

……。

どうした？

……どうしてそんなこと知ってるの？

ふふん。余はメルルのこと何でも知っておるぞ。そちはルーン1番の美少女として余のハーレム候補の筆頭となっておるからのう。

ハーレム？ ああっ！ アベルって、アベル王子！？

やっと気付いたか。そうだ。余はこの国の王子、アベルである。メルルよ。今日ここに来たのは他でもない。そちに余のハーレムへ入

る榮譽を与えようと思つてな。

オプーナさん。それは…

アベルだ。

アベルさん。それはお断りします。

なっ…。何故じゃ！ 余は王子であるぞ？ 美形で最強の男でもある。何が不満だというのじゃ。

えーっ。だつておチンチン…

待て…。その後続く言葉が非常に気になるところであるが、後で伺おう…。教会からレポートしてくる奴がいる…。サキエルめ、しくじつたのか…？

…パチツ　　ハアハア…。

あっ！！ シスター！！

メルルか…。ハアハア…。まだ賊に連れ去られていないなんて僥倖だわ。ふふふっ。神のおぼし召しかしら。それともお前のグズなところが役に立ったのかしら。

うっっ…。

どこも傷付いてない？

は、はい。だつ、大丈夫です…。でもシスターは酷い怪我…。

まあね…ちよつと油断したのよ…。ハアハア…。クルツ…キツ！
その女！あのサキエルとかいう賊の仲間か！

キヨロキヨロ…。んっ？余か？女とは余のことであるか！？
余は男であるぞ！！むう…。王都のAPCでオシャレに男らしい
服で揃えたというに…。青のカーディガンに、クールネツクのシャ
ツに、ニューキュアのデニム…。メンズノンノで最高にダンディー
と書いてあったというに…。田舎者はこれだから嫌なのだ。

メルルは渡さないわ…。ハアハア…。いでよ！トールハンマー！
……パチツ ……コロン…。

ふんっ！小賢しいわ。いでよ！雷剣！……パチツ - +
- - - - バリバリ…。

あはははっ。雷剣ですって？そんな駄剣で私のトールハンマーに
勝てるんでも思ってるの？

むうっ…。確かにその神具…本物のようであるが…。

当たり前じゃないの。真正正銘の神具よ。剣、鎧、盾、どんな武器
もこのトールハンマーは打ち砕くわ。お前は私の攻撃を受けること
さえ叶わない。そしてこの間合い…。外すこともありえない！！
ブルン〜ブルン〜ブルン〜ブルン〜悪党、覚悟せよっ！！

緊急結界発動…。

あはははっ。簡易結界如き！！とりゃ〜〜〜っ！！！！神罰を
受け滅せよ！！！！

三 三 三 がきくくくん！！ 三 三 三

なっ、なにっ！？ はじかれただど！？

……トールハンマーは相手の武器を破壊し、肉体を強化するシールド魔法をも粉碎する最強の武器ではある……が、バリア結界だけは壊せぬ……。ふん、お前はそんなことも知らなかったのか？ 無敵の武器などこの世に存在せぬわ！

そ、そんな、だってコレは……。

神具は使い手の絶え間ぬ努力の果てにその致命的弱点を補ってはじめて意味のあるものへと昇華する。お前はトールハンマーを武器としてではなく、己の権威付けの為に手に入れたのであろう。そのような脆弱なものが実戦で通用するかよ。

い、いや……。来ないで……。ガタガタ……ブルブル……。

お前は余に神罰を下すと言ったな。ふざけおつてからに。罰とは神ではなくエロスの頂点に立つ余、アベルが下々を裁き下すものである。

ア、アベル！？ アベル王子さまにございますか？？ そ、そんな……。し、しらなかつたのです。た、助けて……。わたくしは……ただ……。ガタガタ……ブルブル……。

余が名乗る相手は次の内のどれかじゃ、我の妃となる者。我の臣下となる者。そして我に殺される者だ。そちを余の妻や臣下にする気はないぞ。

いやっ…いやっ…。殺さないで…。助けて…。お慈悲を…。ガタガ
タ…ブルブル…。

シスター！！ アベル、やっ、止めてよっ！！

睡眠魔法発動…。 ……パチッ

……パチッ くくくっ。王子すみません。こちらにひとり逃げて
来ませんでしたか？ んんっ？ おやおや、これはこれは…。くく
くっ。お綺麗な女性でありましたのに、このように、こんがりと、
まっ黒こげとなられましたか…。くくくっ。そしてメルルさまは夢
の中にございますか？ くくくっ。どのような夢をみておいでなの
でしょうな…。

……サキエルよ。村の焼却は余が行う。お前はメルルとそこに転が
っておるツールハンマーを回収して直ぐに城に戻れ。後は手筈通り
だ。

くくくっ。王子、どうされたのです。まさか村人の埋葬でもする気
になったのでございますかな？ くくくっ。

何を馬鹿なことを…。お前の失態の尻拭いはもうウンザリなのだ。
最初から余ひとりやっておれば良かったわ。 ……何をしておる早
く行け。

くくくっ。仰せのままに…。

ううんっ…。んっ？　ここ何処？　はうう…。ふわふわのベッド…。オロオロ…。キヨロキヨロ…。部屋が広い…。天井も高い…。何か絵が描いてある…。天使かな…。あつちにはシャンデリアがある…。初めてみた…。キラキラして綺麗…。

くくくつ。あまり上を向いておられるとおクビが疲れてしまいますよ。

キヤッ！！

くくくつ。やっとお目覚めになりましたか、メルル姫。10時間もお眠り続けられましたので、わたくし心配致しました。くくくつ。このまま永遠に目覚めぬのかと。

ひ、ひめ……。？　って、アンタ…。サキエル…。

くくくつ。はい、先ほどは失礼しました。わたくしサキエルにございます…。サララ砂漠の小さな国で公爵などしておりますが、今はアベル王子のお世話役をさせて貰っております…。

おまえたち村を襲ってシスターを…。

くくくつ。メルル姫、貴女さまのように可憐な乙女がそのような怖い顔をしてはいけません。心を穏やかにニッコリと微笑みなさるようにな、いまお紅茶をお持ち致します。スイーツはなにがよろしいですか。ドーナツは好きですか？

シスターはどうなったの！

くくくつ。彼女はお亡くなりになりました。雷剣のイカズチを受けて真っ黒こげにございます。くくくつ。

酷い…。酷いよう…。うう…っ…。

くくくつ。王子に剣を向けたのです。本来なら拷問の上、筆舌に尽くしがたい程に残虐な方法で殺されてしかるべきでございます。しかしアベル王子はお優しい方でございますので…。くくくつ。メルル姫が羨ましゅうございます。あのような偉大な魔法使い…。神の如き方の妃となられるのですから。

あたし村に帰る！

くくくつ。メルル姫の村はもうございません。メルル姫の家もございません。帰る場所など何処にもございません。

メルルは家に帰るもん！ じゃん太があたしの帰りを家で待ってるんだもん！

くくくつ。わたくしはじゃん太という方を存じませんが、残念ながらお亡くなりになられておられる筈です。わたくしが村人全員を天国へお送り致しましたので間違いございません。

ううう…。なんてことを…。お前らは悪魔だ…。うう…っ…。ヒクッ…ヒクッ…。

くくくつ。お諦め下さい。メルルさまの思い人はもうこの世におられません。

生きてるもん…。

くくくつ。メルルさまの心の中に…で、ございますか？ くくくつ。メルルさまはロマンティストにございますなあ…。

にゃん太は人じゃない…猫だもん！ だから生きてるんだもん！

くくくつ。ほほう…。にゃん太殿は猫にございましたか…。わたくし猫は殺めておりませんので、それなら僅かながら希望がございません。

ヒクツ…ヒクツ…。

くくくつ。しかしアベル王子は村を消し去る際にメギドの火を使つたと仰つておられましたからなあ…。

メギドの火…？

くくくつ。はい。究極攻撃魔法のひとつにございまして…。火が火を生み増殖し、10km半径が紅蓮の炎に包まれ、その燃え上がる炎は成層圏にまで達するといえます。くくくつ。にゃん太がこの魔法に耐えられたなら、猫を超えた猫、スーパーニャンコの誕生でございますぞ。

あんた達…絶対に許さない…。

くくくつ。メルルさまは酷い勘違いをされておられます。我々はメルルさまに恨まれることをした覚えは一切ございません、寧ろ感謝して貰いたいくらいで…。

ふざけないで！

くくくつ。ではきちんと説明を致しましょう。シスターというあの女は善人ではありません。人攫いの総元締めでございます。方々から幼い子らを攫っては魔法で記憶を操作して育て、年頃になれば売春宿に女郎として売り渡す大悪党。王子とわたくしは貴女さまをこの城にお出迎えするついでにゴミ掃除をしたまでのこと…。

うそっ！！

くくくつ。本当にございます…。催眠魔法発動…。 ……パチッ

あ、あれ…？ からだが…。ボタン…。

くくくつ。北の遊牧民族ハイラルの族長の娘でルーン一番の美少女だと噂される貴女さま、メルル姫さまに会うために我々はハイラルの地へ向かったのですが、既に連れ去られていたのです。ハイラルという名を覚えてないですか？ 洗脳魔法発動…。 ……パチッ

ハイラル…。

くくくつ。はい…。ほおーら、よく思い出してごらんなさい…。

そういえば…。ハイラル…。どこか懐かしい響き…。

くくくつ。北の大草原にございます…。羊が1匹、羊が2匹、羊が3匹、羊が4匹…。

羊さんが一杯なのだ…。

くくくつ。メルルさま、お父さまやお母さまの顔を思い出せますか？

お父さん、お母さん……。うつつ……。思い出したのだ……。あたしはメルル姫なのだ……。でも、でも……。

んっ……。？ どうなされたのございます……。？ どうしてこの安らかな記憶を受け入れられないのです。

あなた達にはゃん太を……。にゃん太を……。

くくくつ。そのような猫、本当にいたのでございますか？ わたくしが村に入ったときにはネズミの気配はいくつか感知しましたが、猫の気配など一匹もございませんでしたよ？ もしや、にゃん太とは、村に監禁されて心細くなった貴女の作り出した幻想ではないのですか？

ええっ……。に、にゃん太は、い、いるもん！！ きよ、今日だつて一緒に朝ごはん食べて、後片付けしてくれるって、そういつてあたしを送り出してくれたもん……。にゃん太はあたしの王子さまだもん！！

くくくつ。猫がどうやってごはんの後片付けをするのですか？

ええっ……。？ そ、それは……。あつ、あれ……。？ にゃん太は……。にゃん太はミクちゃんが好きって言って、あたしの髪をツインテールにしてくれて、それで、それで、あたしに、いつてらっしゃって……。

くくくつ。メルル姫、お気を確かに……。

へえ？

猫は喋りません。

……。ガタガタ…ブルブル…。

くくくつ。猫はにゃーとしか鳴きません…。

にゃん太は、あたしのにゃん太は…。幻…？ ガタガタ…ブルブル…。

くくくつ。シヨックなのは分かります。不安になられる気持ちも分かります。しかしメルルさま、北の草原には貴女さまのご両親がおります。お友達も沢山おられます…。幻想から現実へ…。メルルさま、今が目覚めるときでございます。勇気を出して現実をお受け入れ下さいませ…。

現実…？

くくくつ。あなた様はメルル姫。人攫いに記憶を消されて村に幽閉されていた。喋る猫などこの世にいない…それは寂しさが生み出した幻想。これが現実でございます。

あたしは…。メルル姫…。

くくくつ。ハイラルの姫でございます。

にゃん太はいない…。

くくくつ。幻に…います。

あたしはシスターに囚われていた…。

くくくつ。わたくし達がお救いしました。

そっか…。

くくくつ。少し落ち着かれましたか？

う、うん…。助けてくれて、あ、ありがとうなの、です…。

くくくつ。礼なら王子に言って下さい。私は貴女様をお救いするのは配下の者に任せるべきだと進言したのでございますが、アベル王子がどうしても今すぐ自分が助けるのだと言い張りまして。

アベル王子…。

くくくつ。アベル王子はメルル姫と結婚してハーレムに入って貰いたいと本気で願っておられます。その王子の気持ちを受け入れるかどうかはメルルさまの自由にございますが、どちらにしても真摯に応えて頂きたく思います。

コクン…。

くくくつ。王子はさきほど戻られて、只今政務室で内政をしております。もう直ぐこちらに参りましょう。それまで…そうでございますね…。この部屋の奥に露天風呂がございますので姫は湯浴みでもして汗と汚れを落とされて下さい。後でドレスをお持ち致します。

う、うん…。

……どうだ。メルルの洗脳は上手く行っておるか。

くくくつ。お任せ下さい王子。所詮は魔法抵抗ゼロの小娘でございますので、ただの田舎娘である自分をハイラルの姫君だと信じ込んでおります。

ハイラル？ なんだそれは。

くくくつ。架空の世界でございます。メルルさまはおとぎの国のお姫様ということぞ。

……あまり強い洗脳は止めておけ。頭がパーになつては困るからな。

くくくつ。ご安心を。わたくしの洗脳魔法は完璧ゆえ…。

洗脳は後どれくらい時間が掛かるのだ？

くくくつ。ほぼ終えております。ただ想定外の事態がございます、王子へご報告に。

さつき完璧だといったばかりではないかっ！

くくくつ。いえそれが、メルルさまは人の言葉を喋る猫と一緒に暮らしていたなどという不可解な記憶を持っておられます、もしかや精神に異常があるのかと思ひ洗脳を中断した次第でございます。精神科医の診察を受けるまでその記憶は残すべきかと…。

むう…。

とはいえ、わたくしが先ほどメルルさまに掛けた洗脳は村を否定するもの…。村の暮らしを肯定させる猫の記憶を消さねば洗脳を定着させることは叶いません。

猫のう…。

くくくつ。メルルさまはその猫に大変強い思い入れがあるようでございます。

…その記憶を消すと洗脳は完成するの…？

くくくつ。はい。

わかった。ではそれは後で余がやっておこう。サキエルよ、ご苦労であつたな。礼を言うぞ。

くくくつ。王子がわたくしに労いの言葉を掛けて下さるとは。くくくつ。珍しいこともあるもので…。

ふははははつ。メルルがハーレム候補として余の城におるのだ。気分は最高じゃ。

くくくつ。メルルさまはみつくみくでございますからな。

うむつ。余の好みそのままの姿、まさに天使である。メルルが余のハーレムに入り、ベツタリと甘えてくるところを想像すると、はあ…。余の心はキュツと締め付けられ、チンチンが驚くほどに大きくなるのだ。

くくくつ。精通が始まったばかりの性に飢えた男子の前に、あのよ
うな美少女が現れれば、確かにおチンチンは、魔力を通したオリハ
ルコンのように熱く硬くなりましょう。しかしエロスは問題山積に
ございますので、今はお仕事の方に精を出されて下さいませ。なん
でしたらこの不肖サキエル、王子のオリハルコンをお鎮めしてさし
あげますが…。

余はそういう冗談は好かん。

くくくつ。いえいえ冗談ではなく…。

ならば尚のことじゃ。最近そちが余を見る目は少し常軌を逸してお
るぞ？ 怖いわ。余は男であり男に興味はない。忘れるな、余はゲ
イではない。良いか？ それに内政はちゃんとやっておる。公私混
同はせぬ。今日の分の仕事はもう終わっておるのだ。

くくくつ。王子…。

本当だぞ？

くくくつ。ではお仕事の成果、拝見致しましょう。そちらが来年度
の財政草案にございますか？

うむ。読んでみよ。バサツ。

はい。ペラペラっと…。くくくつ。諸侯の財政難を徳政令で一気
に解決するのでございますか…。くくくつ。しかしこれでは商人か
ら不満の声が…。

そうだったら不平不満を抱く者を全員牢に入れ、資産を没収して国庫へ入れるまでのこと。

くくくつ。一石二鳥にございますな。素晴らしい……。感服致しました。貴方様はまさに稀代の名君にございましょう。

世辞はよい。仕事は片付いたのだ。もうよいだろう。余はこれからメルルの味見をするぞ。

くくくつ。メルルさまはいま湯浴みの最中でございます。恩人である王子に良く思われようと肌を磨いております。しかし性交は……。

ふははははっ。安心せい。一緒に風呂に入るだけだ。

ここがお風呂場なのかな。お風呂のドラム缶どこにあるんだろ……。
広いからわかんないよぉ……。

メルルさま……。

キヤツ！！

お、驚かせてしまって、も、申し訳ございませんっ！ わたくし今日からメルルさま付きを命じられましたアプリケ（：16才：陽気で誰からにも好かれる性格だがちよつとドジなところが玉に瑕だぞっ！）と申します！ 湯浴みの準備が出来ましたので、姫さまのお体を洗うお手伝いをさせていただきます……。……。

はわわっ。い、いいよ。ひとりで出来るもん……って、アプリケさん泣いてる？

……わ、私はハーレムの姫君となられる方々に代々仕えてきた一族の娘です。今日の為に生まれて来たようなものです。姫様が私をお嫌なら別の者が姫様のお世話をすることになります……姫様を不快にして、も、もうふいわげごじやいませんでちだぁ……。わ……。ん。

はわわわっ！！！ ち、ちがう。ちがうのっ！ アプリケさんは綺麗だし、いい匂いがするし、不快だなんて、そんなこと全然ないのっ！ 恥ずかしかつただけなの。あたしもアプリケさんと、い、いっしょに入りたいたいなあって。

ありがとうございます。……。あだちといっしょにお風呂にお入り頂けるのですね。嬉しいですよ……。ではメルル姫さま手を上に伸ばして下さい。ブラウスと肌着をぬぎぬぎします。

う、うん（／／／／

次はスカートをぬぎぬぎしますね。

……うん（／／／／

あらシマシマのカワイイおパンツですね。それではそれもぬぎぬぎしましょう。

……（／／／／

どうしたのですか？ 足をそんなに閉じてはおパンツをお下げ出来ないのです。大丈夫ですよ……。お開きください……。

……う、うん。おずおず……（／／／／

……はい、では、ぬぎぬぎしますね。スルスル〜っと。

ひゃああああっ……（／／／／

では、おみ足をお上げくださいませ……右足……左足……。はい脱げました。ああっ……。メルルさまのおパンツお綺麗にございます。

クンカクンカ、うん。健康児のよいお匂いでございます。

はわわっ……。はわわわわわわわわ……。やめっ、やめっ、やめてよっ……！ もっ、もっお風呂入ろうっ……！（／／／／

はい。では姫さま、この扉の向こうがお風呂場となります　ガラ
ガラ~~~~と。

.....えっ？　ええっ！？　きゃあああああああああ！
外から丸見えじゃない！！（／／／／

露天風呂ですから

やだあ~~~~っ！！

うふふふっ。メルルさま、そのようにお体をくねらせて、お胸やお
股をお隠しになると、余計エッチにございますよ

だって...だって...。ううっ...。アプリケさんもはだかなのに恥ず
かしくないの...？（／／／／

ここは外からは覗けないように魔法が掛けられていますので、ご安
心下さい。

すぐ向こうに沢山ひとがいるんだけど...（／／／／

あれはデルタ地方の中学校から来た修学旅行生ですね。隣の空中庭
園を見学しているのでございましょう。大丈夫です。いくら近くて
も向こうからこちらは決して見えることはございませんので、お気
になさらないで下さいませ。

全員こつちを見てるような気がする...（／／／／

うふふっ。気のせいです。メルルさまのおからだは私しか見ており

ませんので、そのようにお隠しする必要はございません。さあ、恥ずかしくらずに、お胸やお股から手をお退け下さい。

うん…。おずおず…（／／／／

はあ…。お綺麗にございます…メルルさま…（／／／／

……あれ？

どうされたのですか？

なんか向こうですごく騒いでる…。

そうですね…。まるでこちらが見えているみたい…。あれっ？

はれっ？ ああっ！！ い、いけないっ！！ 遮光・防音魔法、緊急展開！！ ……パチッ

……アップリケさん。まさか…。

……す、すみません。魔法を掛け忘れておりました…。

うううっ…（／／／／

はうう…。な、泣かないで…。オロオロ…。オロオロ…。そ、そうだ、メルルさま、お外の景色を変えてみましょう。魔法発動……特殊能力…遊星ニビル、皆既日食… ……パチッ

あつ。暗くなった…。はわわわわっ…。すっ、すごい！ お昼なのに星さまが出てる…。

(よかった…お気分が…)こんなことも出来ますよ　メテイオ…
散！！　　≡　≡　≡　≡　≡　≡　≡　≡　≡　≡
≡　≡

わっ、わわわっ、お空に流れ星がいっぱい！

うふふっ。そのようにお目をキラキラと輝かせて…メルルさまは
星さまがお好きですね…。

うん！

それはようございました。…ではメルルさま。おからだを洗います
ので、こちらにお座り下さいませ。

……。

どうなされました？

そのイスなんか変だよ。真ん中がくぼんでる。

ああ、これはお風呂用の椅子なのでございます。おからだを洗いま
く作られているのですよ

へー。そっか。よいしょっと…。えへっ。メルルこんな椅子初め
てだよ。面白いけど、ちょっと座り難いかも…。

ではメルルさま　おからだをお洗いますね

よ、よろしくなのだ…。

スポンジでお腕をゴシゴシ、ゴシゴシ。ああ…。メルルさま、お腕、
綺麗ですわ…。

…… (/ / / /

スポンジでお胸をゴシゴシ、ゴシゴシ。ああ…。メルルさま、お胸、
綺麗ですわ…。

…… (/ / / /

スポンジでお腹をゴシゴシ、ゴシゴシ。ああ…。メルルさま、お腹、
綺麗ですわ…。

…… (/ / / /

スポンジでお背中をゴシゴシ、ゴシゴシ。ああ…。メルルさま、お
背中、綺麗ですわ…。

…… (/ / / /

スポンジでおみあしをゴシゴシ、ゴシゴシ。ああ…。メルルさま、
おみあし、綺麗ですわ…。

…… (/ / / /

ああっ…。メルルさま、ほんとうにどこもお綺麗でございます。っ
っっっっっ (/ / / /

ひゃ~~~~んっ！ アプリケさん、くすぐりたいよう！ (/ / /

す、すみません、あまりにメルルさまの肌がお綺麗で、っ、つい…。
(/ / / /

うううっ… (/ / / /

はあ…。こんなに滑らかで(すべすべ)…吸い付くようにモチモチしたお肌…。信じられない…。うっとり… (/ / / /

はううっ…。も、もうお湯に浸かろうっよう… (/ / / /

いえ、まだまだ終わっておりません、メルルさま。王子さまの前に出るからには、おからだの隅々までお綺麗にしないとけません。お股の方も丁寧に洗いませんと…。

えっ!？ い、いいよ。そ、そこは自分でやるから (/ / / /

お任せ下さい、えいっ! ゴシゴシ、ゴシゴシ

キャ〜〜ッ! やんっ。アップリケさん、やめっ…うめっ…。
あ…っ…。んああ…。あんっ…。あん…。ああ…あっ…っ… (/ / / /

うふふっ。この椅子はここを洗うのに便利なのでございます
ゴシゴシ、ゴシゴシ

あんっ…。もうやだ…。もう…。ああっ…。うはあっ…。あっ…。
あっ…。ああ…。やああ…。ああ…。あっ…。あっ…。あっ…。
やん〜〜っ (/ / / /

メルルさま…こちらの方も…。ゴシゴシ、ゴシゴシ

やだっ！！ 駄目だよっ！！ 汚いよっ！！（／／／／

ですからお綺麗にするのでござます。ゴシゴシ、ゴシゴシ

うあっっ…。あ…。うあっっ…。やっ。はうっっ…。やあっ
…。うっっ…。はあっっ…。うっ…。うっっ…。（／／／／

ゴシゴシ、ゴシゴシ　　ゴシゴシ、ゴシゴシ

うあっっ…。あっっ…。はうっっ…。うっっ…。あっ…。あ
ん…。やああん…。いやっ、ああ…。やっ、やっ、やっ、やっ
…。ふああん（／／／／

はい。お綺麗になりました

はうっっ…（／／／／

ではメルルさま、次に頭を洗いましょう。シャンプーをつけて…。
ゴシゴシ、ゴシゴシ、メルルさま、お痒いところはございませんか？

ふるふる…。

ではお湯でお流しします…。ザッバ〜ン！

うっっ…。

うっふふっ。これで全身ピカピカでございます。お風呂でお綺麗に
なられたメルルさに王子さまはメロメロですよ

……（／／／／

まあ、メルルさま真っ赤になられて。王子さまのことがお好きなのですね…。

好きってどうか…。そういうんじゃないくて…。王子、危険を冒してあたしを人攫いの村から助けてくれたんだ…。だから、いいひとなんだなって、思うの…（／／／／

あの方は困ってる方をお見捨てにはしない、とても心のお優しい方にございます。その上にお美しいですから。王子はモテモテなのです。

うん、綺麗…。（お股に変なの付いてたけど…）女の子みたいだった（／／／／

アベル王子さまは間違いなくルーンで一番の美少年にございます。女性でもあそこまで綺麗な人、私はメルルさま以外に見たことがございません。サラサラの髪は黄金の色で、クリリとした瞳は愛らしく薄い琥珀色しております。背もスラリとしてまだ10才だというのに超カッコいいのです。……ああ、姫様、羨ましいです。王子のハーレムに入ってご寵愛を受けるなんて凄く栄誉なことなのですよ？

優しくて美しい王子のハーレム…。栄誉なこと…。でも、あたしはにゃん太のハーレムに入りたかった…。

えっ？

う、ううん……。なんでもない……。

……もしや王子のハーレムに入るかどうか悩まれておられるですか？

うん……。あたし、王子と結婚して上手くやっていけるのかな……。

美男美女、お似合いのカップルですよ。

容姿なんて結婚に関係ないと思う……。メルルね、王子には感謝はしてるけど、でも怖いんだ……。だってシスターを……。ガタガタ、ブルブル……

メルルさま……。抱きっ！ ギュッ！

アツプリケさん……。ギュッ！

王子は悪党を退治しただけです。

……王子はどういう人なんだろう。あたし王子のこと全然知らない。王子もあたしのこと知らない……。

これからゆっくりお互いを知り合えばよろしいのです。大丈夫、王子さまもメルルさまもどちらもとて暖かな心をお持ちにございますので、お互いがお互いを幸せにしてくれる筈です……。

そっかな……。

そうですね……。さてメルルさま、おからだもお綺麗になりましたので、お湯に浸かりましょう。おからだも温まればお心も温まります。嫌なことも忘れれます。王子さまのことは後でゆっくり二人で

お話しをなされて、それからのございます。嫌ならハーレム入りを断ればよいのです。強引に王子がメルルさまのことを自分のものにしようとするなら、アップリケは王子の頭上に流れ星を落としますので、ご安心下さい。

うん…。ありがとうございます。アップリケさん…。

私はどんなことがあるうとメルルさまのお味方です…。チュッ…)
／／／／

はううっ…(／／／／

で、ではメルルさま、浴槽に…。湯加減も…あっ…。いけない…。

ふえっ？

お腕、お頭、お背中、お腹、おみ足、お股、ひとつお洗いするのを
忘れたところが…。

ん？ キョロキョロ…。もう洗うところなんてないよ？ メルルぴ
かぴかだよ？

この奥にございます。ピシッ…！

えっ！？ ええっ…！！！！！！ い、いいよ、怖いよう…(／／／／

駄目です！ ここも綺麗にしないと。万一、王子さまの目に触れたらどうすんですか。メルルさま、ほら…これで奥の奥まで綺麗、綺麗、しますよ。

わぁ…凄く小さくて細長い歯ブラシだね…って、きゃあああああ
あああああ！…！ ちよつと嫌だ！ 止めてよっ！ あっ…
！！ やあっ…！！ いやぁ…！ やあっ…！！（／／／／

危ないですから暴れないで下さいね。ほらここに垢がくっ付いて…。
こちらにも…。ほじほじ。ほじほじ。ほじほじ。

やんっ！！ あぁん！ やぁん…あっ…。はぁう…。うぁっ…あっ
！ ああっ、あっ…。やあああああだあっ！！ ああっ…。あっ
…あっ…あっ…（／／／／

あまり奥をお掃除すると膜を傷つけてしまいますが、すぐ手前に大
きな垢が…。メルルさま、動かないで下さいまし…。ほじほじ。ほ
じほじ。うっう…取れません…。ほじほじ。ほじほじ。ほじほじ。
ポロリン…。あっ、取れました、取れましたよ、姫様！！

…（／／／／

ふっふっつと、はい、お耳掃除が終わりましたよ。これで完璧で
す。ではお湯に……って姫様？ 姫様…？ どうなさいました姫様
？ 姫様！？ メルル姫さま！？

ガラガラガラ〜と、ふははははは。メルルよ。一緒に風呂に入りに来たぞ！ 見よ！ このチンチンを！ この前とは違うであろう！ これでもう余に不満は……って、誰もいないではないかっ！ 誰かおらぬのかっ！

シユタツ！ お庭番、蓮華（：16才：エロス家に仕える影の一族の末裔、アツプリケの幼馴染だ。ルーン最強の天才くの一忍者だぞっ！）ここに。あっ…（／／／／

あっ…（／／／／

……………（／／／／

……………（／／／／

……な、なんじゃ蓮華。こ、こつちをジロジロ見るな……。しっ、しっれいであるぞっ（／／／／

すみません。あまりに可愛いおチンチンでありましたので見とれてしまっ…。

はああ！？ かつ、可愛いだと！？ こ、これでも駄目と申すかっ！！（／／／／

いえ駄目という訳では……。蓮華の心は癒されました。王子のおチンチンは例えるなら野に咲くエーデルワイスにございます。

ばっ、馬鹿にしおつてからに……。み、みておれ……。いつかお前が感嘆の声をあげる程に大きくなってみせるわ！ そう、北の樹海に聳えるメタセコイヤの巨木のようになっ！！（／／／／

はあ……。王子、馬鹿いつてないでさっさと用件を言っして下さいよ。そのエーデルワイスを愛でればよいのですか？

違うわ！ メルルは何処だっ！！

お風呂にのぼせて医務室へ連れて行かれました。

なっ！？ だっ、大丈夫なのか？

体を冷却する医療魔法を使って手当をしております。医師の診断によればあと半時ほど横になっていれば回復すると。

そうか……。仕方のない奴だな。心配掛けおつてからに……。

……。

なんだ？

いえ……。そのようなお優しいそうな王子の顔を今まで見たことがなかったもので。少し妬けてしまいます……。

心にもないことを。

……私は以前から王子をお慕い申しておりました。是非とも私をハイレム候補に選んで頂きたい……

からかうな蓮華。先週結婚したばかりの新妻が言う台詞ではないぞ。

あはははっ

ふん。お前と佐助は幼い頃から家が決めた許婚の仲であったな。好き合ってもいた。夜の方はどんな感じなのだ。

いやー。あいつ毎晩毎晩、激しくて激しくてこちらの体が持ちませんよ…って何を言わせるんですか！（／＼／＼

余はハーレム作りなどしておるが、性についてまるで経験がないのだ。聞かせてくれい。

い、や、で、す。……でも王子には本当に感謝しています。隠密で諸国を飛び回っていたアイツを本城に呼び戻して、しばらく私と一緒に居られるようにお心遣いをして頂けるなんて……。ありがとうございます。ペコリ。

勘違いするな。ハーレム候補の選定で城の人材が足りなくなっただけだ。ふん。メルルがおらんとは詰まらんぞつ。興が醒めてしまった。お前は風呂にでも入っておれ。余は部屋に戻る。

……王子、これを。

んっ？ 花ではないか…。綺麗なものだな。

はい。今朝、お庭で咲いていたフォーチュンの花を一輪…。部屋に戻るついでに医務室でこれをメルルさまにお渡し下さい。私は王子のお言葉に甘えて湯浴みを致しますので。

……そうか。礼を言つぞ蓮華。

はい

よかった…。36.4 お熱がやっと下がられたわ…。でも汗をこんなにかいてしまっただけはお体が冷えてお風邪を引いてしまう…。
そうだ、姫さまを起こさないように、そっと、そっと、このタオルで汗をお拭き取り致しましょう。姫さま、おパジャマを脱ぎ脱ぎしますね。メルルさま…。メルルさま…。ばんざーいです…。

むにゃむにゃ…。ばんじゃ〜ひ…。むにゃ…。

おパジャマ脱ぎ…脱ぎ…。

ああうう…。

おパンツも脱ぎ脱ぎしますね。メルルさま…。メルルさま…。お腰を浮かせてくださいな…。

う、うん…。うにゃああ…。むにゃむにゃ…。

おパンツ脱ぎ…脱ぎ…。

はああう…。

ああ、やはりどこも凄い汗だわ…。姫さま、失礼します。お胸を、拭き…拭き…。

んっ…。あう…。ああんっ…。あん…。あうう…。はあ…。あん…。
あん…。

お腹を、拭き…拭き…。

ひゃん…。はうあっ…。んっっ…。んっ…。んっっ…。んっっ…
…んっ…。

次はお背中です。うつ伏せになるように、ゆっくりお体を廻して…
…。メルルさま…メルルさま…コロコロコロ、リン

ふにやあああ〜っ！ う、うんっ…。むにゆむにゆ…。むに
やむにや…。

…は、はう。目が覚めなかつたみたいです。よかったです。あ
あ、姫さまのお背中、珠のような汗で一杯です。よしっ。タオル
でお背中を、拭き…拭き…。

うっ…うっ…うん…。うん…。うあ…。んあ…。うう…うん
…。

…すみません姫さま。姫さまが倒れるまで体調の変化にお気付き
することが出来ませんでした…。私が不甲斐ないばかりに、こんな
苦しい目に合わせてしまって…。ひっく…ひっく。…駄目だ…
…駄目だよアツプリケ。泣くのは後。反省するのも後よ。今は姫さ
まの体調を回復することだけを考えないと…。でも…グズツ…グズ
ツ…。うっっ。次はお尻ですね…。ああ、姫さまのお尻、プリン
みたい…。って、わ、わたしは、な、なにを考えているの。せ、誠
意を込めて…お尻を、拭き…拭き…。

はうう…。うっっっ、あっ、はううう…。あっ、はうううっ…
…。あんっ、あんっ、あんっ、あんっ…。

真心も込めて、お尻を、拭き…拭き…拭き…拭き…拭き…
うう…んう…うう…うう…うう…うう…うう…ん
…ん…ん…うう…んあ…ん、ん、ん…
ふうつ。次はお股ね、メルルさま…メルルさま…お拭きし易い
ように、うつ伏せでお尻を突き出した状態にしますよ…。姫さまの
お尻を、よいしょ。持ち上げて…。

うううん…。

姫さまの両足をカエルさんのように大きく広げて、よいしょ。膝か
ら曲げ曲げして、よいしょ。…うん、よし、お尻を浮かせて安定
したわ。

ん、んんん…。

さてと…。あれっ？ 姫さまのお股、汗をこんなに沢山かいておら
れる…。蒸れちゃったのかな？ 早く拭かないと…。お尻の後だ
からタオルを変えてと…。では姫さま、失礼します。お股を、拭き
…拭き…。

うう…うん…うん…うん…うん…うん…うん…うん…
うん…うん…。

お股を、拭き…拭き…。あれっ…？ 汗がまた…。拭き…拭き…。

あっ…あ…あう…うあ…っ…あん…うむにう？ んっ！？
…うん…うん…？

お目覚めになられましたか　拭き…拭き…。拭き…拭き…。

アップリケさん…。おはよう…。ん…？　えっ！？　えええええっ
！！　きゃああああああああ！！！！　ち、ちよっと、嫌
だ！　嫌だ！　嫌だ！（／／／／

すぐに汗を拭き終えますから　拭き…拭き…。拭き…拭き…。

ああん！！　嫌っ！！　嫌っ！！　はあっ…！！　あっ、あああっ、
っ…！（／／／／

拭き…拭き…。拭き…拭き…。

ああっ…。やああんっ…。あ…っ！　あっ！　あっ！　あっ！　あ
っ！（／／／／

はいっ　姫さま、終わりましたでございます

…（／／／／

あとはおみ足ですね。タオルをお取替えしますので少しお待ちに…
…って姫様？　姫様…？　どうなさいました姫様？　姫様！？

……お、お前ら、い、いつたい、な、なにをしておるのだっ！（／＼／＼

あっ！ 王子さま！ メルルさまがっ！ またもや突然に気を失われ……。も、もしかして、ご、ご病気なのでじょうがああ。わ〜ん。

う、うむ、いや、落ち着け、アップリケよ。今のは病気とか体調とかそういう問題ではないと思うぞ（お前は天然かっ！）

ヒクツ。ヒクツ。じ、じょうなのでぢゆか……。って、王子さまっ！ 見ておられたのならさっさと出てきてメルルさまの看護を手伝ってくれても良いではないですか！ 黙って影でコソコソとみているなんてアップリケは王子さまを見損ないましたよ！

出るに出来るかっ！ 別のものは勢いよく出そうになったがなっ！
ええっ???

ハアハア……。気が動転してつい親父ギャグでセクハラをしてしまったわ。いや余の方がセクハラを受けているような気もするが……。とにかく服を着せい。裸のままでは折角汗を拭き取っても風邪を引いてしまうぞ。

あっ！ はい！ そうですね。パジャマを、着せ着せ。お布団を、掛け掛け。ふうっ。出来た。……。うん。おでこに手を当てた感じでは今回メルルさま、お熱は出てないです。よかったのです…。

むにゃ……むにゃ……。お父様……。お母様……。

……アップリケよ。これを花瓶に活けてやってくれ。余は部屋に戻る。

……王子さま。

なんだ。

あの噂、本当にございましたか……。

何のことだ。

メルルさまの洗脳についての噂です。王子さまとサキエルさまがメルルさまの住む村を襲い、村人全員を虐殺してメルルさまを拉致したこと。そしてその事実を隠す為にメルルさまに架空の国の姫と信じ込ませるようサキエルさまに洗脳をお命じになられたこと……です……。

……余は王族だ。この国の王となる男だ。臣下の分際で主である余を愚弄することまかりならん。たとえ気心の知れたお前であっても、余は主として、私情を捨て、罰せねばならぬこともある。アップリケよ。今いったことは忘れる。余も聞かなかったことにする。お前を殺したくはないのだ。

わ、わたしはメルルさま付きを申し受けた者です！ 誰が相手でも、それが例え、王子であっても、王であっても、私は自分の命惜しさに姫さまを裏切ることは出来ません！

ふははははっ。そうか。そこまでの覚悟があるなら正直に言おう。
お前が聞いた噂は本当だ。余が村人を皆殺しにしてメルルへの洗脳
を命じたのだ。……どうしたアプリケよ。何を驚いた顔をしてお
る。ふん。今回はお前のメルルへの忠義の心に免じて許してやろう、
しかし次は…

嘘です!! 王子がそのような非道をする筈がございません! 絶
対にございません! 本当のことを仰って下さい! 何か理由が…

……パチッ

あっ……。な、なんなの…これは…。体が重くて…上手く動かない
…です。お、王子さま……。いったい何を…。

時間跳躍の負荷に体がまだ馴染んでないのであろう。直ぐに慣れる。

時間跳躍?? 王子が何をいつてるのか私には……。

余は時を操れる。余から半径2mの範囲で、3分タイムリープさせ
た。お前が話を切り出す少し前の時間に戻ったのだ。そして今、リ
ープ先の時間と我々の時間との間に生じた因果の齟齬の溝を、時の
柔軟性と整合性が埋めようとしておる。簡単に言えば、異なる2つ
の時間軸の歯車が噛み合うまでの間、一時的にリープ先の時はフリ
ーズを起こすのだ。これをタイムリープ能力から派生した余の時間
静止能力『時の神の混乱』というのだが、それはともかく、鳳凰宮
の目もここへは届くまい。静止時間は今回の場合5分といったこ
ろだ。手短に説明する。よいか。

はっ、はいっ。

村人を皆殺しにした話は本当だ。メルルへの洗脳では村人は人攫いとしたが、現実はおとぎの世界より醜悪なものでな…。アップリケよ。ホムンクルスというものを知っておろう？

錬金術から派生した技術で、無から造り出された人造人間がホムンクルスと学校で学びました。100年前にその技術は完成し、やがてホムンクルス達は主である人間に反乱を起こして世界大戦に…。多くの血が流れた結果、ホムンクルス達は皆殺しとなって、その技術は永遠に失われたと。

うむ。だが貴族や豪商の愛玩具として売り出そうとホムンクルスの復活を試みた一派が余の領内にいてな、プロトタイプが試作されるまでに開発は進んでおったのだ。…。それがメルルなのだ。

メ、メルルさまがホムンクルス…！？信じられません…。

余もだ。忌むべき存在として語り継がれてきたホムンクルスがこれ程までに愛らしく、人間らしく、暖かだとはな…。撫で撫で…。しかし、このようにさらさらと、心に響く鮮やかなアクアブルーの髪の毛の流れは、人が持つには叶わぬものなのであるうな…。

ううん…アップリケさあん…そこお…らあめえ…。むにや…。むにや…。

姫さま…。

2年前、連中の内偵を続けていた佐助からメルル誕生の報告を受け、余は退屈しのぎにそれを見に行った。切っ掛けはちよつとした好奇心だった。絶世の美少女とかいう人形をひとめ見て帰るつもりであった。…。だが余はメルルに心を奪われてしまつてな、連れて帰る

うかと思っただが、余はまだハーレムを持ってぬ。だから余の分身をメルルのそばに置いたのだ。それがこいつだ。……パチッ

にゃん太にゃ！ アップリケよろしくにゃん！

ね、ねこ…ですか？

そうだ。余の魔力と意識を一部切り離して生み出した魔法生命体にゃん太だ。余のテレパシーが途切れても勝手に動いて喋れる半自立思考型の眷属である。コイツを通して今日までメルルと擬似的にはあるが一緒に暮らしておったのだ。ふふつ。楽しかったぞ…。たまに喧嘩することもあったがな。いつの間にか仲直りしておるのだ…。2人でどんなことも隠さず話し合った。メルルは余の初めての友達であり、初恋の相手なのだ。

とことこ…。にゃー。メルル会いたかったにゃん！ チュッ（／／／

……この手に抱きしめることは出来ぬが、ハーレム候補選定の日が来てメルルを迎えに行くその日まで、我慢しようと思っただ…。…パチッ

アップリケ、さよならにゃん！ メルルを頼むにゃん！ しゅっ
くっ…

……王子。

余は愚かだった。酷い勘違いをしておった。誰もが余に好意を持つゆえにメルルも当然に余を好いてくれると、そう思い込んでいた。プロポーズすれば必ずハーレム候補になってくれるものとな。だが

結果はどうだ。余はアツサリと振られてしまったわ。ショックであった。まさかチンチンが不満であるとはな…。

おチンチン…ですか？（／／／／

うむ…。人生で初の挫折である。しかしそれでも余がにゃん太であると告げたならメルルは余を受け入れると信じておった。浅はかという他ない。そのようなこと、もう出来ぬようになってしまった。

どうしてです？

メルルの洗脳に猫の記憶は邪魔なのだ。メルルは余のことを忘れなければならぬ。

洗脳など止めて、王子が猫であると打ち明ければ良いではないですか。

駄目じゃ。洗脳は完成させねばならん。ホムンクルスであるメルルに父はおらぬ。母もおらぬ。なにもないのだ。メルルは人ならざる者が人となる為に刷り込まれた偽りの記憶の他には何も持たぬ。…だから、だからせめて、記憶だけは世界一幸福なものを与えてやりたいのだ。サキエルの洗脳魔法はルーン1番だ。メルルは永遠に醒めぬ幸福な夢を見続けるだろう。幸せな家族に囲まれて育った思い出を胸に抱き、この少女は人となるのだ。

で、では別の洗脳を…。王子を好きになり、幸せな記憶を持つように少しシナリオを変えてもう一度…。

……アップリケよ、洗脳は余を好きになって貰う為にやるのではないぞ。余の幸せの為ではなくメルルの幸せの為に行うのだ。

……。

メルルは余の親友である。人形ではない。コヤツには自分の意思で人生を選んで貰いたいのだ。……余はコヤツのことを誰よりも理解しておるつもりだ。ところが繊細で優しい奴なのだ。チンチンはともかく、ただの人殺しでしかない余を受け入れることはあるまい。とても辛いことであるが、それがメルルの意思であるというなら余はそれでよいのだ。

王子さま……。すみません、王子さまに疑念を抱いた私は大馬鹿者です……。

ふんっ……。信じてくれたではないか。余の方こそお前を騙して悪かった。エロス家のハーレムである鳳凰宮は国権の中枢でもある。その目はこの国の全てを見通しておる。この城も結界を張っておる執務室以外は全て筒抜けで迂闊に喋れんのだ。さっきもタイムリープをしなければ、お前の疑念の言葉は徹底的に解析されて真相は露見したであろう。そして鳳凰宮は人の子を産めぬホムンクルスをハーレム候補として絶対に認めぬ。……メルルに振られるならともかく、そのような下らぬ理由でメルルを余のハーレムに入れることが叶わぬのは嫌だからな……。

はい……。

そろそろタイムアウトに入る。また時が流れ始める。……アップリケよ、メルルがホムンクルスと知った今でも、さつきと変わらぬ忠誠をコヤツに誓ってくれぬか？ ……そして、もし、コヤツがハーレム候補を辞退しても、成人するまで見守ってやってくれぬか？

私はメルルさまが好きです。本当の妹のように思っています。どのようなことがあるかと私はメルルさまに生涯忠誠を誓う者です！

うむっ…。あとでメルルを余の執務室に。洗脳を完成させる。

……パチッ

メルルさま……メルルさま……起きて下さいませ……。

むにう…アップリケさぁん……じじじ……。

医務室のお布団の中でございます。先ほどまで王子さまがいらしてたんですよ。ほら見てくださいませ、王子さまからのお見舞いのお花です……可愛ですね、お名前はなんていうのかしら。

メルル知ってる！フォーチュンっていうんだよ。花言葉は……永遠の愛なの（／＼／＼／

ふふふっ。またそのように赤くなられて……。メルルさまはやはり王子さまのことが好きなのですね……。

うん……。まだお話ししたこと無いけど、王子さまの心は伝わったよ……。

姫さま、まさかさっきのお話を……。

えへへっ。夢の中で聞いたちゃった……。メルルにはお父さんやお母さんがいないのかも知れないけど、でもさびしくないよ。だって私にはアップリケさんや王子さまがいるんだもん。

ん……。メルルか……。部屋に入るときにはノックをせねばならぬぞ。
したよ？

ふむっ……。そうか……。気付かなかった。

窓の外、何が見えるの？

……。星。

……。ふん。

……。チラッ。

……。ジッッ。

なぜ余の顔を覗き込んでおるのだ。星は見ぬのか。そちは星を見るのが好きであつたらうに。

だって、ここから見える星はぼやけてよく見えないんだもん……。

……。この城は湖や森に囲まれておるが、その外は沢山の人が暮らし
ておるからな。その明かりが星の輝きを曇らせ歪めるのである。

つままない……。

何かを得るには何かを犠牲にせねばならぬ。不幸せな国ほど星は輝

く。星が曇るだけ人は幸せといえるのだ。今、余の国民は星々を凌駕する程に輝いておるのだ。だから余はこのくすんだ星空が好きなのじゃ。

あたしの村は夜空がとても綺麗だった。でもあたし自身はどうだったんだろう…。

自分は見えぬものである。

星も人も両方が綺麗に輝くことって出来ないのかな？

……出来るぞ。自分たちが見ることのない他所の星や他人を曇らせればよいのだ。見掛けは綺麗になる。

それは嫌だな…。

余は神々しく輝く夜空などいらぬ。ただの化学反応による発光に過ぎぬ。他人を犠牲にしてキラキラと輝く輩もいらぬ。下卑た光である。余は余の心を揺さぶる美しき輝きを欲す。

美しき輝き？

そちの輝きしか見たいと思わん。

はうっ…（／／／／

ん？ どうした。顔が真っ赤だぞ。

……（／／／／

何をモジモジとして……。ああ、オシッコか？ トイレなら……

違うよっ！ そうじゃなくて、あのっ、え、えっと……。たっ、たすけてくれてありがとう……。お礼が遅れてごめんなさい……。(//////
構わぬぞ。囚われの姫を助けるのは王子たるものの当然の行いである。

王子……。ちょっとしゃがんでみて……。(//////

なんだ？

チュッ (//////

……。 (//////

えへへっ。お礼のキスだよ(//////

……。メルルは余が怖くはないのか？ 余はそちの目の前でシスターを……。

チュッ (//////

……。 (//////

王子はあたしのことを誰よりも理解してるっていったけど、全然理解してないよ。

……。起きておったのか。

うん…。王子は自分がじゃん太だって言わないつもりだったの？

そちを洗脳するのが辛くなるではないか。

あたしは洗脳なんて嫌だよ…。

駄目だ。じゃん太と医務室での記憶は消させて貰う。メルルよ心配はいらぬ。遙か南の海になアルカディアという常春の島があるのだ。住民は温和な奴ばかりだ。小さな学校もある。そちはまだ海を見たことがないであろう？ 素晴らしきところだ。きつと気に入る。アプリケとそこで…

王子はあたしが自分の意思で生きて欲しいっていったじゃん。

……。

あたしはじゃん太の記憶を失いたくない。王子やアプリケさんのあたしへの言葉を忘れたくない。

……余はお前に世界一幸せな記憶を与えたいのだ。

幸せな記憶、あるよ。あたしのお父さんやお母さんの記憶は偽りだつて今は思う。夢は夢と自覚すると覚めてしまうのと同じ…。でも偽りだと思えるからあたしには掛け替えのない幸せな記憶になったの。

偽りと自覚しては意味がないではないか。

あたしを思う王子の気持ちがあるよ（／／／／

…… (/ / / /

…… (/ / / /

そ、そちは余が嫌いではないのか？ (/ / / /

そっ、そんなこと…ないよ… (/ / / /

ほ、ほんとうか？ (/ / / /

うん… (/ / / /

しかしそちはチンチンが大きくない男は嫌なのであるっ？

はうっ~~~~!! うっっ!! メルルパンチ!! ミ ミ ペ

チッ!! ミ ミ

グハッ!! ドタン~~~~!! バタン~~~~!! コロコロ~~~~
コロコロ~~~~コロコロ~~~~ズサササツ……。うっっ…何を
するのじゃ…。

メルルそんなこと言ってないもんっ!! (/ / / /

そちは余のチンチンの大きさに不満の声をあげようとしておったで
はないか。

違っっ!! 大きさの問題じゃない!! いきなりレディーの前に
チンチンを出す変態さんを好きなるかって言いたかったのよっ!!
(/ / / /

そうであつたのか。チンチンではなく、チンチン出したことが嫌だつたのか…。しかしそちはいきなり余のチンチンを握り締めたのだぞ？メルルの方が変態…。

はうっくく！！ うっつ！！ メルルキック！！ ミ ミ ペ
チッ！！ ミ ミ

ギヤッ！！ ドタンくく！！ バタンくく！！ コロコロくくくく
コロコロくくくくコロコロくくくくズサササツ……。うっつ…何を
するのじゃ…。

ついよ、つい握っちゃつたの！！ 初めて見るものって、つい触り
たくなるでしょ？（ノノノノ

そ、そうか…？ よく分からぬが、ではそちは余のチンチンが嫌い
ではないのだな？ 余のチンチンを好いておるのだな？

もうチンチンから離れてっ！ チンチンじゃなくて王子が好きなの
っ！ ……って、はううう…（ノノノノ

う、うむ…余もメルルが好きであるぞ（ノノノノ

……うっ…うっつ…（ノノノノ

メ、メルルよ、なっ、泣くでない…。いじわるをしておるのではないのだ。そちは余のプロポーズを一度断つておる。余は不安なのである…。そちの気持ちをハッキリ聞きたかつたのだ。すまなかつた。

……あのときは、にゃん太と王子が別人だと思ってたし、あたしは
にゃん太のハーレムに入るつもりだったし…。

ふむ……。あいつか。ん……。にゃん太よ、いでよ！ ……パチッ

にゃ？

にゃ、にゃん太！？ 抱きっ！！ あああ……。にゃん太…。

にゃはははっ（／／／／

……メルルは余が好きなのか、にゃん太が好きなのか。どちらなのであろう……。余もにゃん太も心は同じであるのだが、微妙に嫉妬するのう…。

王子こそ、あたしが好きか、ミクちゃんが好きかどっちなのよ…。

そ、それは……。あれだぞ……。ミクがメルルに似ていたから余は初音ミクを好きになったのである。初音ミクが好きだからそちを好きになったのではないのだぞ？（／／／／

……へ、へえ……。そ、そうなんだ…（／／／／

……（／／／／

……（／／／／

……腹減ったにゃ。

そ、そうなのう。メ、メルルよ、夕食はまだであるう？ お腹は減っておらぬか？（／／／／

う、うん、お腹すいちゃった…(ノノノノ)

では今ここにディナーを。 ……パチツ ミ ミ ポンツ

！！ ミ ミ

はわわわっ…。すごい…。お料理が沢山…。わあ…いい匂い…。美味しそう…。

にゃー。またこれかにゃん…。

あれっ？ にゃん太、あんまり嬉しくなさそうだね…。大好きなお魚料理もいっぱいあるよ？

にゃー。王子もボクも本当はメルルの手料理が食べたいのにゃ。

えっ…。そうなんだ…(ノノノノ)

なっ、お、おまえ、余の心をペラペラと。パコン！ ミ

にゃっ！？ 痛いにゃー！！ これは喋っては駄目だったのかにゃ？
それにやら伝えて欲しいみたいないな気持ちで心に思うにゃー！！ 紛らわしいにゃー！！

う、うるさい！ なんじゃその口の利き方は！ 失礼であるぞ！

ああっ…。喧嘩しちや駄目だよ。いいよ。メルルが料理作る。だから喧嘩しないで…。

グウ…。グウ…。にゃん太はお腹がすいて動けないにゃん…。メルル、早く夕ごはん欲しいにゃん…。

うふふっ……。はいはい。お台所は…。

にゃ、ほら王子、リカちゃんキッチンと食材を魔法でちゃっちゃんと出すにゃんよ！

……。……パチッ ミ ミ ポンッ！ ミ ミ

わ、わっ、凄い…。

こんなの全然凄くないにゃん！メルルの料理の方がずっと凄いにゃん！

えーっ。そ、そうかな…？よくわからないけど、お料理始めるね

にゃー！！メルルクッキングにゃー！！

王子は猫なの～ にゃん太なの～

にゃん太にゃん！

王子はパンジー お庭に可憐に咲く～赤いパンジーの花

パンジーにゃん！ チンパンジーじゃないにゃんよ？

朝になれば～王子はエーデルワイス 元気に野に咲く～白いエーデルワイスの花

……にゃ、にゃっ！？

メタセコイヤの夢みる　　夢みるる　　王子の夢はメタセコイヤ

……夢は大きくにゃ（／＼／＼

でも、でも　　あたしはフルタ製菓のセコイヤチョコレートの方が
好きなの～

駄菓子屋に30ゴールドで売ってるにゃん。

フルタ　フルタ　お尻～フルフル～フルタ

可愛いにゃん！！　メルルのお尻フリフリ最高にゃん！！

セコイヤ～　チョコ　チョコ　チョコレート～

にゃーん！！　もはや、王子でもなく、にゃん太でもなく、お菓子の
お歌にゃん！！

くるるるる。ビシッ！　ドンブリ。ビシッ！　ごはん。ビシッ！
お味噌汁。ビシッ！　ごはんとお味噌汁をぐちゃぐちゃ、明治製菓
のチョコベビーをパ～ラパラ……。アポロも入れて、はい出来た！！

す、すごいにゃ～！！　歌を歌い終わったら、いつの間にか、
チョコまんまが完成してるにゃ！！

にゃん太～。チョコまんま、めしあがれ！

にゃ～ん！！　わーい！！

食べさせてあげるね。お口、あ～ん。

にゃ〜ん。はむっ。もぐもぐ……。にゃ！〜！ おいしいにゃ！〜！

えへへへっ。王子も……。お口、あ〜ん。

う、うむ。メルルの料理、実際に食べるのは初めてじゃな……。ぱくつ。もぐもぐ……。

……どじっ？

……。

ん？ 王子泣いてるの？ 不味かった？

いや……。美味しいのだ……。

えへへへっ。ごはんは誰かと一緒に食べると美味しくなるんだよ。あつ、そういえば、あたしもにゃん太と初めて一緒にごはんを食べたとき泣いちゃったな……。ずっと昔のことで忘れてたよ……。ね、ねえ、王子、これからも一緒に食べない？ 毎日ごはん美味しいと思うんだ。ごはんが美味しいと毎日がすっごく楽しいんだよ？（ノノノ

……。

王子は泣き虫だな……。お口、あ〜ん。

んっ……。ぱくつ。もぐもぐ……。美味しいぞ。メルル。

えへへへっ……。じゃ、あたしも食べようっつ……。ん？

スプーンを余に…。

ほえっ？ ……はい。

メルル。お口を開けるのじゃ。

あっ！ うん ぱくっ。もぐもぐ…。

今度はメルルね、王子。お口、あ〜ん。

うむっ…。ぱくっ。もぐもぐ…。

今度は余じゃぞ。お口を開けるのじゃ。

うん…。ぱくっ。もぐもぐ…。

今度はメルルね、王子。お口、あ〜ん。

んむっ…。ぱくっ。もぐもぐ…。

今度は余じゃぞ。お口を開けるのじゃ。

うん。ぱくっ。もぐもぐ…。ねえ、王子…？

…んっ？

おいしいね！

うむっ…。美味しいのう…。うん…。美味しい…。メルルよ、す

まん…。

どうしたの？

余はもう我慢出来んわっ！！ 抱きっ！！

キャ〜ッ！！（／／／／

メルル…。ギュッ…（／／／／

うづうづ…。どうしてだろう、にゃん太と抱き合ってもこんな下
キドキしなかったのに…。ギュッ…（／／／／

……………（／／／／

……………（／／／／

……………メルルよ。

……………ん？

よっ、余の妃となり、余のハーレムに入れ（／／／／

はうづうづ…（／／／／

余はそちが好きじゃ（／／／／

にゃ、にゃん太、どうしよう…。メルルはにゃん太のハーレムに入
るつもりだったんだけど…。

にゃー。メルルの心のままに、だにゃ。

あたしの心のままに……。うっうっう……。王子……(／／／／

う、うむっ……。い、いやメルルよ返事は今でなくてもよいのだ。後
でゆっくり……

チュッ(／／／／

……(／／／／

まずはメルルさまのご攻略おめでとうございます王子！ 鳳凰宮の事務次官、ケルト（ : 5才：王立アカデミーに2才で入学して3才で首席卒業後、2年で鳳凰宮の事務方トップにまでのぼりつめたIQ 999の神童だぞっ！）にございます。現時点のメルルさまのステータスを表示します。

メルル（7才）おとぎの国のお姫さま

容姿： : ルックスの値（高い程よい）
教養： : 教養の値（程々がよい）
気位： : 気位の値（程々がよい）
性格： : 扱い易さの値（程々がよい）
洗脳： : 洗脳深度の値（低い程よい）
求愛： : 王子への愛（高い程よい）
寵愛： : 王子からの愛（高い程よい）
淫乱： : 変態度数（程々がよい）
身能： : 身体能力（高い程よい）
健康： : 健康状態（高い程よい）
総合： : ハーレム適正（高い程よい）

特能：みつくみく、お料理、お歌

弱点：耳掃除

お側役：アップリケ

評価：

メルルさま凄くお可愛いですね。素直でお優しく節度のあるお元気

さで、とても扱い易い女の子です。洗脳値がやや高いのが気掛かりですが、鳳凰宮評議会が下したハーレム適正の総合評価は最高の五つ星です。評議会はメルルさまのハーレム入りに7人全員が賛成。反対者は1人もいませんでした。賛成多数。よってメルルさまは王子のハーレム候補さまとして鳳凰宮で大切にお預かりさせて頂きます。

あと9人で王子のハーレムは定員になります。残り日数は5ヶ月半です。それまでに頑張って他のハーレム候補さまをお探し下さい。最高のハーレムを目指してガンバレ王子さまなのです！

わわわっ…。凄いひと、数え切れないよう…。王都には世界樹の葉と同じくらいの人があるってにゃん太のお話は本当だったんだね…。みんなあたしを見てる…。

ご結婚おめでとうござますー！！

喜んでる…。

きゃー！！メルルさまー！！

微笑んでる…。

メルル応えてあげるにゃ。笑顔で手を振ってあげるにゃ。

う、うん…。フルフル。フルフル。

きゃ～～～！！メルルさま可愛い～～～！！

ううっ…（／／／／

メルル、顔をあげるにゃ。塔にもいっぱい人がいるにゃ。あの人たちにも手を振ってあげるにゃ。

う、うん…。フルフル。フルフル。

わ～～～い！！メルルさまがお手を～～～！！

うつつ…(ノノノノ)

メルル気合を入れるにゃんよ！ 白帝城から40kmこの道を南に真っ直ぐ歩いて鳳凰宮に入るのがエロスのハーレム候補の慣わしにゃん！ まだまだ先は長いにゃん！

40km…。うつつ…。そんなに歩けるかな…。

大丈夫にゃん！ 10kmごとに休憩があるにゃん！ 最初の休憩所は高島屋にゃん。レストランでお子様ランチが食べられるにゃんよ！

お子様ランチ？

ハンバーグやエビフライやウインナーソーセージやスパゲッティーが盛られてるお子様の為の至高の料理にゃん。

ほえー。

驚くなメルル、そこに、そこに、にゃんよ？

う、うん…。

なんと、ケチャップライスが山盛りで、その頂には旗が立ってるにゃん…！！

は、はた！？ す、すごい…！！

そうにゃ、すごいのにゃ！ だから頑張るにゃんよ！

うん！！ フルフル。フルフル。

メルルさま~~~~~!!!!!!

にやはははっ。メルルの人気は凄いにゃん。

あつ……。お空から何か降ってきたよ……。わぁ……。なんだろ……。雪……？

今は初夏にゃん。紙ふぶきにゃん。塔からばら撒かれてるのにゃ。

なんで？

メルルを祝福してくれてるのにゃ。この国道一号線は王都を縦に貫く大動脈にゃん。南の鳳凰宮に近くなる程に高層塔が増えていくにゃ。ゴール付近では息をするのも苦しくなるほどにいっぱい紙ふぶきが降るから注意するにゃんよ。

大紙警報だね……。フルフル。フルフル。

でも夜空に舞う紙ふぶきはキラキラと街の灯りが反射して綺麗にゃん。銀紙にゃん。ボクもテレビでしかみたことないけどにゃ。サライの曲が流れて、鳳凰宮を守護する近衛魔法騎士団が全員黄色いシヤツを着てハーレム候補を出迎えてくれるにゃん。すっごく感動的にゃんよ。視聴率100パーセントにゃん。

……。

……にゃ？ にゃにゃ、どうしたにゃん？

あたし鳳凰宮に入ってちゃんとやっていけるのかな……。

大丈夫にゃん！

でもグズでドン臭いよ？

にゃー。メルル、自分のことをそんなに悪く言ったら駄目にゃんよ。
でも…。

メルルはシツカリ者にゃん、でもメルルが駄目だと思つところがあるなら頑張つて直せばいいにゃん。それだけのことにゃん。駄目だと思ひ込んでしまったらそこで終わりにゃん。

……直せなかつたら？

直そうと頑張ることが大切にゃんよ？ ほんのちよつとの成長。その経験がメルルが本当に成し遂げたいことが出来たとき、力となるにゃん。

本当に成し遂げたいこと？

そうにゃん。メルルにしか出来ないことつて沢山あるにゃん。小さなことから大きなことまでいろいろにゃん。それをどれだけ実現出来るかどうかが重要にゃんよ。

例えば？

にゃ？ にゃにゃ…。そうだにゃ、例えば、今、にゃん。

えっ？

ここにいる人達は今日のことを忘れないにゃ。メルルに笑顔で応えて貰った人は一生の思い出になるにゃん。忘れる人がいたとしてもメルルはメルルを見ている人達をいつときでも幸せに出来るのにゃん。それって凄いことにゃん。

……。

……安心するにゃんよ。鳳凰宮に入ればアップリケさんがメルルの側にズツといてくれるにゃん。それにボクもいるにゃん。メルルにいま足りないところはボクらが助けるにゃん。メルルはひとりじゃないにゃん。

うん。ありがと……。にゃん太……。

王子も半年後にはハーレムの選定を終えて、それからズツと一緒ににゃん。

……（ノノノノ

だから、いまはメルル。みんなの祝福に伝えてあげるにゃん。

うん……。フルフル。フルフル。

きゅ~~~~!!メルルさま~~~~王子とお幸せに~~~~!!……!!

フルフル。フルフル（ノノノノ

にゃははははははっ。

みんなの笑顔が眩しいよ…。

そうだにゃ。強制されての祝福じゃなからにゃ…。みんなメルルへ心からの祝福の気持ちがあるから輝いてるのにゃん。

フルフル。フルフル。

メルル、これがこの街の星々にゃんよ。どれも美しく煌いているのにゃ。でもいまはメルルが一番に輝いているにゃ…。綺麗にゃんよ！

フルフル。フルフル。

メルルの章 完

鳳凰宮性約監査官グラドと申します。王子、わざわざお時間を取って頂き申し訳ございません。実はちよつとした問題が生じまして……いえメルルさまのことではございません、貴方さまの父ケインについてのことなのです。王子も知つての通りケインはエロス家の神聖な掟である性約を犯し、ハーレム以外の女と姦通するという大罪を犯しました。よつて、奴めは王位を剥奪されて煉獄の塔に幽閉されておる訳ですが、その相手の女が厄介なものを……おい、キリノを中へ入れい。

いやああああ……。ごめんなさい。ごめんなさい。ご、ご主人様、お許し下さい。何かお気に障つたのなら謝ります。わ、わたし、なんでもします。で、ですから、怖いこともうしないで……。ガタガタブルブル……。

ああ、違います王子、この者はまだ13才でケインの姦通相手ではございません。そうではなくケインの娘と思われのです。奴は城を抜けて市井に混じり庶民の娘と関係を持ちました。勿論、女は捕らえ、拷問を加え、たつぷりと苦痛を与えてから殺しましたが、今になってその女の遠縁に当たる者に、この娘が預けられておることが分かりましてな。で、性約監査部としては……えっ？ どうしてキリノが裸なのかと？ 王子……このような犬畜生にも劣る者に服などいらぬでしょう。……はあっ？ アザだらけ？ ええ、それはもうこのように毎日徹底的に痛めつけておりますゆえ。ドガッ！

ギャッ！ ゴホゴホ……。ううう……。ゴホゴホ……。

この顔立ちで金髪となればキリノはケインの娘で間違いはございま

すまい……しかし口を割りませぬ。父の名、母の名を知らぬと申します。残念ながら確固たる証拠が無い以上、性約監査部としては7日の拘留期限の過ぎた今、法に則ってキリノを釈放する他ありません。……ですので今日窺った次第なのです。この者を殺す許可を頂きたい。国王代理であられる王子には国民の生死与奪の権限がございます。このような者を生かしては後々の世の禍根となりましょう。なにとぞ御決裁のほどを……。

うとうう……。痛いよ……。ヒクツ。ヒクツ。お腹、痛い……。ヒクツ。ヒクツ。

五月蠅いぞつ、キリノ！ 泣き止まぬかつ！ 王子の御前で無礼であるうがつ！ バキツ！ ドガツ！ ガシツ！ ボキツ！

きああつ！ 痛いっ！ ごめんなさい！ あっ！ やあつ！ 痛いっ！ 痛いっ！ す、すみません！ もう泣きませんからっ！ きゃっ！ あっ！ いやっ！ あっ！ もう、い、いやあああああ……。うあああつつつ……。ジヨロジヨロジヨロ……。シヨロシヨロシヨロ……。

小水を漏らしたか。全く汚らしい小娘だ。なんと恥知らずな……。ああっ、靴が汚れてしまったではないかっ！ 床もっ！ 粗相をしたら、どうするのだ。キリノよ。

ふあああ……。ペチャペチャ……。も、もうじわげございまふえんですた……。ペチャペチャ……。わたくちの……。ペチャ……。こによ……。ペチャ……。したで……。ペチャ……。ぜんふ……。ペチャ……。ふきろりまずう……。……。ペチャペチャ……。

ははははっ。安心しろ、じきに王子から決裁が下る。拷問は終わり

だ。お前は死ぬのだ。もう苦しまずに済むぞ。よかったな。ははははは。自分の小水が最後の食事とは。ははははは。

うううううわああああん。ペチャペチャ…。ううううわああああん。ヒクツ。ヒクツ。わああああん。ペチャペチャ…。うわああん……。

どうされた王子？ 何をそのように怒っておるのです。……違いますぞ。勘違いなさってはいけません。例えケインの娘であったとしても、このような下賤なる者……。庶民の中から生まれた子など王子の姉上ではございません。ゴミに湧いた蛆のようなものです。王子の姉、兄、妹、弟と言えるのはハーレムで生まれたお子様のみでございます。鳳凰宮の評議員、つまり貴方様の母上さま方から私は全権委任を……。くっ……。そうですか、そうでございますか、王子、やはり貴方はまだ10才の子供だ。この世の仕組みや成り立ちがまだ分からぬのでしょうか。良いでしょう。言っただけならぬ子にはお仕置が必要ですよ。自分の未熟さ非力さを知っておくのも良い勉強となりましょうぞ。手加減はしますが、怪我をされても恨まないで下さい。ふふっ……。参りますぞっ！ 王子っ！

殺ね……。

なっ！ わ、わたしの魔法結界が粉々につ！？ 馬鹿な……。単結晶魔法の障壁だぞっ……。砕ける訳がないのだ……。このようなこと魔法力学的に起きる筈が……。王子……貴方は一体……。ギヤアアア！！ ポ
シュ……。墨墨 骨 墨墨。

蓮華か…。

はい…。キリノさまについてのご報告を。

話せ。

はっ、それが…。キリノさまが受けた拷問はとても酷いもので、全ての爪が剥がされ、歯も殆どが…。鎖骨、肋骨、大腿骨、頭蓋骨、恥骨などに無数のヒビが入って、両腕と両足は完全に骨折…。特に右足は複雑骨折をして大きく腫れ上がり壊死が始まっております。足を…切除する必要があるそうです…。自白剤を短期間に大量投与された影響で腎臓と脾臓に回復不能のダメージ…。精神にも相当に深刻なダメージ…。恐らく正気は戻らぬであろうと…。王子…申し訳ございません。鳳凰宮の動き、把握出来ていませんでした。メルルさまの件が無事に済んだ直後のことで、我らお庭番衆、皆、気が緩んでおりました。申し訳ございません…。

命は…助かるのか？

医師によれば五分五分のことです…。

…：奴は7日間の拘留期限が過ぎたからと余にキリノを殺す決裁を迫ったが、先週の木曜にキリノは捕らえられたのか。

はい。その日から今日まで一睡もさせず両親の名を問う拷問を延々と…。キリノさまは生まれて直ぐ母方の遠縁の親戚に当たる高山一家というセクト地方ゼブンを縄張りとするヤクザに引き取られ、そ

の高山家のひとり娘として今まで大切に育てられてきました。高山組長を実の親だと思い込んでいたキノノさまに性約監査部がどう拷問を加えようが告白を引き出せる筈もなく、高山一家のヤクザ達もキノノさまを守ろうと激しく抵抗をして監査部に皆殺しにされました。キノノさまが本当に王子の姉上さまかどうか真相は今となってはもう分かりません…。

木曜の何時のことだ。

キノノさまの家の包囲を終えたのが正午過ぎ、突入は午後1時と聞きますが…。

分かった。もうよい下がれ。

王子…まさか……。いけません！ 王子のタイムリープは1時間の跳躍が最大限界なのです。7日前に戻るということは、24×7回、最低でも168回連続で能力を発動し続けるということです。いくら王子でもそんな無茶をすれば死んでしまいます！ ああ、やめて下さい王子！ やだっ！ 行っちゃダメッ！！

……パチッ

……パチッ

んっ？ 王子？ どうされたのです？ 急に黙り込んじゃって……。チョコドーナツ不味かったですか？ 街では一番人気なんですけど、ちよつとビターな感じのチョコレート味、王子には早かったかな。うーん。私の食べ掛けですけどエンゼルドーナツと交換しましょうか？ こちらのにはあま〜いホイップクリームがた〜っぷりと入っ
ていてですね……

蓮華か……。今日は何曜日だ……。

へっ？ 水曜ですよ。いったいどうされたんです？ あっ、今朝のメルルさまの鳳凰宮入り式典で疲れましたか？ 王子興奮されっぱなしでしたもんね。いやー女である私でも興奮しましたよ、メルルさま、すつごくお綺麗でしたもん……。青いツインテールが風にたなびいてサラサラと舞って、それがアクセントになって純白のドレスを引き立てて……。ハア……。今思い出しても溜め息が出ます……。祝福に詰め掛けた300万の国民も惚けた様子でメルルさまマジ天使って……。王子？ 本当に大丈夫ですか？ 凄く疲れた顔をしていますよ？ お昼寝しますか？

195回……。キリノが捕縛される前日の午後3時……。ここまで戻れば……。良かるう……。

王子……？

魔道王国エロス、国王代理アベルの名において、お庭番衆筆頭蓮華

に勅命を下す。鳳凰宮性約監査部に所属する者を一人残らず斬り捨てよ。連中が保管する書簡や資料も全て燃やし尽くせ。エロス家への背信者どもを皆殺しにしろ。この世から消し去れ。

ハッ！

… 監査官のグラドという男に気を付けよ。彼奴の結果はお前の突撃でも貫けぬであろう。正面からは決して戦うな。戦う前に勝て。

ハッ！ シュタッ！

… ああ、頭が割れるように痛い…。少し横になるか……。いや…
まだ… 駄目だ……。まだ余には…。

くくくつ。勅命が出るとは一体何の騒ぎでしょうか。おや？ おやおや？ 魔王子アベルともあろうお人が、なんと無様な。魔力が尽き掛けておりますぞ。腹でも壊しましたか？ お二人だけで食べるドーナツは美味しゅうございましょうが、嫉妬という名の毒が入っておったやも知れませんか。

お前か…。直ぐに蓮華の後を追ってくれ。メルル付きの式典衛兵として鳳凰宮の深遠に出張っておる佐助は蓮華を助けに行くことが出来ぬ。お前が代わりに彼女を助けてやって欲しい。

くくくつ。私は王子を護衛する使命を受けておりますゆえ。このような状態の王子を置いて蓮華のフォローになど…。

余はここでお前が戦うさまをこの100インチのブラビアで大人しく見ていよう。行って来い。蓮華が危機一髪のをお前が華麗に助ける様子はちゃんとHD録画しておいてやるから。暗黒公爵サキエ

ルの暗黒バトルを久々にみせてくれ。

くくくつ。そこまで言われるのなら……。人間相手に私が戦っても勝負にはならぬでしょうが、一方的虐殺であつても王子がご覧になつてお楽しみ頂けるように、舞いましょう暗黒の舞踏を！ サキエルの舞を！ くくくつ。では、わたくしステージに参ります。王子、とくにご覧あれ！ シュタツ！

……すまぬサキエル、TVはTVカメラで撮影しないと画面には映らないのだ。蓮華の邪魔にならんようにな……。さて……キリノ……いや、姉上のおられるセクト地方ゼブンとやらへ行かねば……。今日中に着けば良いが……。おい誰か……。誰かおらぬか！ 馬を持って！ 余は遠出に出るぞっ！

あっ！ また向こうの山で光った！ ゴオオオオオン……………。

キリノ！ 窓から離れる！ 撃たれたらどうする！ おいキリノ！

こらっ言うことを聞けっ！

だってお父さん！ 悔しくないの？ ウチの裏山で爆弾をあんなに

……。あれ絶対、原田組の奴らの嫌がらせだよ……。クッソ〜ッ。

やるんならウチに直接撃ち込んでみなさいよっ！ この臆病者っ！！

挑発するなキリノ。連中は威嚇しているだけだ。夜の闇に紛れてココソと爆弾を爆発させるのが精一杯なのだ。花火大会だと思えばいい。とはいえライフルで狙撃されんとも限らん。もうこっちに来なさい。直ぐに終わる。

だつて……ほらまた！ あっちにも！ ゴオオオオオン……。ゴオオオオオン……。あ〜〜〜腹立つ…。調子乗ってるんじゃないわよっ！ 私ちよつと行ってアイツら捕まえてくる！

ば、馬鹿な真似はよせ！

大丈夫。ほらっ、防弾チョッキ着てるし（ゼブン学園中等部のブレザー学生服の上着をチラリと捲くれば下着の代わりにケブラー繊維の防弾チョッキ、下のスカートは校則違反の超ミニでビッチ…かと思いきやチラリチラリと見えるおパンツは意外にも清纯派の純白でしたぞっ！）、サブマシンガン持ったし、手榴弾だつて、こっちが出て来ると思わないからちよつと威嚇射撃すれば絶対にビビって降参するって、浮き足立った相手の足を刈れば簡単に転ぶってこと。

じゃあ、行つて来るから

あつ！ くら！ キリノっ！ …… ああ、行つてしまのおつたわ。
まったく鉄砲玉のような奴だ……。おい、キョウスケ、連れ戻して
来い。

ええっ！！ おお俺っスか！？ こ、こういう時はオヤッサンが身
を挺してお嬢を止めて下さいよ……さっきから情けないったらな
いね、頭から布団を被つて。

てめえだつて被つてるだろっがっ！ ツベコベ言つてねーで連れ戻
して来い！ ああ……お前の布団は俺が預かつておいてやるからな…。

ハア~~~~~ッ。やつてらんね〜。ていうか、お嬢、どこまで行
つたんだ？ お嬢〜。キリノ〜。つて、庭に居ねえし。本当に外出
たの？ 馬鹿なの死ぬの？ ゴオオオオオン……。クソッ。行くし
かねえか……。

ドゴゴオンンン！ キャツ！ ゴオンンンン！ キャツ！ ガタガ
タ…ブルブル…。

お嬢……大丈夫か…つて、大丈夫そうだな。しかし、こんな所まで
来てたのかよ…。無理しやがつて、本当は人一倍怖がりの癖に…。

はあ？ なに分かったようなこと言っちゃつてんの。ガタガタ…ブ
ルブル…。これからハンティングを始めるところだったのに。ガタ
ガタ…ブルブル…。余裕よ余裕。ちよつと靴紐が緩んだから、しゃ
がんで直してたの。ガタガタ…ブルブル…。

震えて強がっても全然説得力ねーよ。つーか俺はお嬢がおシメして

る頃から知ってたんだ。意地張ってもお見通しだ。さあ、帰るぞ……
って、どうした固まって……。さっきの爆発で腰でも抜けたか？
ああ……死体か……。

く、くるこげ、バ、バラバラ……。ガタガタ…ブルブル…。

コンガリと焼けてるな……。んっ？ 死体の腰にぶら下げてるこの刀、
魔剣か…。

魔剣？ 何それ？ ガタガタ…ブルブル…。

一般には出回らない魔法使い専用の武器でな、刃のオリハルコンに
魔力を共振させると高熱が発生して鋼でもバターのように切り裂く
ことが出来るって優れものなんだが……。もしかして……。クンカク
ンカ。やっぱりそうだ。コイツの体から火薬の匂いが全くしない。
爆弾じゃなく魔法で爆殺されてる。

っ、つまり魔法使い同士が殺し合ってるってこと？ ガタガタ…ブ
ルブル…。魔法使いつてこの国を魔力で支配してる貴族連中よね？
ガタガタ…ブルブル…。学校では王様や貴族は人ではなく神様み
たいな存在だって教わったけど、わたしたちと同じように死ぬんだ
…。ガタガタ…ブルブル…。でもなんでこんな田舎に…。ガタガタ
…ブルブル…。

さあ、なんでこんなところで戦ってるのかまるで見当もつかないけ
ど、こんな連中の戦いに巻き込まれたら終わりだ。逃げるぞ。その
銃は置いていけ。魔法使いに銃は効果ない。全力で走って逃げるん
だ。

……う、うん……。キョウスケ…ごめん。わたしのせい…。

……らしくもない……もしもの時は俺がお嬢を逃がすくらいの時間は稼ぐから、俺に構わずオヤツサンの元まで逃げるよ。いいな。

そ、そんな……わたし、キヨウスケのこと置いて逃げるなんて出来ないよ！ だってわたし、昔からアンタのこと、す、好きだったんだからねっ（／＼／＼／＼……って、誰もいないし！ こらっ！
キヨウスケ、わたしを置いて全力で逃げるんじゃないのっ！ 待ちなさ〜い！ キヨウスケ、待て〜〜っ！

ハアハア……。もう走れない……。爆発も収まったし、ちょっと休もうよ。

もう少しで家に戻れる、頑張れ……。ああ……。不味い……。人が倒れている……。

大変じゃん！

行くと思った……。おい、キリノ、危ないって……。

だって！ ああ……。酷い怪我……。

水……。水を……。

お水ないよう……。キョウスケ、持ってない？

そいつの腰に水筒がぶら下がってる。だが、この傷じゃもう助からない。貴族同士の戦いってのは、お互いの名誉を掛けて、死も覚悟の上でやり合うんだ。俺ら庶民が出る幕じゃない。先を急ぐぞ……つて、お嬢……。

お水です。飲めますか？

ゴホツ……。ゴホツ……。

駄目だ……。この人、お水を飲んでくれない……。こうなったら……。ごくごく……。ぶちゅ……。

コクコク……。ゴホッ……。コクコク……。

やれやれ、ヤクザの親分の娘がこんなに甘いんじゃ、高山組の先が
思いやられるね。

う、煩いっ！ ぐくぐく……。ぶちゅーっ。

コクコク……。ゴホッ……。ゴホッ……。

……おいオツサン、何か言い残すことはあるか？

これ……を……鳳……に……届……けて……。クララ……すまない……父さん
は……もう帰れそう……にない……。

んっ？ メモリーカード？ これを何処の誰に届けるんだ？ クソ
ッ！ お嬢、こいつに水を掛ける……お嬢？ おいつ！ キリノ！
しっかりしろ、泣いてる場合じゃない。顔に水を掛けてやれ。意
識が途切れそうだ。

もうお水ないよ……。涙 ヒクッ……ヒクッ……。

……あ、あなたの名はキリノなのか……そうか……あなたが……。な
ら、これはもう……いらんっ……。

熱っ！ な、なんだよ……あぁっ……メモリーカードが溶けちゃった
……。

……キリノ様……すみません……。

えっ！？ あっ……。く、口移しなんて、そ、そんなの気にすること
ないよ。わたし全然気にしてないし（／＼／＼

……我々が間違っていました……。法ばかり……。気を取られ……。人を見
ていなかった。キリノ様……。この崖の下に……。貴女様の……。グハッ
！……。ガクッ。

ううう……。死んじゃったよう……。涙 ヒクッ……。ヒクッ……。崖の下っ
て行ってたけど……。もしかして仲間の人がいるのかな……。

さあな……。

キョウスケ、怒ってる？

ああ、俺のいうことを聞かないで危ないことばかり……。他人の命の
前に、先ず自分の命を大切にしないと、命がいくつあっても足りな
い。本当は怖がりの癖に、他人のことになると何でいつもそんな無
茶ばかりするんだ。お嬢が死んだり、酷い目に合ったら、俺はオヤ
ツサンにどう……

キョウスケ、ほら、あそこに誰か倒れてる！ 子供だよっ！ 死ん
でる……。のかな……。

お前はっ！ 俺の話を全然聞かないよなっ！ ハアハア……。いや、
少し動いたよ……。生きてるようだ。子供か……。仕方ないな……。俺、
ちよっと降りてみるよ……。

わ、わたしも、降りる……。よいしょ。よいしょ。うんしょ。うんし
よ。……。ふうっ。……。どう？ 大丈夫そう？ キョウスケ？ どう
したの？ そんなに顔を赤くして……。

キリノ……コイツ……人間だよな？

えっ？ 何を言ってるの……。！？ わっ！ ちよっ！ な、なにこの子……。凄く綺麗……。こんな人いるんだ……。お人形さんみたい……。私と同じ金色の髪……。アツ。

う……うんっ……。な、なんだお前達！ んっ！？ さ、触るな……無礼者め……余を誰と心得るかっ！

わっ！ わっ！ 喋った！ 声も綺麗……。妙に上から目線だけど……。アンタ誰？

ふははははっ。聞いて驚け！ 余はな……。余は……。誰であろうっ……。

あの爆発は原田組の挑発ではなく魔法使いどもの仕業……。キョウスケ、それはつまり、どうということなのだ。

さあ、俺にも何がなにやら。

むう……。キリノと、お前が拾ったという子供はどうした。

あの子が汚れているから一緒に風呂に入ってくるって、お嬢、はしやいでましたよ。妹が出来たみたいだって喜んでました。

わたし分かったよ！ アンタ、自分のことを余っているじゃない。普通の子ならそんなこと言わないし、それにこんなに綺麗な顔をしてるし、多分どこかの貴族のご令嬢なのよ。それなら魔法使いが戦ってたのも説明が付くじゃん。アンタを守っていた貴族と、奪おうとした貴族が戦ったのよ。それで街道から逃げてる内にあの山へ入ったんじゃないかな。

なるほど、そうか、余は貴族とやらの娘であるのか……。

絶対にそうだった！ 魔法とかも出来ちゃったりするんでしょ？ ちよつとやってみせて

魔法のう……。どうであろうか……。ふむつ。やってみよう……。ゴッド・ブレス・ファイアー・エクス……

待てえ〜い！ ヤメヤメツ！ 家の中なんだからそういう危なそうな奴じゃなくって！ お手軽で生産的な魔法にしなさいよっ。欲し

いものを叶えるのが魔法つてもんでしょ。黄金を出すとか、豪華な食事を出すとか、空を飛ぶとかさ。

欲しいものを叶えるのが魔法か……。うむ。何気に名言じゃの。余が欲しいものはなんであるう。記憶……。いや違う……。余が欲しいものは……。

ど、どうしたのアンタ、私の目なんか見つめちゃって。汗汗……。ちよっ、恥ずかしいから止めて……。／／／／

この娘、キリノを余の永遠の性奴に、余だけを求める盛りの付いた雌犬となれ！

……。はう（／／／／

ならぬか。どうやら余は魔法を使えぬようだ。

……。ああ、えっと、うん……。今のちよっと吃驚したよ。取りあえずアンタが魔法使いでなくて良かったよ。ていうか、あれがアンタの望みなの？（／／／／

うむ。何故かは分からぬが、余はそちに引かれるのだ。そのエメラルドグリーンの瞳をみているとむしよにお前が欲しくて堪らなくなる。キリノは余が嫌いか？

嫌いじゃない！ 嫌いじゃないけど……。あんた女の子じゃん……。困るよ……。性奴とか雌犬とか怖いよ……。そ、それにわたしには好きな人が……。わたしと一緒にいた奴、キョウスケって言うんだけど、あいつのこと昔からずっと好きなの……。だからゴメン……。アンタの思いに応えられない……。／／／／

そうかキリノには余より好きな者がおるのか……それでは仕方ないのう。女同士で性奴の雌犬となつて好き合うのも、そちには怖くて出来ぬようであるし、残念だがこの余の思い、諦めるしかあるまい。キリノが怖がるようなこと、余はしたくないからな。

わたしもアンタのこと妙に引かれるんだ……でもそれは恋心とは……。あつ、ここがお風呂場なの。そうだ、あなたの着替えが必要よね。先、お風呂入つて！ 私のお古のパジャマ持つてくるから。下着はサイズが合わないかも知れないけど、この前に買った新しいものがあるから。超特急で直ぐ戻つて来るからね！ バタバタバタバタ……。

……ハア……振られてしまつたか。ガラガラ……。んっ……。風呂にしているはちと狭いかの。籠があるが、ここに服を脱ぐのであるうか。ぬぎぬぎ……ぬぎぬぎ……。！？ うむむっ。こ、これはチンチンではないかつ！ 娘である筈の余の股になぜチンチンがついておるのだつ？ チンチンとは女にもはえるものであつたらうか。ググつてみよう、いや発想の転換を試みよう。余は女ではなく男なのではないだろか……。ほう。よく見れば、タマタマもあるではないか。プニプニ。ふむっ。懐かしい感触じゃ……。そうか余は男であつたのかつ！ おおっ、余のチンチンがつ！ ふはははははっ。男であることを思い出したことに祝福をしてくれておるわ！ ふはははははっ。

……バタバタバタバタ！！ ガラガラ……。お待ちせ！ ごめんね！
もう入ってる？ 着替え持つて……（／／／／）
バタン。

キリノはまだ風呂に入っているのか？

女同士で風呂に入るなんて今までなかったから、ゆっくりと入っているんだろう。

むう……。キリノを預かって13年……男手一つでアイツを育てたが、やはり女には女でなければわかんこともあるか……。俺のような半端者のヤクザに育てられてキリノは幸せだったんだろうか……。

オヤツサン、アンタはよくやったよ。頑張ったよ。あんなに愛情を注がれて大切に育てられたキリノはいい娘に育った。あいつの澄んだ心を、目をみれば、アイツは今日まで幸せだったんだろうなって、そう思うよ……。ふふつ。俺の自慢の妹だ。

妹だと？ アイツはお前のことを……。そうか……。駄目なんだな？

悲しそうな顔すんなオヤツサン。今日ハツキリと分かった。キリノに極道は無理だ。ヤクザの世界でしか生きられない俺じゃアイツを幸せには出来ない。アイツは、妹は、俺らとは別の道を……。陽の光が当たる道を歩んで行ける。俺達には出来なかった生き方が妹には出来る。それって全てはオヤツサンが愛情を注いでアイツを育てた結果なんだぜ？ その愛を無にしてはいけない……。

ぬかったわっ！ 余の痴態を見られてしまうとはっ！ キリノが倒れてしまったではないかっ！ ううっ……。PTSDになってはイカンぞっ……。どうすれば……。余に魔法でも使えれば良いのだが……。むむっ。手に光が……。これは魔力！？ 余はキリノのいうように魔

法使用であったかつ！ し、しかし余に出来るであろうか。出来そうなのがする。出来る。簡単なことよ。キリノの記憶から余の痴態をデリート！ 余の性別を男から女へ転換！ ……パチッ

う、うん……。あ、あれっ？ ……わたし、どうしたんだろ……。

バスマットに足を取られて、コロコロ転がって、壁に頭を打って、失神しておったのだ。少し横になっておれ。

大丈夫だよ。早く一緒にお風呂入ろう？ 制服ぬぎぬぎ。ミニスカぬぎぬぎ。

うむっ。白か。いや、すまぬ。余は向こうを向いておろっぞ。

わたしの方を向いて欲しい……。わたしの体って魅力ないかな…（
／／／／

そ、そんなことはないが……。

見てて……。防弾チョッキぬぎぬぎ。ソックスぬぎぬぎ。ブラジャーぬぎぬぎ。おパンツぬぎぬぎ。…どう？ 綺麗な………やっぱ駄目かな…（／／／／

い、いや、綺麗であるぞっ！ キリノよ！ 美しい体をしておるぞっ！ ……じゃが余はそちの裸をみておると妙な気分になってしまっうのだ。ふざけるのはもう……。

……さつき…白って……アレって、わたしのパンツのことだよね…
……。興味…あるの？ 欲しいなら…はいっ（／／／／

キリノの脱ぎたてのおパンツ……。暖かじやのう……。クンカクン力……。ほう……。先ほどまで外を走っておったからか、ちと……。って、な、なんじゃ……。明らかにキリノの様子がおかしではないかっ！魔法が失敗したとでもいうのか？ いや、キリノからは記憶が消えておるし、余の性別もこのように女となっておる。成功しておる筈なのだ。もしや倒れたときに頭でも打ったのであろうか……。

ふふっ、わたしのパンツ、匂いまで嗅いでくれるんだ。嬉しい……。でも、もうパンツはお仕舞いにして、一緒にお風呂に入るっ。ガラガラ。

う、うむっ……。しかし二人で入るにはちと風呂が狭いのう。キリノよ先に入るがよい。余は体を洗っておろう。

わたしが洗ってあげる……（／／／／

そ、そうか……。それは有難いが、何故、後ろから抱きつくのだ。こつもピツタリとお互いの体がくっ付き合っている、余の体を洗えぬのではないか？

わたしで洗ってあげる……（／／／／

か、変わった洗い方をするのだなっ……。

そんなことないよ……普通だよ……。ボディシャンプーを……。こつして……。いっぱい……。いっぱい……。つけて……。じゃあ……。始めるね……。ゴシゴシ……。ふあんっう……。うっ……。ゴシゴシ……。うっ……。んっ……。ゴシゴシ……。んっ……。ゴシゴシ……。んっ……。ゴシゴシ……。あうっ……。あうっ……。やあっ……。あうっ……。ゴシゴシ……。うっ……。んっ……。んっ……（／／／／

ああ…そうか……。分かりたくもなかったが、分かってしまった…。キリノが正気を失ったのは、やはり余の魔法が原因じゃ…。この娘、キリノを余の永遠の性奴に、余だけを求める盛りの付いた雌犬となれ！と、願った魔法が、余に魔力が戻った今、有効になってしまったのであろう…。

ハアハア… 背中の際は… ハアハア… 前…洗うね… ゴシゴシ… ひゃあ…っ… ゴシゴシ… あふあ… ゴシゴシ… あっ… ゴシゴシ… あっ… ゴシゴシ… あっ… ゴシゴシ… あっ…（／／／／

むっっ…。このまま続けて欲しくはあるが…キリノの心が余にない今、それは止めておいた方がよいであろう…。キリノよ、魔法を解除するぞ。 ……パチッ

…あれっ…わたし…んっ？ ええっ！？ はわわわわわっ！
！ な、なに！？ な、なんなの？ わ、わたし…なんで、なんで
アンタと裸で抱き合っ…。 ！？ え？ あっ…アンタ、こ
っ、こっ、こっ、これ…男…？ きゃああああああああ
あああああああああ！…！！！！！！！！（／／／／

キヨウスケ、いま風呂場からキリノの声が聞こえなかったか？

二人で遊んでいるんでしょう。

がはははっ。キリノもまだまだ子供だな。

子供って親が知らぬうちに、いつの間にか大人になっているって言いますけどね……。

……という訳なのだっ！ 悪気は無かったのだ。性奴な雌犬の魔法を解除しようとしたら、全ての魔法が解除されてしまった……。キリノを吃驚させてしまって申し訳なかった……。

ア、アンタねえ……。信じらんない！

謝っても許してくれんか。

当ったり前じゃないのっ！ アンタ責任取んなさいよねっ！

うむっ。今から魔法を使ってそちの記憶を……

勝手に人の頭の中を弄まないでよ！ 怖い嫌なのっ。それに記憶を消したからって、わたしが、あ、あんなことをした事実が消える訳じゃないし、都合が悪くなったら記憶を消すって、卑怯よ！

余はどうしたらキリノに許して貰えるのであろう……。……。

そ、そうね……。わたしに恥ずかしい思いをさせたんだから、今度はアンタが恥ずかしい思いをしなさい。

余もそちに恥ずかしい痴態を見られたのだが…。

あれは自業自得でしょ！ むしろこっちが被害者なのっ！ ああんっ！ もうっ！ アンタ責任取って、わたしと同じように、せ、せ、せ、性奴になりなさいっ！（／／／／

むっ…。

そ、それでお相子になるから、許してあげるわよ…（／／／／

仕方ないのう。わかった。余はキリノの性奴となろう。何をすればよいのか、そちが命じてくれい。

偉そうな性奴ね…。まあ、いいわ。じゃ、一緒にお風呂入るわよ。裸のままだと風邪引いちゃうわ。よいしょ、ポチャン…。お風呂ちよっと狭いけど、わたしが抱っこしてあげるから、来なさい。

うむっ……。ポチャン…。

足曲げて、うん、そう…。お尻落として、からだゆっくり後ろへ倒して……。カ入れないで…。アンタを全部受け止めるから、わたしにからだ預けるように倒れて来て……。ふふっ…遠慮しないのっ…大丈夫だから……。うんっ…。抱きっ！ はあぁっ……。やっとお風呂入れたね……。ああ…いい気持ち……。ん…。アンタ軽い…。駄目だよ…。ちゃんとご飯食べないと…。

……。キリノよ。余を抱きかかえて風呂に入ってくれるのは嬉しいが、

そちは恥ずかしいのではないか？ 嫌なのではないか？ 強がって無理をしておるのなら……

そんなことないよ……。わたし、弟とこんな風にお風呂に入るのって夢だったから嬉しいよ……。さっきもアンタと散々恥ずかしいことをしたけど、嫌じゃなかった。肌を触れ合って心が満たされたんだ。出会ったばかりで血なんか繋がってないけど……。わたしには弟とじゃれ合ったようで、家族が増えたようで、嬉しかったんだ……。

余はそちにとって弟であるのか……。嬉しいような、残念なような……。

そ、それが……。わ、わたし……ブラコンなのかな……。弟のアンタが好きみたいなの……。変態なのかな……。この気持ちは恋心じゃなかった筈なのに……。わたしをこんな変態にしたのはアンタなんだからね。もうっ……。性奴さん、わたしにキスしなさい（／／／／

うむっ。チュッ（／／／／

んっ（／／／／

しかしお前がキリノと一緒ににならないとなると…キリノは悲しむだろうな……。

あれほどの器量があれば学校にボーイフレンドの一人や二人いるだろう。俺のことなんて直ぐに忘れれますよ。

キリノにボーイフレンドなあ？ そんな訳あるか。キリノをな、そこいらのビッチと一緒にするんじゃないぞ、テメエだってさっきキリノは良い娘に育ったっていつてたじゃないか。殺すぞ、コラ。

あの年頃の娘なら学校での恋愛は普通だよ。まだ中学生なんだから裸で抱き合っつて訳でもなし、淡い恋心をいだき合っつなんて微笑ましいじゃないか…。オヤツサンの考えが下品なんだっての。

いいお湯ね……。ん？ どうしたの無口になっちゃって、長湯でのぼせちゃった？ もう上がるっか…。

余は、もう少し、こうしていたい。キリノに抱かれて湯に入っておると、心が休まってな……。ついウトウトと……。眠くなってしまっただ……。とても安心するのだ……。

アンタもそうなんだ……。わたしも……。アンタとこうしてると凄く落ち着くんのだ…。ねえ、わたしにキスしなさい。

チュッ（／／／／

うへへ…（／／／／

……キリノはキスだけでよいのか。

うん。キスだけでいい……（／／／／

余は性奴なのだ。キリノが望むことはなんでもするぞ……。

怖いの嫌だし……。キスだけで……わたし……。ねえ、もう一度キスしなさい。

チュツ（／／／／

ふへへ……（／／／／

キリノとキスをすると余の心は温まる……。チュツ（／／／／

んっ……あんっ……。め、命令してないのに性奴がご主人さまに、キ、キスしたら、駄目なんだからねっ（／／／／

すまぬ。我慢出来なかったのだ。しかし分からぬ……。何故こうも強く余はそちに引かれるのだ……。

えへへ……それは……。わたしが引き寄せられる分、アンタも引き寄せられて……。アンタが引き寄せられる分、わたしも引き寄せられる……。二人が引き寄せ合ってるから引力が半端ないんだよ（／／／／

キリノよ。そちはキョウスケとやらが好きではなかったのか？

うん、キョウスケ好き（／／／／

……余は？

うん、アンタも好き（／＼／＼

そ、そうか……。キリノには余だけを見ていて欲しいのだが…。

どっちも好きって、駄目かな？

うむっ…。一人が何人も愛するというのは、良くないと思うぞ。ふしだらであるぞっ。

そっかな。この国の王子さまってハーレムを持つてるけど、王子さまがふしだらなんて誰も言わないよ。

ではそのハーレムの女達はどうなのだ。自分だけを愛してくれないというのは悲しいことではないのか。

今朝、鳳凰宮入りの式典があつたじゃん。わたしの学校からも全校生徒でお祝いに行ったんだけど、ハーレムのお姫さま、メルル様って言うんだけど、すっごく可愛くてさ、すっごく嬉しそうだった。ハーレムに入って王子さまと一緒になるって悲しいどころか、この国の女の子が一度は抱く夢なんだよ。平民でも貴族でも女性なら誰にでも平等にチャンスがあるの…。その夢がふしだらとか悲しいとか思いたくないな…。

ふんっ。姫は綺麗であっても、その王子とやらは、さぞスケベな顔をしておるのであるうな。

王子さまは王位継承の戴冠式があるまで顔を見せないから、よく分からないけど、ルーン一番の美少年だって噂だよ。メルル様があん

なに幸せそうだったんだから、やっぱり王子さまって超カッコイんじゃないかな。

……キリノはそのスケベ王子も好いておるのか。余だけを見るとい
うのはキリノには出来ぬのであるうな……。だが他の者にキリノの心
が奪われるとき、余には言い知れぬ不安と焦りと悲しみが心の底よ
り浮かびあがる……。この苦しみ…余は耐えられぬやもしれん…。

苦しいの？（／／／／

うむ…。

ど、どうしてもアンタだけを見て欲しいっていうのなら、そうして
も、いいけど…（／／／／

本当かつ！

う、うん…。た、ただし、条件があるわよっ！（／／／／

ど、どうすればよいのっ！

えっと、えっと…。どうしよっか……。あっ、うんっ。嫉妬深い嫉
妬深い性奴さん、わたしがアナタの虜となるように、もっともつと
沢山キスしなさい（／／／／

チュツ チュツ チュツ チュツ チュツ（／／／／

によへへへ…（／／／／

おいキヨウスケ、いくらなんでもキリノ、遅くねーか？ もう10時だ。あれから2時間は経つとるぞ。

そっぴえばさっきのお嬢の声、叫び声のよつにも…。

……キリノと一緒に風呂へ入ってる女、身元が分からねーんだよな？

ああ……。でもまだ10才くらいの子供なんで害はないと思ったが……。まさかアイツ…。

んっ…っ…。ハアハア……。わたし、あれから何回アンタにキスされたんだろ…（／／／／

数など、かぞえてはおらぬ…。チュッ（／／／／

ふあう…っ…。ハアハア…。いま何時かな…（／／／／

余はそちのことしか頭に浮かばず、馬鹿になっておるから、分からぬ…。チュッ（／／／／

ああ…んっ…っ…。わたしも馬鹿になってる…（／／／／

キリノといつてもこうしていたい…（／／／／

ふあ…ん…。ハアハア…。うん…。わたしも…アンタとこうしたいけど…。ハアハア…。も、もう終わろうよ…。ハアハア…。体がもたないし…。頭がパンクしちゃう…（／／／／

チュツ（／／／／

んう……。ちょ、ちょっと……。ハアハア……。もう止めなさいっ……（／／／

チュツ（／／／／

あんっ……。ハアハア……。もう……。こらっ……。ハアハア……。性奴がご主人さまの命令を聞かないでどうするのよっ……（／／／／

余はキリノを虜にするように主から命令を受けたのだ。チュツ（／／／

やんっ！ わかったよ……。だからもうお風呂出よう？ こんなに遅くなったら、お父さん達があやしむよ。

余にそのような口の利き方をするようでは、余の虜とはいえんぞ。
チュツ（／／／／

あんっ……。すみませんご主人様……（／／／／

そちは余のなんじゃ？ チュツ（／／／／

はうっ……。わたしは貴方様の虜です……（／／／／

余だけを見てくれるか？（／／／／

はい……。これからは永遠に貴方様だけを見ています……（／／／／

そうか……。では余もそちの永遠の虜となるう。これは互いが互いの虜となる誓いの口付けだ。受け取れ。ブチュ……………
…ッ（／／／／

んんんう！？ うううう！ うううううああ！ ……うううんっ
うんんっ……………う……………んっ……………んう……………う……………んっ……………う
あ……………あ……………うう……………（／／／／

プハッ……………（／／／／

あふう……………（／／／／

……………（／／／／

……………（／／／／

で、では風呂から上がるか……。ザバッ……。よっと。うむっ。キリノ
よ手を貸そっぞ。

う、うん……………ありがとう……………。よいしょ……………あっ……………あれ？ ああっ……………わ
たし……………さっきので吃驚して……………腰が……………抜けちゃったみたい……………。立
ち上がれない……………（／／／／

では、余がキリノを抱っこしてやろう。そちはハーレムの姫さまに
憧れておったからの。丁度よい。今ここでお姫様抱っこを余がキリ
ノ姫さまにしてしんぜよう。

えぐっ、わたしの体重どうみてもアンタより重いじゃん。持ち上が
らないと思っつ……………。

大丈夫だ。ではいきますぞ…。余の腕を湯の中のキリノ姫さまの背と太腿に絡ませて……

キャッ…（／／／／

キリノ姫さま。余の首に姫さまの両の腕を絡めて、しっかりと抱きついてくだされ。

う、うん、抱きっ（／／／／

よいしょと、ザッバ〜ン！！

ふわっ…。ア、アンタ、こんなに腕が細いのに、わたしを軽々…。す、すごい力なんだね…。

うむっ。では脱衣所へ向かいますぞ。てくてくてく。ガラガラ〜。

うむっ。到着でございます。ではキリノ姫さま、降ろしますぞ……。どうだ、立てるか？

だ、駄目みたい。頭もボーっとするし、ちょっとだけここに座って休んでる…。運んでくれて、ありがと…（／／／／

うむっ。そうだ、動けぬのであれば、余がそちの体を拭いてやるでしょう。バスタオルは…これが……

だ、だめよ！ い、いやあ！

……んっ？ キリノは余の虜となったが、余はキリノの虜でもある。主であるそちが本気で嫌と申すことは絶対にやらぬが……キリノは余にからだを拭かれるのが嫌なのか？

ご、ごめん……。さっきの誓いのキスで…腰が抜けて、わたしのからだが…痺れた感じになっちゃって、力がまるで入らないの…。自分のからだが自分のじゃないみたいで…。どうにかなっちゃいそう…。だから、いまアンタにからだ擦られるの怖い…。わたし怖いの駄目なんだもん…。ぐすつ…。ぐすつ…。う、うっ…。

そ、そうか。怖いか。なら、止めておこう。余はキリノを怖がらせたくはない。そちのからだの変化に思い至らず、すまなかった。もう泣くでないぞ。なにもせぬ。安心しろ。頭、撫で撫で。

……ごめん。ヒクッ…ヒクッ…。

うむっ。気にするな。ではこのバスタオルで体を拭くがよい。そちのパジャマは……。これが。ふむっ。薄い黄色の生地ノウサギとニンジンが一杯おるのう…。下着はこれじゃな。白か。いや、すまぬ。余のはこれじゃな。キリノのお古ということだが…青の生地に…タコ…なのかのう…。よく分からぬ。下着は白か。女物だが余がまた魔法で女になれば良いのだから問題あるまい。うむっ。ではキリノよ。余はこれから魔法で……。うん？ どうしたのだ？ バスタオルを余に突き返して…。もう拭き終わったか？ なら余もコレを使って…

違うの…。まだなの……。ガタガタ…ブルブル…。上手く拭けないから、やっぱりアンタにお願いしようかなって。ガタガタ…ブルブル…。あはははっ。バスタオルで拭かれることくらいで怖がるなんて、わたし変だよ。ガタガタ…ブルブル…。ちよっとお水を拭き取る為にからだに触れられるだけなのに。ガタガタ…ブルブル…。お風呂でアンタ抱きかかえてたのに何いってるんだろ。ガタガタ…ブルブル…。さっきはどうかしてた。もう大丈夫だよ。ガタガタ…ブルブル…。わたしのからだ…。貴方様に拭いて貰いたいです…。

ガタガタ…ブルブル…。

震えておるではないか…。寒いという訳でもなさそうだし。怖いのなら無理をすることはないのだ。

だって、アンタに嫌われたくないんだもん…。

ブチュ……………ツ(ノノノノ

はづつっ…んづつ…う…っ…うう…う…んっ…あ…うう…
…(ノノノノ

キリノを嫌う訳がなからう。余はそちの永遠の虜であるぞ。そのよ
うな不安は、互いがお互いの虜となる誓いの口付けがまだ完全に出
来ておらぬ証拠だ。キリノの心に誓いが刻まれるまで、余は何度で
も誓おうぞ。

……………じ、じゃ…もう一回…お願い…(ノノノノ

キリノは余の永遠の虜であり、余はキリノの永遠の虜である…………。
余はそなたが好きだ。愛しておる…。ブチュ……………
……………ツ(ノノノノ

わ、わたしもっ、んあっ…っ……………ん……………んあっ……………ん……………あ
あ…あっ……………(ノノノノ

……………どうだキリノ。不安はなくなったか？

うん…。キスをしていると、からだは痺れるけど…。何も怖くなく
なる…。アンタのことしか考えられなくなる…(ノノノノ

余もキスをするとキリノのことしか考えられなくなる……。おおっ、
そうじゃ、キスをしながら余がキリノのからだを拭けば良いのじゃ！
えつと……。頭がボーっとしてよく分からないけど……。わたし…アン
タとキスさえ出来れば、あとはもうどうでもいいの……。キスしてた
ら他にどんなことをされたって怖くないよ…（／／／／

よしっ、では、やってみるぞっ。ブチュ……………ッとして、キリノの背
中を、拭き…拭き…。

んうっ…っあああ…あん……。ちよっと待っ…うっ…う…っ…あ
うっ（／／／／

ブチュ……………ッとして、腕を、拭き…拭き…。

怖くはないけど、こんなのっ…余計にからだが…痺れて…んっ…う
……………あ…う……………はっあっ（／／／／

ブチュ……………ッとして、お腹を、拭き…拭き…。

らめっ…よ…う……………っ……………あ…ああ…あ……………んあっ（／／／／

ブチュ……………ッとして、お股を、拭き…拭き…。あれ？ ブチュ…
……………ッとして、拭き…拭き…。んっ？ 拭き…拭き…拭き…拭き…

やっ…やっ…やっ…やっ…やあああんっ！ あっ…あっ…あっ…
あっ…あああんっ！ ………………（／／／／

バタバタバタバタ！！ ガラガラ…。キリノ！！！！ キリノ！ 大

もう深夜1時…。長いお説教だったね…。

キリノは余への気持ちを父へ訴え、風呂でのことも懸命に庇ってくれた。恥ずかしかったであろうに…。すまなかった。

そんなの全然気にしないで。それより、うちのお父さん心配性だから、わたしに何かがあると少し理性を失っちゃうところがあって、アンタにあんな失礼なこと言ったり…。変なことしたり…。本当にゴメン…。

余が席に座ったら、いきなりふところからトカレフを取り出して至近距離からの6連射、さらには刀で余のクビを撥ねようと、まさに鬼のようであったわ…。

ほ、ほら、アンタ魔法使いだから多少無茶しても大丈夫だと分かっててやったんだと思う。舐められないように、ちよつと威嚇したかっただけ…。なんじゃないかな。汗汗…。

余が魔法使いであることを告げたのはもつと後だったように記憶するが…。しかし、そのようなことは些細なこと。大切なのは、キリノの父は最後には余とキリノの仲を認めてくれた、ということだ…。

うん…（／／／／

娘の気持ちを親が汲み取り尊重すると言っても、どこの誰とも分からぬ、記憶すら持っておらぬ余を、大切な娘の相手として認めるのは、キリノのことを信じきっておらねば出来ぬことだ…。

……お父さん、始めはアンタのこと汚く罵ってはいたけど、最後は結構気に入ってたんだと思う。アンタって髪の色もそうだけど、どことなく雰囲気かわたしに似ているんだ。わたしがアンタを弟のように感じたのと同じように、お父さんも……。

雰囲気似ておるか……。確かにそうかも知れぬ……。だが目の色はお互いに違うぞ、そちはこのように綺麗なエメラルドグリーンをして、余はその瞳をみているとむしろようにキリノが欲しくて堪らなくなってしまう……。チュッ（／／／／

やんっ、だ、駄目だよこんなところで……。わたしの部屋もう直ぐだから……。それまで、ね？ 我慢して（／／／／

う、うむ。すまなかった。

ふふっ……。でも雰囲気似ているっただけで、アンタの方がわたしよりズツと綺麗だよ……。もうっ。弟の癖に、お姉ちゃんより可愛いってちょっと生意気だぞっ。チュッ（／／／／

へ、部屋まで我慢するのではなかったのか。余は本当に我慢出来なくなるぞ。チュッ（／／／／

うへへ……。もう着きました……。ここがわたしの部屋なの……。入って（／／／／

う、うむっ（／／／／

ちょっと散らかってて恥ずかしいけど（／／／／

ほおっ……。女の子らしい可愛い部屋であるのう。クンカクンカ……。うむっ。キリノの匂いがする……（／／／／

どんな匂いなんだろ……。まさかパンツの匂いじゃないでしょうねって、そんなの恥ずかしくて聞けない……（／／／／

ふはははははっ。可愛いぬいぐるみやクッションが沢山転がってあって心が和むわ……。勉強机、本棚、ベッド……。そしてTVか……。大きなTVであるな……。100インチのブラビアか……。どこかで……。いや、余の気のせいであろう……。プチっとな。

こんな時間に番組なんてやってないよ……。あれ？　なんかやってるね……。

……。続報が入って来ました。反乱部隊はほぼ制圧され、先日夕刻からの鳳凰宮での戦闘は収束に向かっているとのことです。繰り返しです。反乱部隊はほぼ制圧され、先日夕刻からの鳳凰宮での戦闘は収束に向かっているとのことです。今回の反乱事件に関する詳細はまだ不明ですが、国軍が包囲しているのは鳳凰宮南区域、性約監査本部である第63塔です。昨夜9時に王家直属の特殊部隊が突入した際には塔周囲の魔力係数は瞬間最大で34億6500万MP/s、積算で523兆2100億MPが計測されています。これは我が国の年間消費電力の実に20倍にも及ぶカロリーが消費されたことに相当し、魔力観測衛星ヒマワリからは9時以降から鳳凰宮南区域にて時空歪みの発生が複数回観測されています。これらのことから塔内部において、相当激しい魔力戦闘があったことが窺えます。ただそれも次第に収まり、本日深夜1時、反乱部隊はほぼ制圧されたという情報が……。えっ！？　Vが来てる！？　現地からのライブ映像が入りました。それでは現場の若林レポーター……。若林レポーター……。あれっ？　若林さん……？

若林は死にました。くくくっ。わたくし暗黒公爵サキエルと申します。若林の死を見取った者です。彼は凶弾に倒れ、後は頼むと私にこの血まみれのマイクを託したのです。くくくっ。皆様、血塗られた惨劇のステージによっこそ。残念ながら、もう最終幕でございますが、王子に齒向かう不貞の輩の末路がどうなるのか、存分にお見せしましょう。くくくっ、もし小さなお子さまがこのような深い夜に起きていたのなら、その可愛い目をお閉じ下さいませ。可愛い耳をお塞ぎ下さいませ。よろしいですか？ くくくっ。では王子、長らくお待ちせしました。暗黒の舞踏、サキエルの舞をとくと御覧あれ… プツッ。

詰まらん…。ん？ どうしたのだキリノ。震えておるのか？

ニユースを観てたアンタの顔、ちょっと怖かったかも…。ガタガタ…ブルブル…。

顔に出ていたか…。キリノを怖がらせてしまって、すまぬ…。チュッ（ノノノノ

んっ…。えへへ…（ノノノノ

震えは止まったようだな。すまなかった。頭、撫で撫で。

うへへ…（ノノノノ

TVなぞ見なければよかった…。キリノよ…。実は…。余は…。んっ？ 目を閉じて余の方へ顔を向けておるが、もっとキスをして欲しいのか？（ノノノノ

うん！（／／／／

うむっ。チュッ（／／／／

によへへ…。お返しだぞ。チュッ（／／／／

むむっ。チュッ（／／／／

によほほ…。ねえ…。こんな時間だし、もう寝よっか…（／／／／

う、うむ…。だがベッドはひとつ…（／／／／

ふたつ必要な？（／／／／

ひとつじゃあ…（／／／／

電気消すね。

う、うむっ…。

パチッ…。消灯。てくてく。ベッドへお尻をポスッ。お尻ズリズリでベッドの端に移動…。ふうっ…。んっ？ 部屋の明かりを消したのに…。外から月光が差し込んでるのか…。今夜は満月なのかしらね…。ふふっ。アンタ、そんなところに立っていないで、こちらへどうぞ。

う、うむ。お邪魔するぞ。ポスッ（ノノノノ

端にいないで、もっとこっちにいらっしやい。夜冷えるから、ほら、布団に入って。

…布団、良い匂いだのう。ガバツ。

昨日干したからね…。って、頭から布団に潜ってどうすんのよ。顔、見せなさい。

余は布団の中でよい…。モゾモゾ。キリノのお腹はこの辺りか。抱きっ。

キャッ！ ちょ、ちょっと。何してるのよっ。布団バサッ。わっ、お腹に抱きつかれて耳を当てられてる…（ノノノノ

しばらくこっ居させてくれい。キリノの温もりを感じ、音を聞きた

いのだ……。いま少しそちの存在を余に感じさせてくれ……。キリノの心音はトクトクと早く連打され、お腹がゴロゴロといておる。なんだであるう。とても落ち着く。

そ、そう（／／／／

んっ？ 心音がまた少し早くなった。苦しくないか？ 少し深呼吸をしてみよ。

う、うん……。スーハー……。スーハー……（／／／／

もう少し深く。

スーハー……。スーハー……。って、何やらせんによっ！
（／／／／

むっ、鼓動が少し緩やかになったぞ。

もうっ……。わたしのからだで遊んでるんじゃないのっ……。／／／／

楽しいのう。

しようがないなあ……。そういえば昔、キヨウスケとよくこうして抱き合って寝てたよ……。アンタの着てる、これ、キヨウスケが子供のころ着てた寝巻きなんだ……。懐かしい……。

……。そちがキヨウスケのことを思い出すと、余は嫉妬してしまうのではないか……。これはもう脱ぐことにしよう。モゾモゾ。脱ぎ脱ぎ。

アンタ、本当に嫉妬深いわね……。

脱げたぞ。

…：な、なんで寝巻きを脱いだら全裸なのよっ！ アンタ下着を穿いてなかったの！？（／／／／

うむっ。寝巻きだけ借りた。下着はない。新しいのがなかったのだ。

そ、そう。アンタだけ裸って、ちょっと可哀想だから…わ、わたしも…一緒に…なってあげるわよ。モゾモゾ。脱ぎ脱ぎ（／／／／

チュツ（／／／／

あんっ、もうっ、パンツ脱いどるときに…意地悪なんだから（／／／／

キリノの裸はやはり綺麗だな…。月夜に映える。

あ、ありがと…（／／／／

またキリノの存在を余に感じさせてくれい。

…：さ、さっき、わたしの音を聞かせたんだから、こ、今度はアンタのを聞かせないよっ（／／／／

わかった…。よいぞ…。余もキリノに余の存在を感じ取って欲しい…。

うっ、アンタみたいな綺麗な子が無防備な全裸でベッドに寝そべってるって、ちょ、ちょっと緊張するわね…。ん？ そ、そんな無邪

気な目をして、わ、わたしの顔を見詰めないのっ。目を瞑ってなさ
いっ。さ、さあて……。ど、どこに抱きついてやるっかしら。……て
いうかアンタ、腹立つほど肌綺麗ね……。スベスベしてる……。ほっぺ
があって……。お口があって……。顎があって……。喉があって……。これが鎖骨ね
……。胸で……。そして、やわらかい……。お腹……。おへそ……。ここに抱きっ
（／／／／

どうだ？

アンタのお腹ゴロゴロいってるよっ……。心音も聞こえる。ふふっ。
深呼吸が必要なのはわたしだけじゃないみたい。

お互い裸で抱き合っておると温もりがこっも伝わるものなのか……。

温かいね……。それに、この音……。どうしてだろう。とても落ち
着く……。

……そちは余が弟のようだから好きだと言っ たな。

……うん。わたし極度のブラコン（／／／／

もし……。余とそちが本当の姉弟であつたら……。

本当の姉弟？ アンタと血が繋がってたらってこと？

うむ。仮にだが……。もうそうなら、そちは余と今のような関係にな
ったであろうか？

うーん……。そうだね。歯止めが掛かると思う。恋心の芽が生まれた
としても、お互いが愛を誓い合っ てキスするところまでは育たない

んじゃないかな。その芽はひっそりと摘み取ったり、摘まれたり、心の奥底の日の当たらない所に植えなおしたり、家族の木の陰でおれたり…。そして時間が過ぎていく内に、そんな芽があったことすら次第に忘れていくんだと思う…。

そうか…。

変なの…。ねえ、キスして（／／／／

チュツ（／／／／

あんっ…そ、そうじゃなくて…。あっ、あの…。誓いの…キス…。
アンタが変なこと聞くから不安になってきちゃったのっ（／／／／

互いがお互いの虜となる…。誓いのキスか…。それはもう余とそちには…。キリノよ、落ち着いて聞いて欲しい。余は記憶が戻った。直ぐにも帰らねばならん…。

い、いきなり、な、なに言ってるのよ。わたしを怖がらせようとしても…

キリノが怖がるようなこと余は絶対にしたくはない…。だが真実を告げなければ…。キリノ、そちと余は実の姉弟なのだ。

…アンタが…わたしの弟？ ガタガタ…ブルブル…。

…はい。姉上さま…。

姉弟なんて、そんなのある訳ない…。だってアンタとわたしは山で偶然出会っただけだし、お母さんはわたしが生まれた直ぐ後に死んだって…

貴女のお母様は私の父と恋に落ち、そして貴女が生まれ、この家に預けられた…。私と姉上は腹違いの姉弟なのです。

そ、そんなのお父さんは、ひとことも…

姉上。この事実が明るみになると、貴女を快く思わず危害を加えようとする輩が無数に現れるでしょう。ですから私は姉上の出生の秘密を知る者をこの世に一人も残しはしません。必ず全員殺してみせます。私はその為にここへ姉上のもとへ参ったのです。

殺すって…まさか、裏山で死んだ人たちって…。

あの山から姉上の家を監視していた連中は私が皆殺しにしました。他の者に任せると姉上のいるこの地の存在を知られ、その者も殺さねばなりませんので。

うう…。ぐすつ…。わたしがアンタの姉だっていう証拠でもあるのかな…。うう…。ヒクツ…。ヒクツ…。アンタと雰囲気は似てるとは思うけど、そんなの偶然だよ。髪の色だって、たまたま同じってだけなんだよ…。

貴女が私の姉上である可能性が高いというだけで、確たる証拠はありませんでした。

だったら！

疑わしいというだけで貴女に災いが降り掛かるのです。それに証拠がないのは少し前までの話…。失礼ながら、さきほど姉上のからだを調べさせて貰いました。私に通ずる血統を持つ者かどうか、姉上のからだの波紋を捉えてハーモニクステストを試してみました。貴女から捉えた全ての波紋が私の波紋と共振しました。貴女は間違いなく私の姉上さまです。

からだを調べたってどういうこと？ 波紋って何？ アンタ何を言ってるのよ…

魔力の源は血統であり、血の源である心臓の鼓動が魔法を生み出し固有の波紋を生じさせます。姉上はまだ魔力に覚醒しておりませんが、既に鼓動と共に小さな波紋が生まれておりました。

わたしの心音を聞いたのって…そういうことするのが目的だったの？ ぐすっ…。ぐすっ…。うっ…。うっ…。うっ…。

…はい。

そっか…。わたし…馬鹿だからさ…アンタがわたしのことを好きだからやってるんだと思ってた…。うっ…。ヒクッ…ヒクッ…。

すみません…。姉上。

アンタがわたしから距離を置くのって、血の繋がる実の姉弟で愛し合うのが気持ち悪いと思ったからなの？

いえ。

じゃ…。なんで急に帰るなんていうの…。なんでそんな他人行儀な言葉遣いになるの…。なんで誓いのキスをしてくれないのっ…。

貴女と距離を置くことお許し下さい。もしここで私情に流され貴女を連れ帰ったとしても、私と貴女の出会いという因果がある限り、いずれ貴女が私の姉上である事実は白日の下に晒されることになりましょう。姉上の命を狙う者達は思慮深く、狡猾で、偶然などという曖昧な言葉は一切通りません。どういう理由で結ばれたのか、そこから真相は直ぐ暴かれてしまうでしょう。私は貴女に危害を加える者を殺し続ける。しかし母上達にまでは手が出せない。もし姉上に何かあったら今度は止められないかも知れない…。そうなったら姉上は…。私は…。

…アンタ、泣いてるの？

…もう時間がありません。私の魔力は急速に回復していてこれ以上は抑えることが難しく、魔力が大きく漏れると、この場所を感知されます。姉上にふたつ魔法を掛けさせて下さい…。

わたしのことが嫌いになっただんじやないんだね…。

はい…。

じゃ、いいよ…。

では、今から姉上の魔力の波紋を消します。姉上から魔力の覚醒を奪うことになりましたが、これでもう貴女の血統を私の血統と照合することは誰にも出来なくなります。 ……パチッ

からだが…。胸がドキドキして痛いよ…。

先程の深呼吸をしてみてください…。

スー—ハー…。コホツ…。スー—ハー…。コホツ。コホツ。

…次に、記憶を…

い、いやよっ！ 頭を弄られるのは、絶対にいやっ！ わたし怖い
のいやなのっ！ アンタ、わたしに怖いことはしないって言ったじ
ゃんっ！

…：分かりました。しかし今聞いた話は早くお忘れ下さい。他言し
ては絶対にいけません。今まで通り、姉上がこの家のひとり娘とし
て幸せにお暮らし出来ますように…。私のこともお忘れ下さい…。
恋心の芽は、いつか姉上や私の心の中から消えることでしょう…。

待つて！ こんな別れ方嫌だよ。最後に姉上じゃなくてわたしの名
前で呼んでよ、そんな他人行儀な口調も止めてよ、わたしにキスし
てよ、さっきまでのアンタにもう一度合わせてよっ！

…：キリノ、すまない。余の力が足りぬばかりに…。チュツ（／／／／

う、ううっ…（／／／／

…：パチッ

消えた…。消えちゃったよ…。あいつ、名前も言わないで裸で帰っ
ちゃって…。馬鹿じゃないかな…。うん。馬鹿だよ。わたしのこ

と何にも分かってない。忘れられる訳ないじゃん。もう芽じゃないよ、アンタへの恋心は。アンタへの思いは……。もうっ！ 馬鹿っ！
ぐすっ……。ぐすっ……。ぐっ……。ぐっ……。ぐっ……。ぐっ……。ぐっ……。

オハヨー！ キリノ。

おはよう。アヤセ。

よかった…。今日はちょっと元気そうで。ここ数日、キリノ塞ぎ込んでいたから…。

う、うん。心配掛けてゴメン。いつまでもクヨクヨしてらんないし。そろそろ、ね。

何があつたかはまだ教えてくれないの？ 心配だなあ…。まさかキリノに限って男に振られたって訳じゃないだろうし。

……（／／／／

振られたんだ…（／／／／

ちよ、ちよっと親しくなったイトコみたいなガキが帰っちゃっただけだよ（／／／／

そっか…。そうよね。キリノって真面目だからボーイフレンドが出来たからって直ぐにキスとかする訳ないし、友達が帰ったってまたいつか会えるよ、そんなに落ち込まなくても…

……（／／／／

キ、キスしてたんだ…（／／／／

キスっていつでも殆どが挨拶みたいな軽いのをやっただけよ（／／／

そ、そうなんだ。ゴメン。キリノの心の傷をえぐるようなことにな
って……。うん。裸で抱き合ってたって訳じゃないんだから。気持ちを
切り替えて行こうよ。大丈夫、キリノなら……

……（／／／／

だ、だ、抱き合ったんだ……。ガタガタ……ブルブル……。ご、ごめんな
さい……。ガタガタ……ブルブル……。も、もうこれ以上言うの止めるね。
ガタガタ……ブルブル……（／／／／

ここで終わらないでよっ！ もう無いわよっ！ お風呂に一緒に入
って、キスし合って、からだを拭かれて、失神して、ベッドで裸に
なって、抱き合ってたところで終わりなのっ！ それ以上のこと
なんて、一、切、な、い、のっ！（／／／／

……そ、そうなんだ（／／／／

……うん（／／／／

ガラガラ……。スタスタ。ガラガラ……。ピシヤ。スタスタスタスタ。皆
さん！ お早うございますっ！

……あれっ？ キリノ……。キリノ……。カズコ先生の様子なんかオカ
シイよ？ 目が血走ってる。

……う、うん。どうしたんだろ……。

突然ですが、今日はHRと一時間目の授業を取りやめてTV鑑賞会を行いますっ！ いまこの国で大変なことが起きようとしています！ もう授業なんてどうでもよろしいっ！ 女子の皆さんっ！ くれぐれも落ち着いて、騒がず、静かに観て下さいっ！ では、プチっ
と！

……………という訳で、さきほど白帝城において無事に授与式が終わり、蓮華さまに劍聖の称号が与えられた訳ですが、サキエル卿、劍聖といえば…。

クククツ。そうでございますねえ…。劍士の最高位。この称号が与えられるのは実に200年振りのことでございます。

それだけ先の反乱鎮圧の功績が認められたということですか？ もともと蓮華さまはルーンで最強と呼び声高い天才くの一忍者でもありますが…。

クククツ。いえいえ。劍聖は功績で与えられる位ではなく、まして相対的な強さの偏差値で与えられる位でもございません。絶対基準、武において人を超えし者にのみ与えられる位です。

蓮華さまが人を超えた…。ルーン最強ならその時点で既に人を超えているのではないかと、わたしには思うのですが…。

クククツ。それは人の最強であって、人を超えるとは意味合いが異なります。蓮華が劍聖の位についたのは、単結晶魔法障壁という結界を打ち破ったことに尽きます。

単結晶魔法障壁？

クククツ。魔道具…この域になりますと神具とも呼ばれますが、その超レア・アイテムによって発生する、魔法力学において完全無欠、どうやっても壊れない結界のことです。クククツ。嘘か本当か、伝説の書には、この神具を装備した勇者がルーンの魔王を滅ぼし、人の世が生まれたと記されております。

サキエル卿は蓮華さまがその結界を打ち破る瞬間を目撃されたとか…。

クククツ。反乱部隊となった性約監査部の中にどういう訳かこの神具を装備しておる者がおりましてな。蓮華は正面から戦うなと王子からの警告を受けていたにも関わらず、性約監査本部の塔に突入後、他には目もくれず、奴に正面から突っ込みまして……。あれは人というより、興奮した猪でございますね。

で、見事に打ち破ったと。

クククツ。いえいえ。ぶざまに吹っ飛ばされておりました。しかしあの蓮華とかいう娘は頭が相当パーでございますな。床に叩きつけられてもニヤニヤしておりましたわ。で、何度も突っ込んで、七撃目だったでしょうか、クククツ。あの娘、とうとう人の域を超え、結界をバラバラにしてしまったのです。

ほお…。それは観たかったですな。

クククツ。そういう意見が出ると思いますが、今日、ここでエロス国民の前で、剣聖となった蓮華が演武を行うことに……。

……ねえ、キリノ？

……うん？

寝ちゃ駄目だよ……。

……ああ……うん……。最近さあ……。夜、眠れなくなつて……。ふあ……。ん？ ちょ、ちよつと、アヤセ……。アヤセ……。

うん？ どうしたのキリノ？

カズコ先生、物凄い勢いでTVに齧り付いて観てるけど、コレってどういう放送なの？

剣聖になつた人がいて、これからその人の演武が始まるつて……。

……剣聖？ 演武？ 先生つてそういうのに興味あつたんだ……。ちよつと意外かな……。わたしにはよく分かんないよ……。先生があんな様子じゃ寝てても分かんないよね……。おやすみ……。

ああ……ちよつとキリノ……キリノつたら……。

……TVを御覧の皆様、この会場の熱気が伝わりますでしょうか。10万人収容の王立武道館が満員です！ 剣聖位授与式の後はこちらで演武が行われることが急遽決まつてからまだ4時間しか経っていないというのに、どこで聞きつけたか、この人、人、人……。クククツ。酷い匂いでございますね。腐つた人間の酸っぱい匂いがあります。

ゴホンツ……。え、えーっ。もうそろそろ開始時刻なのですが……。

あつ！ 蓮華さまです！！ 弓道衣を纏った蓮華さまが長弓を片手に颯爽と花道からご登場~~~~っ！！ うわぁ、カッコイイですね！！ 黒髪を後ろで結って凛々しいお姿です！！ ……ですがサキエル卿、なぜ弓なのですか？ 剣聖なのだから、剣の演武かと思っていた方も多いと思いますが。

クククツ。そうでございますね。本来は剣で、というのが一番よろしいのですが、駄目な理由が二つございまして、まず剣聖となつた蓮華の剣筋を公開するのは国防上よろしくないというのが理由の一つ。蓮華の剣技を見ることが出来るのは残念ながら、あの者に切つて捨てられる者か、あの者の後進のどちらかのみとなりましよう。もうひとつは演武とは別の重要な理由があつてのことでございます。それは何かは、まだ秘密ですが、この会場の熱気をみると、どうやらもう広く知れ渡つてしまつているようでございますね…。

はい。そのもうひとつの理由について、この番組では蓮華さまの演武が始まる寸前、演武の説明と共に発表する段取りになっておりますので、もうしばらくお待ち下さい。さて、蓮華さま、いま武道館中央に設けられた特設舞台へ上がっていきます。

クククツ。なんとかは高いところに行きたがるといいますが…。嬉しそつにまぁ…。

しかし…サキエル卿。

はい。ピーナツ食べますか？

いえ、蓮華さまが弓が得意だとはわたし初耳だったので…。

クククツ。わたくしも実際に見たことはありませんが、剣聖は武に

通じ、武は弓道にも通じますので。

なるほど……。剣聖とは剣のみにあらず武の境地にあるという訳ですね。その剣聖とられた蓮華さまが、いま特設舞台へ上がられました。スポットライトを浴びてニコニコと微笑みを浮かべて、手を振りながら、弓を掲げながら、舞台中央へとゆっくり歩み寄って行かれ……。っと、あぁっ！！ ちよつとつまずかれました！ いや、かなりつまずかれました。しかし剣聖、ここは瞬時にバランスを建て直し……。あぁ……。駄目だ……。コケました。盛大なコケです。顔を強打かつ！？ 大丈夫でしょうか……。剣聖といえぞ、この大舞台でちよつと緊張しているのか……。おおっ！！ 笑顔です。満面の笑顔です。どうやら大丈夫なようです！！ 流石は蓮華さま、剣聖さま、まるで動じていません！！！！

クククツ。わたくしには鼻血を出しながらの照れ笑いに見えますが、それに手足がロボットののように右左で同時に出ておりますぞ……。クククツ。この演武、本当に大丈夫なのでしょうかねえ……。

威風堂々、蓮華さまが長弓を持って武道館のステージ中央に仁王立ち！ その頭上、武道館を覆うドームがゆっくりと開いていきます！ この武道館より3km東、国立競技場グラウンドに20m間隔で横一列に10の的が並んでおり、それらを蓮華さまがこの場から魔法を使わずに、順に射抜いて行かれます。尚、魔法干渉を防止する為、会場内外での魔法使用は一切禁止です。遙か上空で魔力観測衛星ひまわりが監視をしています。魔法を感知するとアラームが鳴り、魔法使用者は処罰せられますので、お気を付け下さい。

クククツ。今回わたくし不正者を断罪する任を受けております。もし観客の中の誰かが魔法を使おうとした場合、魔法発動前にわたくしが処刑しますのでアラームが鳴り響く事はないでしょう。代わりに愚者の悲鳴が鳴り響くでしょうが。

そ、そうでした。サキエル卿がここにおられるのはゲスト解説としてではなく、演武の見届け人として不正者を断罪する為に来ておられます。くれぐれも魔法の使用はお控え下さい。

クククツ。もう少し前に警告するべきだったかもしれません。よいしょと。ドサツ。ドサツ。

……サキエル卿の後ろに現れた生ゴミ袋の中身も気になりますが、この会場の大観衆やTVをご覧の皆様が気になるのは、やはり蓮華さまの演武がなぜ弓なのか、そのもうひとつの理由についてでしょう。既に噂でご存知の方も多いと思いますが、なんとこの演武、王子のハーレム候補さまを決定する抽選会も兼ねているのです！！ 10の的はそれぞれルーレットになっていてクルクルと数字が回転

しています。蓮華さまの矢がそれぞれのルーレットに当てた数字を順に10個繋ぎ合わせて出来た市民番号の方がハーレム候補さまとなられるのです!!

クククツ。これまでハーレム候補の選考は身分・出自に関係なく平等に行われ、数々のシンデレラストーリーを生み出して参りました。特に感動的なものは、童話や絵本となって幼女に読まれ、漫画やアニメやコバルト文庫となって少女に読まれ、朝の連続TV小説やハーレクイン小説となって熟女に読まれ、次第にハーレムはエロス国の女性の憧れの対象となつていったのでございます。しかしこの国の女子の数に比べ、王子の御身はひとつしかございません。実際には王子の目に触れることもなく、残念ながらチャンスが生まれなかつた方々は沢山おられるのです。この機会不平等に王子は胸を痛まれましたな。で、今回、蓮華の剣聖の演武を兼ねて、全ての未婚の女性に機会どころか完全に平等なチャンスを与えようと、ルーレット選考方式を試験的に実施することにしたのでございます。

なるほど、確かにこのように、宝くじの抽選のように決めると平等ではありませんが、しかしハーレム候補さまの選考基準が未婚女性の縛りしかないのは、つまりその…。

クククツ。ええ、0才児の女の赤子であろうが、100才の老婆であろうが、射抜かれた数字が示す方が未婚女性であれば、誰であろうが王子のハーレム候補になるということでございます。もっともハーレム候補は本人の同意なしに成立しませんので、0才児の赤子が意思表示を出来る筈もなく、残念ながら後で無効になるでしょうが。

完全に運任せでは王子ご自身の意思は全く反映されないことになります。王子はそれでよろしいのでしょうか？

クククツ。それは大丈夫でございます。王子は分け隔てなく女性を愛すると。すべての女性がいとおいなどと、まるで何かを悟ったような達観したことを最近口走るようになりましてな、どんな方でも王子のご寵愛を受けることが出来ると思っていますよ。

とても10才の少年の言葉とは思えません…。

クククツ。庶民に生まれていれば繁華街でホストでもやって大成していたかも知れませんか…。

ゴホゴホツ…。え、えーっ。王子のハーレム候補さまとなるのは、この国の女子の誰もが一度は抱く夢なのです！！平民でも貴族でも女性なら誰にでも平等にチャンスがあるのです！！さて、メルルさまに続いて二人目のハーレム候補さまに選ばれる女性は誰なのか、全ては蓮華さまの矢の行方次第！！そろそろ射撃時間です。蓮華さまに注目しましょう！！

クククツ。なかなか動きませんな。

はい。動きません。全くピクリとも動きません。片手に弓を持ったまま微動だにしません。蓮華さま目を閉じております。凄い…集中力です…。魔法は出ていないのに…なんなんでしょうこの突き刺さるようなオーラといいますか、気迫といいますか…。さっきまで騒がしかった場内がシーンと静まり返ってしまいました…。

クククツ。外したら大恥ですから、あの娘もいつになく本気を出しておるのでしょうか。しかし的が3km先で全く見えぬ上に魔法が使えぬとあっては、的の位置はGPSの方位座標で確認する他ない筈ですが、あの娘、足元のモニターを全く見ておりませぬ。勘でやる

気なのでしょうかねえ…。

勘ですか…。それで当たれば確かに人は超えています…。しかし、そもそも魔法なしで矢が3km先まで飛ぶのか、そこから疑問なのですが…。

クククツ。蓮華が手にしているのはコルト社製の最新式の軍用重長弓、超長距離狙撃用1500mmヘビースコーピオンです。魔法抜きでの有効射程範囲は2800m。最大到達距離は4500m。重さは320kg。超軟性チタン合金フレームに新素材の微細ケブラー繊維で編み込まれた超反発・超張力の弦が張られています。追い風ですので、3000mなら余裕でしょう。

到達距離以前に魔法なしで320kgを軽々と持ち上げてることに驚かされるのですが…。

クククツ。あれは本来、魔法による補助があることを前提にして設計された長弓なのです。今回のように魔法なしでも使えなくありませんが、そのような場合は手に持って使うようには出来ておりません。あの者の腕力が異常なのでしょう。

まさに剣聖。超人です…。想像を絶する能力です。わたし、根拠はありませんが、蓮華さまが矢を確実に的に当てるに違いないと思えてきました…。

クククツ。いや、当てるでしょう。剣聖ならこれくらい魔法を使わず当てる当然でございます。しかし先程も申した通りあの者の頭は相当パーでございますから、おそらく…。クククツ。ああ、やはり、やると思いました。

えっ？ それは…。 あっ！ 蓮華さまが動きました！！ 10本の矢をムンズと握って弦に引っ掛け、セツト！！ 美しい…。 ピンツと真っ直ぐに伸ばしていた背筋がやや弓形となり、弦を思い切り引いて、からだは全く微動だにしません。 いやぁ…見事です。 綺麗な射撃姿勢です。 素晴らしい…っ、いや、ちよつと待つて下さい…。 どうして10本全部の矢を一度にセツトなんでしょう？

クククツ。 馬鹿ですから一度に全ての矢を撃つ気なのでしょう。

な、なんとここで蓮華さま！！ アドリブで難度を上げて来ました！！ 大丈夫なんでしょうか…。 あっ！ ああっ！！ い、いま矢を射られました！！ 10本全ての矢が一度に発射され、全てが中空へ吸い込まれて行きます…。 カメラを3km先の競技場へ切り替えましょう。 競技場の観客席には昼から行われるサッカーの試合を待っていた観客、2万人がいます。 さて彼等は歴史的瞬間を目撃することになるのでしょうか、どうでしょうか。 矢は的に全て当たるのでしょうか！！

クククツ。 間違ってもサッカーファンは射殺さないで欲しいですね…。 これで全体的に当たれば、歴代の剣聖と比べて中の上といったところでしょうか…。

ストン！ ストン！ ああ…。 ストン！ ストン！ ストン！
ストン！ ストン！ 凄い…。 的に次々と…当たって行きます。 ストン！ ストン！ 最後の的も…。 ストン！ 見事に…。 はあ…。信じられません。 狙ったように、いや勿論、狙ったのでしょうか…。 どうやって見えぬ的をこんなに正確に…。 凄いです！！ 蓮華さま万歳！！ 剣聖万歳！！ エロス万歳！！

クククツ。 いやいや、お待ちなさい。 まだですよ。 これはハーレム

候補を決める演武でございますから、射抜かれた的のルーレットの番号が指し示す人物が未婚女性でなければもう一度やり直してございます。クククツ。早く番号を確認して住民番号から、氏名、性別、未婚既婚の区分を検索して発表して下さいな。

そ、そうでした！ す、すみません。蓮華さまがあまりに見事的に射らたことに心を奪われ、もっとも重要なことを忘れていました…。さて、矢に射られたルーレットの番号は……。2、4、6、3、6、7、9、3、1、1です。ハーレム候補さまの住民番号は2463679311、検索出ました。高山キリノ、女性、未婚、セクト地方ゼブン在住、13才です。ほお、これは年齢的に王子のお相手としてピッタリの女の子ですね。このような神懸りの演武によって、神の加護があったのかもしれない…。キリノさまおめでとうございます、TVを観てらっしゃいますでしょうか、貴女さまが王子のハーレム候補さまに決定しましたよ！！ あっ、いまデータバンクからキリノさまの写真が転送されて来ましたので公開します。全国の皆様！！ この方がハーレム候補さまになられましたキリノさまです。いやあ、綺麗な金髪とエメラルドグリーンの瞳がとても印象的です。利発そうな可愛い女の子……

……キリノ起きて……。

……んんっ……。

……ねえ、キリノ……。

……んっ……ふうああっ……もう終わったの？ ちよつとだけ寝れたみたい……気分がスッキリしたよ……。ん？ ううっ……。アヤセ……。アヤセ……。みんなどうしてわたしの方を見てるんだろ……。

コンコン…。黒猫姫。入るよ。

……なに？

わあ…。ダンボール箱が沢山…。荷物もそこいらに出しっぱなし…。酷いなあ…。ちよつとベッドに寝転がってもいい？ もう疲れちゃつて。バフィン。

家主の返事を待ってから行動なさい…。で、私になにか用なのかしら？

幼馴染に会いに来たってだけ。どうしてるかな。つてさ。

そう…。息災よ。朝の放送見たわ。貴女、剣聖になったんですつてね。おめでとつ。

ありがとう。

でも…。いえ、やめておくわ。ごめんなさい。

気になるだろ。いいなよ。

じゃ、言わせて貰うけど…。あの演武は最低だった。

ふん…。どうしてそう思つたの？

貴女がああの番号を狙って射抜いたから。誰にでもハーレム候補にな

れるチャンスがあるというのが嘘だったから。全国の女性の期待を裏切る行為だったから。

3 km先のルーレットの数字を10個同時に狙って射抜くことが出来ると思うの？

逆に聞くけど、3 km先の的に当てるだけなら動作もなかった筈でしょ。どうしてあそこまで本気になる必要があったのかしら？

当てるのに動作もない的だから外したら恥ずかしいじゃないか。

射撃前の転倒って完璧に演武をやってしまったとルーレットの数字を狙える実力があると思われてしまうからワザと転んだんでしょ？

一度に10本の矢を同時に発射したのだから突然に演武の技の難度を上げることでそれ以上の技はもうないって思い込ませたかったんでしょ？

確かにあの番号を狙ったけど、転んだのはわざとじゃないし、10本同時に矢を射つたのはそうしないとあの番号は射抜けないような気がしたからだよ。なんとなくだけ。

貴女、本当にあの数字を狙って矢を射つたの？ 凄いわね…人間技じゃないわ…。剣聖の位って伊達じゃないんだ。

なんだ鎌を掛けてたのかよ…。

あの番号通りに射るよう王子に頼まれたのかしら。

王子ねえ…。アイツにそこまでの根性があればいいんだけど。

違うの？

アイツ最近、塞ぎ込んで…。何があつたか聞いても、余はもう駄目じゃとか、余はなさない男じゃとか、あの者の心を傷つけてしまったとか、グチグチいうばかりでさ…。仕舞いには、余はもうハーレム候補を選考する資格がない、この国の女を分け隔てなく愛せうとか馬鹿なこと言い出してルーレット選考なんて下らないことをする始末なの。私さ、腹が立ってアイツの頭の中を魔法で覗いてやっただ。

主をアイツ呼ばわりの上、主の頭を覗く…。貴女って最低のお庭番ね…。でもあの魔王子の頭をよく覗けたものだわ。あの子、底知れない魔力を持つてるから警戒していたのだけ…。

今のアイツなら簡単に覗けるよ。でき、覗いたらどうだったと思う？

この話、まだ続けるの？ 悪趣味ね…。まあ、いいわ…。どうせ女絡みでしょ。振ったとか、振られたとか。

だから、アイツにそこまでの根性があればいいんだけどね。アイツさあ、好きな女の子が出来たんだよ…。キリノって子なんだけど、でもそのキリノが母親に虐められて酷いことになるのが怖くて、その子の前から逃げ出したんだ。それってどう思う？

とんだヘタレね。

虐められるって言っても、殺されるって意味なんだけどね。

それは尋常じゃないけど、でも同じことよ。好きになった女の子を守れないなんて、とんだ腰抜けだわ。将来この国の王となる王子が

そんなことでは、安心して暮らせない。

うん。私もそう思って、だからあのルーレット選考のときにキリノって子の住民番号を狙ってやったの。グチグチ言って逃げてないでこの子を守ってみせろって思いながら射っちゃったのよ。……まさか本当に射抜けるとは思わなかった。自分でも吃驚してるんだ。私、剣聖になってから能力が上がってるのかな…。

…王子、怒ったでしょ？

そりゃ、もう凄い怒りようで、偶然です！ って言っても信じてくれないし…。

いったい何百万分の1の確率の偶然なのよ…。

だから王子の怒りが収まるまでここに泊めて貰うかなって思ったの。家にいると王子がやって来て煩いのよ。キリノが来たら余はどうしたらよいのだから、余を虐めてそんなに嬉しいかとか、余の頭を覗くとはなんと破廉恥とか。まあ、愚痴はいいんだけど。旦那は仕事でしばらく家に帰って来ないんだ。あんな美少年と夜中二人でいたら、いろいろ世間体ってのがあろうでしょう？ ムラムラして我慢出来なくなるかも知れないしさ。ここに泊めてよ…（ノノノノ

……駄目よ。家に帰って王子を襲って男にしてやりなさい。

そんなこと言わないで…。いいじゃん…。一週間くらいでいいから。

一週間も泊まる気だったの？ ハア…。この部屋の有様を見て気付きなさい。私は退学になったのよ。それで退寮するところなの。先週の評価テストで不覚にも赤点を取ってしまったね…。ふふっ。貴

女は剣聖。アツプリケはメルルのお側役。幼馴染二人は共に大成功しているというのに、私はプーよ……。どうしてこう上手く行かないのかしら……。

黒猫姫もアツプリケと同じくお側役を目指してるんだらう？ 退学になっただくらいで諦めるなんてらしくもない。

このメイド学園を退学になったら、お側役にはなれないのよ。卒業した者でないとお側役になれない仕組みになってるの。法律で。

ふん。

……これは言い訳じゃなく本当のところなんだけど、もうお側役に未練はないの。エロス王家の中枢に入り込む手段としてお側役が理想的だったから、それを目指してただけ。……でも刺し違える覚悟で復讐を誓った愚王のケインは失脚して煉獄の塔に幽閉されてしまったわ。アベル王子には何の恨みもないし、貴女を敵にもしたくない。

私も黒猫姫の敵になりたくないな。

……その黒猫姫って呼び名、もうやめてくれないかしら。7年前、確かに私の家はエロス直系の名家だったけど、それは昔の話よ。もう姫じゃない。家も国もケインの姦計によって潰されたのだから……。

じゃあ、黒猫さん。これからどうするの？ 行く当てはあるの？

猫耳でも付けてメイド喫茶で働くわ。この学校で学んだことを活かせるかも知れない。あと私、ラノベ作家になろうと思うの。

……えっ？

まだプロじゃないけど、小説を書いてネットで公開してるのよ。

どれ？ 読んでみたい。そのPCで見れるんでしょ？

うん……。カチカチ……。えっと、このサイトに書いてるの。これが私の作品（／／／／

124点？ この点数って高いの？ 低いの？ ……いや、ていうかアンタ怖い顔してどうしたの？

朝は126点だったのに。2点減ってるわ……。誰かお気に入りを外したわね……。この裏切り者には罰を与えないと……。ふふっ……。どうしてくれようかしら、そうだ……。漆黒の炎で……。

そろそろ読んでもいい？ どれが一番面白いのかな？

ああ……。ごめんなさい。私としたことがちょっと取り乱してしまったわ。私が書いている作品の中では一番のオススメはこれなの。読んでみて。 ……どう？（／／／／

……まだ読み始めたばかりだから。

……そう（／／／／

……ふん。

……チラッ（／／／／

……へへえ。

……ビクッ（／／／／

……ほお。

……チラッ（／／／／

なるほどね。これって…

待って！

へっ？

貴女もPC持つてるでしょ。なら自分のPCで投稿サイトのアカウントを取って、私の作品感想欄に感想を書きこみなさい。強制はないけど評価点やお気に入りも入れるべきね。

……ここであなたに直接感想を伝えるのは駄目なの？

感想と評価点とお気に入りを投稿サイトに入れてくれると私は凄く嬉しいの。朝起きてPCを付けてそういうのが入っていると、もっと頑張ろうかなって私は思えるの。

そっか…。わかった。じゃ、しょうがないね。家に帰るか。あなたの作品に感想を入れれないといけないし。

ふふっ。ヘタレ王子によろしくね。

うん。私はヘタレ王子を理想の王となるように調教する。少しヘタ

レの方が開発の余地があつて面白いよ。ゆつくり時間を掛けてジワジワと王子を私好みの男へと作り変えてやる。でもハーレム選定の期間が終われば直ぐにも戴冠式だ。時間がない。王子以外の他のことには手が回らない状態なの…。だからアンタはハーレム候補のキリノさまの方をよろしく。ああ、これ彼女のお側役への就任辞令。王子の印を拝借して特例でねじ込んだから。今日中に鳳凰宮に入つて。いやー。引越しの準備をしてくれてて丁度良かったよ。

…：…なんでわたしがそんなことを。

いいじゃん。アンタはいまプーなんだし。それに本気で小説家を目指すならハーレム候補のお側役を受けた方がいいんじゃないかな。小説のネタになるし、側仕えが書いたハーレム小説っていくつか出てるけど、どれもベストセラーだよ？

えっ…。

あれ？ 知らないの？ あんたがさつき見せた投稿サイトでも見掛けたけど…カタカタ。ほら、やつぱり。この1位のやつがそうだよ。私は本屋で買って読んだけど元々はここに投稿されてた小説だったんだね。

うっ…。

お側役どうする？ やる？ やめとく？

そ、そうね。仕方がない。幼馴染の貴女が困ってるようだし、お側役、引き受けてあげてもいいわ。

そうか…。ありがとう。

でもメイド学園の落ちこぼれの私に、お側役としてはあまり期待しないでよね。ボディーガードとしてなら、お給料分くらいは働けると思うけど。

アンタが仕えるハーレム候補のキリノさま、別の時間軸では私がミスしたせいで、とても酷い目に合ったみたいなんだ。この時間軸ではもう絶対にそんな目に合わせたくない…。アンタが守ってくれたら安心だよ。でもね、やって貰いたいのはそういうことじゃないんだ。アンタのここを…。

い、いやっ…。胸の膨らみを…突付いたり撫ぜたり…。しないで…。んっ…。貴女、一体わたしの胸に何を期待しているの…。ひゃん…。わたしの胸に何をさせようというの…。(ノノノノ)

違う。オッパイじゃない。ていうかアンタ膨らんでないから。

なっ、なんて失礼なのっ(ノノノノ)

そうじゃなくて、その奥だよ。

胸の奥？ 私の心とでもいいたいのかしら？ それともまさか波紋のことをいってるの？

その両方をキリノさまに伝えてくれ。頼むよ。

……キリノ様はエロス王家が大切にお預かりします。電話や手紙は鳳凰宮入りの式典の後まで禁止されておりますので万一緊急のことがありましたら、お側役である私、黒猫の方にまでお願いします。直ぐにキリノ様へお伝え申し上げますので……。式典の招待状は追ってお送りします。キリノ様のお荷物に関しては式典の後にお送り下さい。……では、キリノ様、馬車へお乗り下さい。

はい……。とぼとぼ……

皆様、お見送りご苦労さまでした。失礼します。ペコリ。テクテク……。ボタン。……では馬車を出して下さい。ガタガタ……。ゴトゴト……。ガタガタ……。ゴトゴト……。ふう……。いま朝の9時だから王子のいる白帝城には午後2時ごろに到着かしら。途中でお昼休憩の為にカテロン地方の領主ブルボン伯のショートニング城に1時間ほど立ち寄ることになるわ。盛大に料理が振舞われると思うけど、あまり食べ過ぎないで……。

フルフル……。フルフル……。フルフル……。フルフル……。フルフル……。フルフル……

……貴女、いつまで手を振ってるのかしら？

すみません……もう見えなくなりました……。うう……。もう止めます……。ヒクッ……。ヒクッ……。

そう。ならこのハーレム候補パーフェクトガイドブックの封を破って読んでみて。ドサツ。700ページあるけど最初の方はエロス王

家の歴史とか王族の家系図とか下らないことしか書いてないから読まなくていい。いま重要なのは250ページからの基礎的な礼儀作法と言葉遣いについて。正午までにちゃんと頭に入れておきなさい。は、はい…。汗汗…。

これからいくつか簡単な質問をするわ。ガイドブックを読みながらでいいから簡潔に答えて。絶対に嘘は付かないでね。後々、面倒なことになるから。

はい。

貴女、本当にハーレム候補になることに同意するのね？

…はい。

何故？

わたし…昔からハーレムに憧れてて。

恋人はいないの？

…いたけど…わたしから逃げちゃいました…。

どうしてかしら？

…それは…いえません…。

キリノ…。私は貴女のお側役なの。これからは貴女を公務からプライベート全般までどんなことでも1日24時間、毎日サポートする

わ。初対面で恥ずかしいのは理解できるけど、恥ずかしがらないで。隠し事をしないで。私に良く思われようなんて愚かしいことは考えないで。貴女がどうであれ、仮に高慢なビッチであったとしても、変わらず全力で補佐して守るのがお側役なの。いい？

すみません…。でも、アイツが絶対に他言してはいけないうて…。

つまり相手の男性は貴女から離れる理由を貴女に告げたが、貴女はその理由を他言してはいけないと、その相手の男性に止められてる訳ね。

はい…。

相手の男は貴女より年上なの？

いえ、まだ10才くらいです…。

名前はいえない？

知らないです…。

彼とはいつ知り合って、いつ別れたの？

10日ほど前の夜に出会って、その夜に別れました。

彼とセックスした？

し、してません（／／／／

キスもしてない訳？

キスはしました(/ / / /

何回くらいしたのかしら？

へっ？(/ / / /

キスは何回したのかしら？

言わなくちゃ駄目なんですか？(/ / / /

相手との親密度を知る上で重要なことだから…。言えないの？

数えてないから分かりません(/ / / /

じゃ、大体でいいわ。？10回以下 ？20回以下 ？50回以下

？100回以下 ？それ以上。何番かしら。

多分、5番です…(/ / / /

どうしてそんなにしたの？

ふえ？(/ / / /

どうして一晩で100回以上もキスをしたのかしら？

好き…だったからです…(/ / / /

どうして好きだとキスをするの？

好きな人とキスすると…心が満たされて気持ちいいから…（／／／／
どんな感じに気持ちいいの？

か、からだが痺れたようになって…アイツの他に…なにも考えられ
なく…なります（／／／／

また彼とキスしたい？

はい…（／／／／

貴女、もしかしてまだ彼のことが好きなんじゃないの？

好きです…（／／／／

そうなの…。これは厄介ね…。貴女がまだ過去の恋人を思ってるつ
てのはハーレム候補としてかなり問題のあることなの。ハーレムに
入ったら貴女にはアベル王子のことだけを想って、彼だけを愛し続
けて貰わないと…。もし…王子との仲が上手く行かなかった場合、
貴女の頭に少し魔法を掛けて彼との記憶を消して、貴女が王子だけ
を愛するように嘘の記憶を刷り込むことになるけど、いい？

えっ…。

離婚出来ないんだから仕方ないじゃない。王子と険悪なまま後宮の
中でひとり寂しく一生を過ごすより人道的だと思うけど。

い、いやだ…。

大丈夫、痛みはないわ。貴女が寝ている間に記憶操作魔法を済ませ

られる。夢の延長みたいなものよ、子供のゴツコ遊びの大人版って
いった方がいいかしら。色々なシチュエーションを試して、貴女が
もっとも快適で興奮する蕩けるような甘い記憶を一生醒めないよう
に刷り込んであげる。一流の魔法使いがやるから絶対に精神汚染の
心配はないわ。全然怖くないから。

違う…。怖いとかじゃなくて…。そうじゃなくて……。

……そうじゃなくて、なんなの？ 続けなさい。

……わたし…アイツの記憶を失いたくない。

ハア…。そんなに彼のことが好きなら、どうしてもハーレム候補にな
るのかしら？

だってアイツにはもう会えないんだもん…。会えないんだから…し
ようがないじゃん…。

彼のこと探したの？

……。頭フルフル。

探してないのにどうしてももう会えないなんて言うのかしら。

それは…。だって…。会えたとしてもアイツはわたしを…。

駄目ね。それじゃ上手く行く筈もない。自業自得だわ。逃げられる
のも当然ね。

なっ…。

自分から何もしないで上手く行くようには、この世の中出来ていないの。相手がどうしたとか、どう思ったじゃない。貴女がどう思い、どう行動したか、その結果が今の貴女なんだわ。ハーレム候補にしても同じことよ。貴女はクジで選ばれて、今度は憧れだけでハーレムに入ろうとしている。それが必ずしも悪いとは言わない。でもね、ハーレムに入って王子とキスをして、貴女は果たしてその子とのキスと同じように心が満たされるのかしら…。ハッキリいうわ。このままハーレムに入れば貴女は直ぐに洗脳魔法に頼ることになるでしょう。偽りの中でしか生きられないほどに今の貴女は脆弱なの。本当の愛なんてこのままじゃ絶対に得られないわ、貴女は…

びろ〜びろろ〜びっぴっ。ろろ〜び〜。ああつ、ご、ごめん
なさい。携帯が…。ピッ。はい…。ああ、なんだアヤセか。ああゴ
メン。今？ 馬車の中。ええっ？ そんなことないよ。えへっ。
お昼、ご馳走みたい。あはははっ。うん…わかった。でも今はちょ
っと…。えっ？ わたしをモデルに新作書いてくれたの？ うわあ、
読みたい。うん。後で掛けなおすね。プチッ。

……。

……すみません（／／／／

……貴女、猫被ってない？

……ち、ちよっと（／／／／

ここが白帝城……。可愛い城だね。お昼ご飯を食べたショートニング城はこの10倍はあったような……。それに城に入ってから人の気配が全然ない……。ちょっと寂しいところね……。わたし白帝城って、もっとドゥンと大きく聳えてて、人が沢山いるところかと思った。モジモジ（／／／／

この国を実際に動かしているのは白帝城じゃなく鳳凰宮なの。本来この城が持つべき官庁機能は全て鳳凰宮に移っているわ。だから文官、武官、大臣、諸侯らはこの城に一人も居ないの。この城にいるといえば、王子、近衛のお庭番衆、料理人、メイド、執事……。全員入れても50人くらいかしら。だから城の殆どの部屋が使われてなくて、これでも広いくらいなのよ。まあ、今日は貴女を歓迎する夕食会が夜の9時から開かれることになるから、じきに諸侯たちが集まって来て賑やかになるでしょうけど……。

ふん……。白帝城……。わたしがイメージとは随分違ったけど、城の名前から連想した白ってのはイメージ通りだよ。このお城って外だけでなく内も真っ白……。壁も天井も床も全部白なんだね……。凄く綺麗……。モジモジ（／／／／

魔法を掛けられたことが直ぐに分かるよう、オリハルコンの白い粉末が練り込まれた漆喰で厚く塗り固められているの。なにかあればオリハルコンが魔力と共振して赤く発光するわ。何百年か昔の対魔法用のハイテク技術ってところなんでしょうけど、今はそんなのを使わなくても高感度で高精度の魔法感知ソナーがあるし、オリハルコンを発光をさせないステルス魔法も開発されたから、もう城を白くする必要はどこにもないのだけれど、歴史遺産ってことでエロス

建国当時のままの姿を残しているわ。

へえ……。でもエロス建国当時っていうと戦国時代よりもまだ前になるけど、その頃ってオリハルコンをつくる技術がまだ発見されてなかったんじゃない……。モジモジ（／／／／

それは精製する技術がまだ発見されていないというだけで、自然界には魔法科学反応で出来上がったオリハルコンが微量ではあるけど……って、貴女、さっきから気になってただけど、何をモジモジしているの？

ト、トイレ……（／／／／

もう少しで貴女の控え室に着くから我慢して。

ど、どこにあるの？（／／／／

この通路を真っ直ぐ行って右に折れると階段があるから、それを昇って出たホールを真っ直ぐ行くと、最上階への直通エレベーターがあつて、それに乗って最上階まで行くの。着いたら直ぐ……

黒猫さん……。足を止めないで説明しよう……。説明は歩きながらでも出来るじゃん……。／／／／

えっ、ええ……。じゃ、ちょっと急ぎましょつか。テクテク。テクテク。テクテク。テクテク。……ねえ、貴女どうするの？

……トイレに（／／／／

そうじゃなくてハーレム候補のことよ。貴女の携帯が鳴って話が途

中になってしまったんだけど。

……この部屋にはトイレないのかな？（／／／／

その部屋は使われてないわ。鍵が掛かってる。さっきも言ったけど、この城には殆ど人がいないの。だから使われてない部屋が大半で…

トイレだけってのはないの？（／／／／

トイレは基本的に部屋の中に備え付けられたものしかないわ。そんなことより…

そんなこと！？ アンタこの非常事態を軽視し過ぎてるんじゃないのっ！？（／／／／

……えっと、我慢の限界を100として、今どれくらいなのかしら？

99（／／／／

ハア…。根性で限界を120くらいに引き上げなさい。あと5分くらいだから。（5：00）

う、うん。5分なら（／／／／

時間といえば、いま午後の2時半ね…。貴女はこれから控え室に入
ってまず湯浴みをして貰うことになるの。なんと露天風呂よ。この
城に入ったハーレム候補は城の地下10000メルテから汲み上げ
られた温水で身を清めることが慣例に…。あれ？ キリノ？ どう
してしゃがみ込んでるの？ 顔が真っ青よ。（4：40）

ハアハア…。大丈夫、収まったみたい。行くわよ…。

え、ええ…。それで身を清めるのに大体1時間掛かるから終わって夕刻の4時ごろになるわ。それから夜7時の王子との謁見まで、しばらくは特に何も無いのだけ。そのときに謁見用と夕食会用の二つのドレスを一応試着してみたいの。寸法は絶対に合ってる筈なんだけど、万が一ということもあるし。(4:20)

そうだね…。ああ…。やっと階段…。昇りかあ…。

…ねえ？(4:00)

…なに？

貴女もしかして我慢してるのってオシッコじゃなくてその、ウン…なの？(3:50)

今頃気付いたの！？ そうよ。ウンコよ、ウンチとも言うわ。何を上品振って伏字にしているのよ。アンタだって毎日するでしょ？わたしは今しようとしている、それだけのことよ！

おっ、落ち着きなさい、そんなに興奮したら…。(3:35)

ハアハア…。ハアハア…。

このホールの先にエレベーターがあるわ(3:30)

ハアハア…。ハアハア…。

エレベーター来ないわね(2:50)

ハアハア…。ハアハア…。

気を紛らわす為に、歌でも歌いましょうか？ (2:40)

ハアハア…。ハアハア…。

クロクロネコネコ　　クロネコ　　クロクロ　　シロネコ
ヤマネコ　　(2:20)

ふざけんなあ！！　この馬鹿猫！！

なっ、なんですって、このキス魔ビッチがっ！ (2:10)

もう駄目だよ。ううっ…。うあ…。ヒクッ…ヒクッ…。

貴女は諦めるのが早すぎる…。諦めたらそこで終わりなのよ。もっと強くおなりなさい…。自分を信じ、頑張り続ければ、不可能だと思い込んでいたことも、ほら…。 (1:50)

ウイーン…。チーン。ああ…エレベーターが…。

それは降りよ。帰って来るのを待ちましょう。 (1:40)

ううあん…。ううっ…。ヒクッ…ヒクッ…。

ウイーン…。チーン。昇りが来たわ。さあ、乗るわよ。ゆっくり歩いて。 (1:10)

ヒクッ…ヒクッ…。

城の最上階は全ての部屋が使われているけど、控え室が一番近いから。ドアを出て右の通路の最初の部屋なの。(1:00)

ハアハア…。ハアハア…。ああ…。

チーン。着いたわ。最上階よ。頑張つて！ああ、焦っては駄目。呼吸を一定に、吸って吐いて。吸って吐いて。はい。ゆっくり歩いて。(0:40)

ハアハア…。ハアハア…。はう…。うう…。ハアハア…。ハアハア…。ああ…。

ガチャ。さあ、ここが貴女の控え室よ。綺麗でしょ。トイレはその奥の扉だから、存分にね。よく頑張ったわ。(0:30)

うん…。うう…。ガチャガチャ。ええっ！あつ、開かないんだけどっ！？

ガチャガチャ。あら…本当だわ。故障のようね…。扉が開かないわ(0:20)

もう駄目だよ…。もう絶対に無理だ…。ヒクッ…ヒクッ…。

そうだわ。鏡台の側に備え付けられてる、このちいさな木製のゴミ箱をオマル代わりにするってのはどうかしら。ちよっと口が小さいけど…(0:15)

えっ…。それは…。でも…。でも…。でも…。でも…。

ハア…。わたし…人前であんなことを…。それもあんなに…。床に漏れなかったのは奇跡だけど…。ああ…。もう死んでしまいたい…。

ガラガラ…。死ぬなんて言葉を気軽に使って欲しくないわね。

キヤツ！！（／／／／

貴女、あんなところを見られて、まだ恥ずかしがるの？

だって、はだか…（／／／／

お風呂に入るんだから当たり前でしょ？ 貴女も裸じゃないの。

そ、そうだけど（／／／／

あらっ、まだ洗い終えてないのね…。まあ、どちらにせよ私が洗い直すけど…。

い、いいよ。自分で洗うから（／／／／

それは駄目よ。ハーレム候補を迎えるときには慣習に則った洗い方をしないと…。これは貴女のお側役である私の勤めなの。任せて。

……う、うん…（／／／／

それじゃ…。あらっ…？ あれっ…？ キョロキョロ。

どうしたの…？

この辺りにバケツが置かれてなかったかしら？

洗面器の山の向こうにあっただけ…。

ああ…これね…。このバケツには全身洗淨液が入ってるの。貴女の頭からぶっ掛けるから目を閉じてて。

えええっ！ ちょ、ちよつと…！

ドバドバドバ…。ドバドバドバ…。ドバドバドバドバドバドバドバドバドバ…。

わわわわっ。うわああ…。なんか凄くネバネバしてるんだけど…。うへえ…。ちよつと鼻や口に入った…。ペツ…。凄く苦い…。

海草を使った天然成分で体に害はないわ。…じゃ、いまから洗うけど、貴女はリラックスして体から力を抜いてて。ちよつとくすぐりたいかも知れないけど我慢してね。

う、うん…。

ああ、あと、洗うのと同時に貴女の身体の精密検査もするから…。

検査…？

もう…そんな心配そうな顔しないでちよつだい。私、ちゃんと医療免許を持つてるんだから。

そうなんだ…。凄いなだね…。アンタに比べてわたしは何も出来ず、小さな子供みたいにウンチまで漏らす始末よ…。

前半は反省して改善なさい。でも後半は気にしないでいいわ。漏らしたのは貴女のせいじゃない。貴女、悪質な下剤を食事に盛られたの。

えっ…？

お昼を食べたブルボン伯のショートニング城でね…。庶民からハーレム候補として選ばれた貴女に、ひよっとしたらブルボン伯が何か嫌がらせをするかもとは思ってたけど、まさかこうも大胆なことをしでかすなんて…。

わたしが庶民の出だから下剤が入れられたっていうの？ まさか…。ブルボン伯は温厚で親切そうなオジサンって感じの人だったし。単なる食あたりだったんじゃない…。

人を見掛けで判断しては駄目よ。アイツは最低のゲス野郎なの。魔法を使えない庶民を毛嫌いして生きる価値がないとすら思っている。下剤が入れられた証拠もあるわ。緊張状態になると排泄神経を刺激して排便を促す薬物が貴女のウンチから検出されたの。魔法で偽装されてたから医療機関の成分分析器では見逃したでしょうけど、私の特殊魔法能力『猫猫診療室』は触れた対象物の構成要素を全て暴き出す。どんなに魔法で偽装していても無駄なことよ。ふっ。どうせ王子との謁見で貴女に脱糞の大恥をかかせ笑いものにして、今後のハーレム候補は庶民ではなく貴族の娘…という流れにしたかったのでしょうけど。貴女が怖がりで良かったわ。城に入っただけでクスリの効果が発動したんだから。

ち、ちょっと待って。つまりアンタは魔法使いで、わたしが下剤を飲まされたかどうか調べる為に、わ、わたしのウンチにさわったってこと！？（／／／／

そうよ。貴女のウンチが入ったゴミ箱の中に手を突っ込んで、グチャグチャと掻き回してクスリの痕跡を探したの。大丈夫よ。素手でやったけど後で手はちゃんと消毒したから。

ア、ア、アンタ、ゴミ箱は湖に捨てるって言ったじゃん！（／／／／

嘘よ。

嘘って、そんなアツサリ…。まさか控え室のトイレのドアが開かなかったのも魔法で…。

壊したわ。ウンチがトイレで流されると調べられなくなるし、トイレの便器から貴女のウンチを取り除くのも嫌だし、ゴミ箱にしてくれたら楽だなんて…。

信じらんない！ ていうか、トイレに手を突っ込むのは嫌で、ゴミ箱のウンチは平気ってなんなの？ どちらも一緒じゃないのっ！ だったらトイレでやらせないよっ！ ちゃんと理由を言ってくれたら流さないわよ！！

貴女、私にスカト口癖があるって勘違いしてない？ そんな性癖ないから。貴女のウンチなら触ってもいいってだけよ。トイレの便器は誰が使ったか分からないじゃないの…。そんなところに手を突っ込むなんて絶対にご免だわ。私、貴女のウンチなら汚いと思わない。原因を突き止めて貴女の体調が回復するなら、なんの苦にも思わない…。いえ、むしろ、ウンチをいとおしいとさえ思ってたわ。貴女の

ウンチ…暖かくて触って心地よかったの…（／／／／

なっ、なっ、なっ、なにを馬鹿なこと…顔を赤らめて言ってるのよっ（／／／／

うふふっ。で、その下剤がまだ貴女のお腹に残っていたら大変だから、一応、身体を洗うついでに調べてみようと思って…。魔法発動…特殊能力…猫猫診療室、発動コード詠唱…。クロクロネコネコ
く　クロネコく　クロクロ　シロネコ　ヤマネコく

ア、アンタのからだ、何かピカピカ光ってるんだけど…。

この魔法…。フルに開放して使うとちょっと光るの…。

ちよつとって…からだ七色に光ってるよ…？　大丈夫なの？

ご心配なく…。もう直ぐ変身が終わるわ。…パチッ

変身？？　ミ　ミ　ピカッ　ミ　ミ　キャッ！？　はっつ…。はわわわわわわ…。ア、アンタの手！　ネ、ネ、ネコの手に…。頭にもネコ耳…。ネコ足？　そ、それは尻尾…。ど、ど、どうしちゃったのよ、アンタ…。ガタガタ…ブルブル…。

ふっ。覚悟の現れかしら。

何をいつてるのか、まったく理解出来ない…。

猫猫診療室の副作用なの。この魔法は利用目的に合わせて簡易診療から完全診療までいくつかの実行モードが選べるわ。フルで使えば魔法を含めてどんな微細なものでも逃さず完全把握が出来るのだけ

ど、魔法に影響されて身体の形状まで変化してしまうのが難点ね。

魔法のことはよく分からないし怖いから嫌だけど…。でもこの尻尾はすごく可愛い…。癒される…。クネクネして…。ふわふわ…。ムニユ。

キャツ！！ な、なにをするのよ！（／／／／

ごめん…。見てたらつい…。さわってしまいたくなって…。

尻尾は敏感な魔法探知ソナーになってて神経が集中してるから絶対にさわらな…（／／／／

ムニユ。ムニユ。

ニヤニヤツ！！ だから止めなさいっ！（／／／／

ご、ごめん…。

も、もう…。しょうがないわね…。からだを洗っている間、大人しくしてて頂戴よ…。まったく…。ん？ へえ…。貴女からだ、結構引き締まってるのね…。キリノの背中ぶにゆ。モキュツモキュツ。ゴシゴシ。

ひゃあっ！ 肉球が…肉球が…こそばゆいよ…。ひやははは…（／／／

スポーツでもやってるの？ キリノの腕ぶにゆ。モキュツモキュツ。ゴシゴシ。

ど、どうしてバケツの底に残った洗浄液をシツポに浸してるの？
ねえ…。直接つてどういうこと？ まさか。違うよね？ ねえ。そ
んな訳ないよね？ ねえつてば、違うつていつてよっ！！

腸の中をみるから、床にうつ伏せに寝そべって足を屈めて、お尻を
突き出してみて。

……（／／／／

はやくなさい。何を恥ずかしがっているの？ いやらしくないのっ
！ これは医療行為なのっ！ 貴女のからだを詳しく診察しないと。

……だ、だつて（／／／／

医療をバカにしないで！ いやらしく考える方がいやらしいんだわ。
貴女のお腹の中に異物が入ってるから、それが何かを確認するだけ
なの。もし下剤の残りがまだ入ってたら貴女も嫌でしょ？ 王子や
諸侯の前でウンチ漏らしたいの？ キリノ、早くうつ伏せに寝そべ
って足を屈めて、お尻を突き出して。

うつうつ…。おずおず…。うつ…。ヒクッ…ヒクッ…。（／／／／

手で広げなさい。

……ええっ…（／／／／

わたしの両の手は貴女の腰にガッチリと置いて、貴女の身体がブレ
ないように固定する役目と、シツポの位置と腸の構造を知るレーダ
ーの役目の二つを同時にこなさなくてはならないの。貴女の手は空

いている。やって。

おずおず……。うう……。うあ……。ヒクツ……。ヒクツ……。(ノノノノ)

さつきも言ったけど、シツポには神経が集中してるから、あの……。その……。えっと……。貴女、絶対に力んじや駄目よ？(ノノノノ)

……。うん……。(ノノノノ)

じゃ、行くわよ……。クネクネ……。お尻のシツポを根元から少しのところまで直角に曲げて、お股の下から前へ……。クネクネ……。目標を狙って……。腸の構造トレース。シツポの侵入角度よろし。さあ……。入るわよ……。キリノ、力を抜いててね……。クネクネ……。ズル……。ズルズルズル……。(ノノノノ)

はうっ！！ 駄目、駄目、駄目……。あうっ……。あっ……。うっ……。無理……。無理……。無理……。こんなの無理だって……。これ以上は絶対に無理……。あああああっ……。(ノノノノ)

まだ……。入り口よ……。アンツ……。キリノ……。ち、ちからを入れないで……。駄目よ……。怖がらないで。かんじや駄目……。これは医療だから。気を楽しにして……。ハアハア……。これから……。もっと腸の……。奥の奥……。隅々まで……。検査……。しないと駄目なんだから……。うああ……。ズルズルズル……。ふああっ……。ズルズルズル……。(ノノノノ)

これは医療……。これは医療……。これは医療……。って、こんな医療あるかっ！ 絶対オカシイよっ！ はうあわ！ やっ……。やっ……。やっ……。やっ……。やっ……。やっ……。ああっ……。ああ……。(ノノノノ)

はい……。お仕舞い。よく頑張ったわ。猫猫診療室、解除……。……パ
チツ

うつつ……。ヒクツ……。ヒクツ……。／／／／

下剤のマイクロカプセルは腸のひだの232箇所で吸着して残っていたけど、私の尻尾から直接アンチ魔法を掛けて全部削ぎ落として3回の浣腸で流し終えたから、もう大丈夫よ……。……じゃ、からだの洗浄液を水で洗い流すね。キュツキュツ……。シャー……。ジャバジャバ……。

うつつ……。うつつ……。ヒクツ……。ヒクツ……。／／／／

シャー……。ジャバジャバ……。髪にかけるから目を閉じて。シャー……。ジャバジャバ……。シャー……。ジャバジャバ……。手を上げて。シャー……。ジャバジャバ……。足を開いて……。シャー……。ジャバジャバ……。右足をあげて足の裏見せて。シャー……。ジャバジャバ……。左足。シャー……。ジャバジャバ……。洗い終わった。お疲れさま……。

うつつ……。アイツ絶対許さない……。うつつ……。ヒクツ……。殺してやる……。ヒクツ……。ヒクツ……。

ブルボン伯を？ 残念ながら貴女の手では殺せないわ。

……。そうね。わたしには何も出来ない……。

ああ、そうじゃなくて…。貴女のウンチに下剤が入ってたことを蓮華にもう報告したからよ。かなり腹を立てて殺気まで出していたから、ブルボン伯はもう殺されたんじゃないかなって。

蓮華さんって…わたしをルーレットで射抜いた劍聖…。

そう。私の幼馴染でもあるわ。今日は貴女の城入りのオメデタイ日だからショートニング城の人達を皆殺しにまではしないでしょうけど…。私も凄く怒られたのよ。なんで料理を食べるときに見過ぎしたんだって。

何かを成すには…やっぱり力が必要なんだね…。

…もう5時ね。予定より随分遅れちゃったけど、まだ時間は大丈夫。嫌なことは忘れて湯に浸かりましょう。

…うん…。

…どう？ 気持ちいいでしょ。

わたし…。力が欲しい。力があれば誰にも干渉されない。自分の好きなように生きられる。わたし、弟がいたんだ。一晩しか会わなかったけど弟を愛していたの。でも、わたしが姉だと分かると危ないからっていつて弟はわたしの元から去ってしまった。そして私が持っていた波紋つても消されてしまった。わたしは愚かだった。深く考えることもなく力を捨ててしまったんだ…。そして弟にも会えなくなってしまった…。なんで弟を引きとめられなかったんだろ。なんで力を、魔法を捨ててしまったんだろ。力があれば。魔法さえあれば、わたしは…。わたしは…。

魔法か……。魔法なんて使わなくても成し遂げることは出来る。魔法があつても成し遂げられないこともある。魔法なんて関係ない。意志の力の問題だわ。

意志……。でも実際には意志の力だけじゃ魔法には勝てないじゃん……。

私は三人姉妹の一番下だった。私と真ん中の姉は魔法が使えたけど、年の離れた一番上の姉は使えなかった。貴族の血を引いているからといって確実に魔法が使えらるゝとは限らないの。でもね、私の家が卑劣な連中の奸計によつて取り潰されたとき、復讐を姉妹で誓い合つただけで、それを成し遂げることが出来たのは魔法が使えない一番上の姉だけだった。復讐相手である最強の魔法使いを人道に反した計略を使つておとし入れたのよ。私にはあんなこと出来ない……。魔法が使えなくても覚悟さえあれば何でも成し遂げることが出来るものよ……。ただ……。奸計をいくら積み重ねても不毛なことではかない。家が復興する訳でもないし、復讐の代償に姉は死んでしまったわ……。

うう……。ヒクッ……。わたし今度は魔法に甘えそうになつてた……。こんなことじゃわたし……。ううっ……。ヒクッ……。ヒクッ……。もう……。もう泣かない……。こんなことじゃ弟を絶対に見つけられない……。弟と一緒に暮らせない……。魔法がなくても、私は……。必ず……。

……。不毛では……。なかつたのかも知れない。姉は何も生み出さなかつた訳ではないのだから……。

えっ？

……。貴女は、もうひとつ勘違いをしているわ。波紋は心臓の鼓動がある限り生まれ続ける……。消えたとするなら貴女が死んで鼓動が止

まったとき。でも貴女はいま生きている。波紋は消えていない。

でもアイツは消したって…。

確かに貴女の波紋は感じない。でもそれは上辺に過ぎない。貴女の胸では波紋は生まれ続けている筈よ。多分、貴女の弟さんは、貴女の鼓動から波紋が発生したと同時にそれを対消滅する波紋が生まれる魔法を掛けたんだと思う。波紋は生まれた瞬間に消され続けているの。

それじゃ…。

貴女は魔法を持つことが出来るわ。どうする？ 今の貴女なら魔法を持つても大丈夫だと私は思うのだけど…。

大丈夫かどうかわたしには分からない。魔法に溺れないという自信はない。でもアンタの話を聞いて分かったよ。魔法を持つ意味を。

猫猫診療室、発動コード詠唱…。クロクロネコネコ〜 クロネコ

〜 クロクロ シロネコ ヤマネコ〜 …… パチッ

ミ ミ ミ ピカッ ミ ミ じゃ、対消滅魔法を

解除するオペをするわ…。クネクネ…。サワサワ…。ふむふむ

…。

む、むねにシツポが（／／／／

波紋というのは、大きくなればなるほどに魔力が増える。一定以上になったら、魔力が実態となって発現する段階に到達する。それが覚醒…。キリノ…。貴女の波紋の大きさが魔法の覚醒段階に入ってるわ。貴女の弟さんが掛けた対消滅魔法を消したら、直ぐにも貴女

は魔法使いとなつてしまふ…。確認するけど、そうなつたら波紋をもう今のように対消滅魔法で隠すことは出来なくなつて今まで通りの生活は出来なくなる。貴女の弟さんの母親に命を狙われて殺されるかもしれない。それでも貴女、魔法使いになるのね？ 本当にそれでいいのね？

うん…。

じゃあ、おなりなさい。対消滅波紋に共振強制介入。増幅…。飽和点…。臨界…。崩壊…。…パチツ

！？ ふああ…。わたしの身体、光ってる…。

ふふふつ。魔法使いの世界へようこそ。魔法使いになつたらひとつだけ特別な力を持つことが出来るわ。願いなさい。普通では決して使えない特別な魔法、自分だけの特殊能力を…。自分の身を守る為の力を望むなら、そうね…。防御重視なら魔法に対するバリアをイメージしなさい。通常兵器なんて特殊能力がなくなつて、魔力が上があれば守りきることは出来るから。攻撃重視なら力よりもスピードをイメージしなさい。攻防共にバランスが取れていいと思うわ。後は…

わたしは…。アイツを見つけ出す魔法が欲しい。弟に会いたい…。

…それでいいの？

欲しいものを叶えるのが魔法つてもんでしょ。わたしが一番欲しいのは強さじゃないんだ。わたしが欲しいのはアイツだけなの。アイツに会いたいんだ。会つてからのことはそれから努力する。魔法がなくなつて意志の力があればどんなことでも成すことが出来る。強

くなれるっていったよね？ だったらわたし強くなるよ。怖がりで臆病な自分を変えてみせる…。アイツと一緒にいられるように精一杯努力する。それは魔法に頼らない。

へえ…。じゃ、願って。

うん…。三三三 弟を見つけ出す魔法を！ 弟に会わせて！

三三三

……どじっ？

うっうっ……。あっ、あれ？

弟さんの姿、見える？

よく分からない。だって波紋が一杯見えて、どれがアイツの波紋だか…。

どのくらいの範囲でどれくらいの数の波紋が貴女に見えているの？

わかんない…。どこまでなんだろう…。いくつなんだろう…。夜空の星々の煌きのように遥か遠くまで、数え切れない程に見えるの。そして、こんなに波紋が多いというのに、どういう訳か全ての波紋をハッキリと感じ取れる…。

もしかしてルーン全ての波紋が見えているの？

多分…。

そっか…。うーん…。ルーン全土で暮らす10万人の魔法使い、そ

の全ての波紋を貴女が見通せるというのなら、貴女の名は『白の女皇帝』だわ…。

白の女皇帝？ カッコイイ名前だけど…。なんで？

魔道王国エロスの前進、エロス家の最盛期。強大な魔力でルーン世界の全ての国家を支配下に置いた魔道帝国エロス。第23代女皇帝ブリジット。通称、白の女皇帝。彼女は当時、ほんの僅かしか採取出来なかった天然のオリハルコンを世界中から集めて、この地に小さな白い城を築いたの。そしてその城の中では、いつも白のドレスを身に纏っていたというわ。貴女が身に付けた能力は、その皇帝が持っていた能力と同じなのよ。700年前かしら。それから今までこの能力が発現した人はひとりもいなかったのだけど…。

へえ…。なんかよく分からないけど、皇帝が使ってたって凄いね。でもこの能力ってあんまり強くなさそうだし、ブリジットさんってかなり弱かったんだろうな…。教科書にもそんな人のこと書かれてなかったし。もしかしたら、わたしと同じで好きな人を探したかったのかな…。ちよつと親近感湧くかも…。ん？ あっ！ ああ、っ！ 見つけた。これアイツの波紋じゃん。って、ええっ！！ なんでこんなに近いの!？

そりゃ、貴女の弟さん、この国の王子ですもの。今、この階の一番奥の執務室にいる筈よ。

へっ!？

王子との謁見で吃驚させたら面白いかなと思って、黙ってたの。ごめんね。

ええええええええ！？ 本当に、本当に、アイツ、王子なの？

うん…。ごめんなさい…。

信じられない！！ ルーレットもインチキね！！ アイツ、わたしのこと、からかったのね！！ もう～～～っ！！！！ アイツの部屋行って、ぶん殴って来る！！

キリノ、これ！ ポイ～。

くパシッ。 ん？ デッキブラシ？

貴女の腕力じゃ、あのヘタレ王子は目覚めないわ。殴るんならそれでガツンとおやりなさい。大丈夫、魔法使いなんだから、それくらいじゃ死にはしないわ。思いつきりぶつ飛ばして来なさい。貴女の最大MPは120MP。王子の探索で100MP使ったわ。残り20MP。時間にして『白の女皇帝』は今日あと7秒しか使えないわでも上手く能力を使えば一発くらいは入る筈よ。

うん！！ じゃ、これでポッコポコにしてくる。バタバタバタ…。

ああ、裸で行っちゃ駄目よ！ 部屋に謁見用の白いドレスがあるから、それ着て行きなさい。ちよつとまだ時間には早いけど、これが貴女の王子への謁見になるのだから…。

わかった～！！ 行って来ます～～～！！ バタバタバタ…。

あはははっ。あの子、怒ってるのか嬉しいのかどっちなんだ。ほんと元気で可愛いよね…。

蓮華…。貴女いつからいたのよ。

一時間程前かな。ブルボン伯の首を王子へ届けに戻ってから、ここで猫猫診療室の医療なるものをずっとみてた。凄いなアレ…。今度わたしもやって貰おうかな。

な、なにいつてるのよ、馬鹿、そ、そんなの絶対に嫌よっ（／／／／／キリノには出来ても、わたしには出来ないのか…。残念…。

…。ねえ、貴女の言った通り、キリノに心と波紋を伝えただけど…。でも本当にこれで良かったのかしら？

うん。ご苦労さま。いや、大変なのはこれからか。

第23代女皇帝ブリジット…。白の女皇帝は、白帝城の玉座から世界の全ての魔法使いの波紋を捉えて監視することで世界を完全支配したと伝えられているわ。そして自分を脅かす強い魔力を持つ者達を感知すると、何の躊躇もなくその者達の波紋の源を狂わせ心臓を停止させていったとも…。ブリジットは狂気の暴君とも呼ばれているの。

へえ…。そうなんだ。

勿論、まだキリノにはそんなことは出来ない。でも魔力が上がれば、いずれ出来るようになる。ブリジットのせいでも当時、世界に200万人いた魔法使いが5万人にまで減ってしまった。大丈夫なのかしら、そんな強い能力を今の時代に蘇らせてしまつて…。

もしキリノの力が王子に仇なすというのなら、その時、わたしがキ

リノを斬るまでのこと。そうでなければ何万人魔法使いを殺そうが、わたしには関係のない話だ。やりたければ好きにやればいいさ。でも大丈夫じゃないかな…。アイツ、世界支配なんて全く興味なさそうだし。

そうね…。あの子、王子以外はまるで眼中にないみたい…。ふふつ。王子には世界平和の為に長生きして貰わないと駄目ね…。あの子が…キリノが母から受け継いだ強い意志は、人を恨んだり傷つけることじゃなく、人を愛することに向け続けて欲しい…。

…：…アンタとキリノの話聞いてて思ったんだけど、もしかしてキリノの母親ってアンタの…。

…：…そうよ。あのエメラルドグリーンの瞳、山猫姉さんにそっくりだわ…。

くくくつ。王子？ どうされたのです？ 急に黙り込んでしまわれて……。チョコドーナツ不味かったですかな？ 街では一番人気なのでございますけど、ちょっとビターな感じのチョコレート味、王子には早かったですかな。くくくつ。私の食べ掛けでございますがエンゼルドーナツと交換いたしましょうか？ こちらの中にはあま〜いホイップクリームがた〜っぷりと入っておりますね…

サキエルよ。そちはまだあのときのことを根に持っておるのか？

余が…お前の食いかけのドーナツなど……。食べるかっ！！ ミ〜
〜（エンゼル ドーナツ）壁 グシヤ。

くくくつ。王子……。わたくしの心をそのようにグチャグチャに……。あれはドーナツであってドーナツでないのでございます。王子への愛で…

ふざけるな！！ ミ〜（チョコ ドーナツ）サキエル グシヤ。

くくくつ。わたくしふざけてなど…。ほう。ビターでございますね。ムシヤムシヤ…。

はあ…。サキエルよ。もう時間がないのだ。よいか。余がそちにこれほどまで切実に相談したことが過去にあったか？

くくくつ。メルルさまが城に来られた夜、性交とは一体どこまでが性交なのかを相談に来られたときも、確かそのように切実なお顔を…

ふざけるな！！ ミ〜〜〜〜（クラシック ドーナツ）サキエル
グシャ。

くくくつ。ですから、ふざけてなど…。ほづ。懐かしき味でございますね。ムシャムシャ…。

はあ…。サキエルよ。キリノと会ったら余はどうしたらよいのかと聞いておるのだ。んっ？ どうしたのだ？ 何を驚いた顔をしておる？

くくくつ。いえ…。

気になるではないか。よいぞ。何か言いたいことがあるなら先に申してみよ。

くくくつ。では…。王子にお聞きしたいのですが。魔力を完全に絶つて相手の背後に忍び寄ることは可能なのでしょうか。

なんの話をしておるのだ。蓮華か？ 忍びの技のことか？ ドーナツといい、お前はどこまであいつに対抗する気なのだ…。訓練すれば出来るようになるぞ。己の波紋が脈打つ寸前に0.01秒程度の波紋を心臓に打ち込んで対消滅させる技だ。魔法が覚醒していなければ自分以外の者にも掛けられるがな。どちらにしても波紋が広がらぬのだから魔法は使えん。丸腰だ。実戦でやるのはオススメ出来ぬな。使うなら捨て身の覚悟が必要であるぞ。サキエル。

くくくつ。使用には訓練が絶対に必要なのでございますね？

いや、そうとも限らん。波紋系の特殊能力があれば簡単に出来るのではないかな。

くくくつ。そうでございますか。なるほど納得致しました。ちなみに1鼓動0・01秒程度の波紋の放出で良ければ、20MP程度でもかなりの時間、気配を消せますな…。

1秒1鼓動として、1分60鼓動、10分600鼓動だからの。10分で6秒分の放出でよい。20MPなら11〜12分は気配を消せることになるが…。もうよいか？ お前の話を真面目に聞いてやったのだ、今度は余の相談を真面目に聞くのだぞ？

くくくつ。キリノ様に会ったらどうしたらいいかでございますか…。キリノ様とは面識があったのでございますね。

始めに説明したではないかっ！ やはりお前、真面目に余の話聞いていなかったのだなっ！ 蓮華がそれを知ってルーレットを射抜いたのだ。以前、余が田舎の山に入って狩りをしておるとキリノという村娘がおつてな。夜も更けておりますので、是非、泊まってくだされというのであいつの家に泊まったことがあるのだ。

くくくつ。で、誘惑されたと。

うむつ。美しすぎる余が悪いのだが、キリノは余に惚れてしまいよつてな。風呂に入ってキスをしてくれ、ベッドに入ってキスをしてくれと、いや、まいたぞ。ふはははっ。だがのう。詳しい事情は話せぬのだが、余はキリノと別れることにしたのだ。それはキリノの身を案じてのことだったが、余はキリノが好きなのだ…。キリノがハーレム候補になったのは正直うれしかった。うれしかったが故に、キリノがこれからも安全で穏やかな暮しが出来るように余がまた身を引くべきか、キリノの身は非常に危険なことになるが余は心の赴くままにキリノと一緒になるか、悩んでおるのだ。胃に穴が開くほ

どにな。

くくくつ。王子、その話には一番重要なことが抜けております。王子がキリノ様のことをどれほど思っておられるのか、それが具体的に分からぬのでは答えようがございませぬ。好き、というだけではなんとも…。

ほう…。サキエルにしてはまともな意見であるな。やっと真面目に相談に乗る気になったか。しかし、好きという主観的なものをどう具体的に説明すればよいかのう。

くくくつ。では、王子がキリノ様をどう思っているのか、わたくしがいくつか質問致しますので、それに正直にお答え下さいませ。

うむつ。

くくくつ。…では、お聞きしますが、王子はメルルさまとキリノさま、どちらがお好きなのでございませうか？

ふぎけるな！！ ミ〜〜〜〜〜（カスタード ドーナツ）サキエル
グシャ。

くくくつ。ですから、ふぎけてなど…。ほう。クリイミーでございませぬ。ムシヤムシヤ…。

答えられるかつ！ 両方好きだ。

くくくつ。では質問を変えましょう。王子はメルルさまとキリノさま、どちらが可愛いと思えますでしょうか？

どうして二人を比較して優劣を決めたがるのだ…。まあ、幼いメルルの方が可愛いという人は多いだろうが、余はキリノも同じくらい可愛いと思っぞ。

くくくつ。では次。王子がハーレムで初めて過ごされる夜でございます。さてメルルさまとキリノさま、どちらの部屋に行かれて王子の童貞を捧げるのでございますかな？

サキエルよ。ここは飲み屋か？ いや余は行ったことがないが…。まあ、よいわ。……そうなの。キリノかの。

くくくつ。もしこの場にキリノ様がおられれば、それはもう喜んだことでございます。ポロポロと涙をこぼして嬉し泣きするくらいに…。ちなみにどうしてキリノ様なのでございます？

経験豊富そうな気がするからの。

……。

どうしたのだサキエル。くくくつ。はどうした。顔が真っ青であるぞ…。

くくくつ。いえ…。キリノ様は経験豊富なのでございますか？

さあ、分からぬが、キリノに手取り足取り色々教えて貰って、次の日にメルルの部屋に行くのが定石であろう。逆だったらどうなのだ。メルルはどう考えても処女ではないか。余は童貞である。オロオロとしておったらメルルが不安がるし、格好が悪いからの。それにキリノは嫉妬深いところがあるから、余が先にメルルの方へ行けば後々の憂いとなる。よってこの質問はキリノ一択なのだ。

……。
というか、どちらの部屋かという、そちの質問がそもそもオカシイのだぞ？ 余は多分、両方一度に求めるであろう。これならメルルとの性交で何か不測の事態が起きてもベテランのキリノに直接アドバースを求めることが出来るから安心である。

……。
それにキリノとの性交をメルルに見せれば、よい教本となろうし、メルルは顔を真っ赤にさせて、さぞ興奮して……

……。王子。すみませぬ、ドーナツが切れたようですので買って参ります……。くくくつ。では。

すべてエンゼルドーナツでよいぞ。店に置いてあるエンゼルドーナツを全て買い占めよ……。ん？ な、なんだこの異様な気配……。後ろに……

ボコツ！！ わたしは処女よ！！！！ バコツ！！ 経験なんてないわよっ！！！！ ガシッ！！ 何が嫉妬深いよっ！！ アンタが嫉妬深いんでしようがっ！！ わたしがアンタを誘惑！？ アンタが妙な魔法使ったからでしょうがっ！！ 馬鹿！！ ボコ！！ 馬鹿！！
グシャ！！ 馬鹿！！ バキ！！ 馬鹿！！ ボコ！！ なんてこんな奴…… ガシッ！！ 好きに…… グシャ！！ 好きに…… バキ！！ ボコ！！ ボコ！！ ガシッ！！ ガシッ！！ ガシッ！！ ガシッ！！
グシャ！！ バキ！！ ボコ！！ ガシッ！！ グシャ！！ バキ！！ ボコ！！ グシャ！！ グシャ！！ グシャ！！ グシャ！！
！！ グシャ！！ ハアハア……。ハアハア……。カラララン……。デ

ツキブラシ。ハアハア……。ハアハア……。ハアハア……。なんでこんな奴を好きに
… ハアハア……。ハアハア……。好きになっちゃったんだろ……。ブ
チュ……。んあっ……。っ……。ん……。んあっ……。ん……。ん……。あぁ……。あ
っ……。(/ / / /

ブチュ……………ッ（／／／／

う…っ…………。う、うん…。！？っ…………。

…………気付いた？ キスで目覚めるなんて、アンタ、王子さまってよ
りお姫さまって感じだね…。こんなに可愛い顔して、頬を赤くしち
やって…………。

姉上っ！

はっっ！ ブチュ……………ッ（／／／／

んっ！？ んっ…………んう…………う…………う…………う…………う
…………う…………（／／／／

んっっ…………う…………う…………う…………んっ…………ん…………ん…………あ…………うう
…………ふう…………。ゴメン…………。我慢出来なかった…………（／／／／

姉上…魔力が…。そうか…覚醒されたか…。これではもう波紋を隠
すことが出来ぬ…。いや、もう鳳凰宮に感知されたであろうっ…。

わたしの能力、白の女皇帝なんだって。カッコイイでしょ。

白の女皇帝？ それはまた面白い能力を…。だが、しかし…この魔
力値では…。最大で120MPくらいか…。出力も10MP/sし
かない…。

そんなに心配そうな顔しないで。足りない分は根性でカバーするわ。根性…。

うん！ 根性で頑張る！ アンタと一緒にいられるように誰にも負けないくらい必死で頑張る。誰にも邪魔をされなくらいに絶対に強くなる。だからアンタも強くなって…わたしから逃げないで…。アンタがいてくれたら、わたし頑張れるから…。

…何も頑張らずに諦めていたら…なにも出来ぬ…か。

そうだよ。二人で頑張ろう。

…余は姉上が好きなあまり、臆病になっていたようだ。ひとりで考え込むばかりでは何もよい案は浮かばない。行き着く先の絶望的な未来に悲観して逃げることはかりを考えていた。でも姉上とふたりで考えれば、そのように悲観することはなく、よい方に考えが次々に浮かんでくる。暖かな未来が見えてくる。それが余と姉上とが進む道であつたのだな…。

誓いのキスをして…。

余と姉上は実の姉弟である。血が繋がってある。もう契約などなくとも…余と姉上の繋がりは永遠であるぞ…。

駄目だよ、だって、わたしが欲しいのは姉弟の繋がりだけじゃないんだもの。ふふっ。強欲なお姉ちゃんでごめんなさいね、弟くん…。アベル…。ちゃんと声に出して誓って。今度は絶対だからね。何があってもアンタはわたしから逃げられない。逃げてもわたしはアンタをどこまでも追いかけて捕まえる。アンタはわたしの永遠の虜な

姉上、中へ…。

う、うん…。恐る恐る…。ボタン！ ふあっ！！ 扉が閉まっちゃった…。お部屋、真っ暗だよ…。

いま灯りを…。パチッ。ここが余の寝室じゃ。姉上すまぬ。狭いであろう。窓もない。この部屋は厚い防音壁と強力な魔法結界が張られていて、外からの干渉を全て排除してある。完全な密室になっておるのだ。扉も余だけが開け閉め出来るようになっておる。

内からもアンタしか無理なの？（／／／／

うむっ。姉上は扉を開けられない。

……そ、そうなんだ（／／／／

先程いた執務室も防音と魔法結界はされておるが人の出入りが激しい。だからこの城ではこの狭い空間だけが、唯一の余だけの場所といえる…。姉上。他の者の目に触れぬ為には、ここでやるしかないのだ…。もっと姉上の心が落ち着くような、綺麗なところでやりたかったのだが…。

い、いいよ。ここで。ア、アンタがいれば…それでいい…（／／／／

ベッドと冷蔵庫…。あと、その扉の向こうはシャワーとトイレだ。メイドもここには入れぬ。掃除も全て余がやっておるのだぞ。綺麗にしているつもりだが…。

ベッド大きいわね…。部屋の半分近くある…。

ベッドは普通のダブルだが、部屋が狭いから大きく見えるのである
う……。シーツは毎朝換えておる。綺麗なので……。姉上、そこに寝そ
べって貰えぬか。

ア、アンタ……。わ、わたし……。初めてなんだからねっ！ 乱暴に
するんじゃないわよっ！ や、やさしく……。そのう……。して下さい
…（／／／／

うむっ。余も初めてじゃ…。

お互い初めてなんだね…（／／／／

上手く出来るであろうか…。

下手でいいじゃないの……。上手く出来るまで、その……。えっと……。
なっ、なっ、何回でもお姉ちゃんが付き合ってあげるわよ…（／／
／／

う、うむ……。だが…。

どうしたの？

上手く出来たとしても……。1回では全然足りぬであろう。姉上……。
余と満足に出来るようになってからも、その……。何回も……。付き合
って欲しいのだが…。

う、うん……。アンタの気の済むまでしていいから…（／／／／

もし疲れて出来ぬようになっても。少し休んでまた続ける。数え切

れぬほど…。よいか？

い、いいよ…（／／／／

では姉上、下着を脱いで、ベッドに横になるのだ。

はい…。ブラジャー脱ぎ脱ぎ…。おパンツ脱ぎ脱ぎ…（／／／／

んっ！？ な、な、なぜ、おパンツまで脱いでおるのだっ！？

ふえっ！？ よ、よ、よく分からないけど、こういう時、脱がないものの？（／／／／

すまぬ…。初めてのことで頭が混乱しておるようだ…。いや、確かに全て脱ぐべきだな。その方が自然だ。脱いで当たり前だ。余も脱ぐか…。脱ぎ脱ぎ…。

はうっ…（／／／／

ん？ どうした。今更、余のを見て恥ずかしがらなくとも…。

だ、だ、だ、だってアンタの…（／／／／

ん？ ああ…。うむ…。ほう…。こういうことになっていることから全く気が付かぬとは、余は、やはり頭が混乱しておるようだ…。すまぬ。気が逸り過ぎのようだ。少し落ち着こう。何か飲むとするか…。姉上は何を？ 冷蔵庫には…。コーラか、ウーロン茶か、カルピスしかないが…。

わ、わたしは別に構わないけど…（／／／／

ん？ 飲まぬのか？ プシュ。ゴクゴク…。

そ、そうじゃなくて、アンタのが、そうなっても…。別に悪い気はしないっていうか、その、あの、いいかなくて…。わたしでそうなってくれているんだから。嬉しいなって…。っていうか、直ぐにまた、そ、そうなるんだし…。いいじゃん（／／／／

……………えっ！？（／／／／

……………えっ！？（／／／／

い、いや…。あの…。その…。余は姉上と波紋を共振させて…。姉上の波紋を拡大させようと…。120MPでは何かあったときに直ぐに尽きてしまう…。だから姉上の最大魔力値を上げようと…（／／／

はうう…。バキッ！ 壁殴っちゃった。うつつ…。痛いよう…。もおおおおおう…。紛らわしいのよっ！ さきに言いなさいよっ！（／／／／

う、うむ…。すまぬ…。姉上は余とアレをすと思ったのだな。気にすることはないぞ…。恥ずかしがらずともよい…。そう手足をバタバタさせて悶絶せずとも…。余が悪いのだ。あれでは誰もがアレだと勘違いしたであろう。うむ。ハッキリ言うべきであった…（／／／

どりゃ〜〜っ！ マクラを抱えて投げっぱなしジャーマン！ ドゴ〜ン！！ ハアハア…。ハアハア…。ははははっ。そ、そうなのっ。アレよ。アレ。プロレスゴッコをすと思ったの！ ベ

ッドがマットに見えちゃったんだ！(／／／／

すまぬ…(／／／／

素で返さないでよっ！(／／／／

姉上…。

な、なによっ！

波紋を共振させる…。ベッドに静かに仰向けに横になって…。

う、うん…。もそもそ。

服を脱いで貰ったのは少しでも波紋のシンクロ率を上げる為なのだ。今から肌を合わせる。余を思いっきり抱きしめてくれ…。

うん。きて…。

うむっ。どぞっ。

アンタやっば軽い…。ちゃんと食事とりなさい…。

うむっ。暖かい…。

じゃ、抱くよ…。ギョッ！

ギョッ！ 姉上が今日使える魔力はもうない。使い切ってしまったている。もう余の波紋を感じ取れぬであろう。だから余の鼓動のみに神経を集中させて欲しい。余の鼓動に自分の鼓動を合わせる感覚で

いてくれ。細かいところは余が姉上の波紋を捉えて調整する。…うむ。…捉えた。同期。

あ、あのさつ。鼓動って…。心音に合わせるの？ ごめん。よく分からないんだけど…。どうしたらいいか、もう少し簡単に説明してちょうだい…。ん…？ あれ…？ 胸の奥が…。ムズムズして…。ドクドクって鼓動が大きく…。えっ…。アンタの心がわたしに、わたしの心がアンタに…。こ、これが共振なの？ ねえ、ち、ちよつと、こんなの駄目っ！ 嫌っ！ 混じり合って…。心が、からだが、あつ 嫌っ！ 嫌っ！ あ…っ…ん…んあつ…ん…ん…あ…あ…あ…(／／／／)

姉上…。

ん…あつ…あつ…あ…あ…あ…(／／／／)

苦しいだろうが…。拒絶しては共振が崩壊する。その苦しみを受け入れてくれ。

苦しいんじゃない！ 苦しいけどっ！ 違うのっ……。気持ちいいの…。あつ…やん…あ…あ…あ…(／／／／)

そ、そうなのか(／／／／)

うん…(／／／／)

で、では、それを受け入れて、頑張ってくれ…(／／／／)

わかった。頑張る…。でも…。ハアハア…。ハアハア…。

ん？

なんでアンタは平気なの？ 気持ちよくないの？ ハアハア…。ハアハア…。

まだ姉上の波紋が小さいのだ。少しこそばゆくはあるが…。

ふふふつ。じ、じゃ、早くわたしの波紋を大きくしなきゃね…。ああ…あつ…。ア、ア、アンタ、覚悟なさいよ…。弟の癖にお姉ちゃんをこんなに虐めるなんて…。ハアハア…。ハアハア…。ぜ、絶対に百倍にして返してあげるから…。ハアハア…。ハアハア…。

姉上…。ちょっと目が怖いぞ…。

姉上…姉上…。ゆさゆさ。

う、うん…。ん！？ ガバツ！ キヨロキヨロ…。キヨロキヨロ…。
フウ…。バタツ…。良かった…。夢か…。ハア…。ごめん…。
また気絶しちゃったんだ…。

悪い夢でも見たのか？

…悪くはなかったよ。今まで通り…朝ごはん食べて、学校へ行って、友達とお喋りして、授業受けて…。そんな普通の日常…。楽しいけど…。でも…。アンタがいないの…。

そうか…。

キスして…。

チュツ（／／／／

ん…。…お姉ちゃんから黙って離れちゃ駄目だよ。気絶したら抱き合っただまま起こしてくれたらいいじゃん…（／／／／

うむ…。すまぬ。どうも空調がな…。換気は出来ておるようだが冷房が効いておらぬ。魔法で冷まそうかと思っただが、こども狭い空間で魔法を使うと結界魔法と干渉し合っただけで崩れてしまっやもしれぬのでな…。極小の冷却魔法を生成しておったのだ。…パチツ
あと100個は必要かのう。時間が掛かりそうだ。…パチツ

このふわふわ浮かんでカワイイのが冷却魔法？ 白くキラキラ光って綺麗だね……。あっ……。冷たい……。

溶けない雪のようなものじゃ。まだ10個なのじゃ。これだけでは、あまり冷えぬ……。

室温っていま30 超えてる感じだね。

うむ。湿度も高い……。熱中症になってはいかん。姉上もかなり汗をかいておる、余がこれを作ってる間にシャワーに掛かってくれい。余もコレが終われば掛かることにしよう。

汗……？ ……ほんとだ。わたしのからだ、凄い汗……。

う、うむ……（／／／／

アンタのからだも……。チュツ（／／／／

姉上、いまは魔法の生成中なので、そ、そういうことは……（／／／／

チュツ（／／／／

……（／／／／

しょっぱい……（／／／／

……（／／／／

わたしの味もしょっぱいのかな……（／／／／

…… (/ / / /

…… (/ / / /

チュツ (/ / / /

……どじっ? (/ / / /

う、うむ…よく分からぬ。チュツ (/ / / /

……どんな味なのかな (/ / / /

い、いや、本当に分からぬのだ。しよっぱい箸である。下。どじっ
したことである。チュツ (/ / / /

……ねえ、もうこのまま続けようよ (/ / / /

…う、うむ (/ / / /

今度はアンタが下になって… (/ / / /

わかった。もぞもぞ。では姉上… (/ / / /

よ、よろしくお願いします…よいしょ… (/ / / /

うむっ。 (/ / / /

重かったら言ってね。無理しないでね (/ / / /

いや…心地よい重さじゃ。姉上を実感できる…ギョツ (/ / / /

そ、そう…ギョッ（///）

……………（///）

……………（///）

で、では共振を…。

あつ。待つて…。ちなみに今、わたしの魔力どれくらいになっての？ ちよつとは増えたのかな。

姉上の今の最大魔力は240MP、魔力出力15MP/sであるぞ。

凄い、100も上がってる！ ご褒美！ ご褒美！

チュッ（///）

うへへ…（///）

アンタのはどれくらいなの？

う、うむ…。言わなければ駄目か…。

いくつなの？

余の最大魔力は6890兆2000億MP、魔力出力は5350億5000万MP/sである。

へえ……。そうなんだ…。

出来れば姉上には鳳凰宮入りの明日の朝までに平均的な魔法使いの魔力である1000億MPは行って欲しいのだが…。

1000億MPかあ…あとたった999億999万9760だね…。でもアンタとはまだ6890兆1999億999万9760もあるのか…。ちよつと大変だよね…。

うむっ！ だが頑張ろうぞ！ ん？ どうした？ 立ち上がって。トイレか？ ん？ 余の腕を取って、ふむ…。起こして…。抱えて…逆さに？ で、どうするのだ？

どりゃ〜っ！ パイルドライバー！！ ドゴ〜ン！！ ハアア…。ハアア…。強さがインフレし過ぎなのよっ！！ このまま続けても絶対に無理よっ！！

うっつ…酷いぞ…。それに無理と言われても、こっつするより他に…。姉上…諦めるのか？

まさか。やり方を変えるの。さっき失神から目覚めたとき、わたしの魔力、少し回復したみたいなのよね。

どれどれ…。むう…。確かに50MPほど魔力が溜まって…。これを使おうというのだな？

うん！ 今はわたしの放つ波紋の大きさや位置をアンタが予測して合わせることで共振してるけど、これをわたしとアンタがお互いに完全に同一の波紋を放ち合って共振させる方式に変えるのよ。共振精度は飛躍的に向上する筈だわ。

……確かに波紋系最強の能力である白の女皇帝を使えば完璧に出来るであろうし、余も波紋の精密放出は可能であろう……だがしかし50MPでは姉上の波紋の精密放出は数秒で尽きてしまう……。それに余が行っておる予測共振は相当な精度であるので、残念ながら共振結果はさほど変わらぬと思うぞ……。

わたし、ただ頑張れば、努力さえすれば、必ず報われると夢見てる訳じゃないのよ。状況を分析して何か手はないかと考え続けていた正しい方向に向かって頑張って努力しないとね。で、閃いたの。まず確認したいんだけど、波紋は結界を貫通するよね？

うむ……。結界は魔法が生み出したエネルギーを通さないだけで、魔法の根源である波紋自体を防ぐことは出来ない。波紋とは魔法使いだけがその存在を感知出来る不可思議なものなのだ。エネルギーなどの物理現象とは全く次元が異なっておる。だから波紋には波紋で対抗するしかないのだが……。何故わかったのだ？

結界が張ってある筈の執務室からアンタの波紋が感じ取れた……。あとさ、ブリジットが白帝城を築かせた意味ってなんだと思う？なぜ白帝城なの？ どうして貴重な天然のオリハルコンを漆喰に混ぜたの？

白帝城の意味？ うむ……。皇帝になったブリジットが自らの権力を誇示する為に世界中からオリハルコンをかき集めたか、暗殺されぬように魔法と共振して赤く反応するオリハルコンの性質を利用して魔法警戒システムを構築したのか、色々と考えられるが……。ブリジットに関する文献は殆ど残っておらぬから実際のところはよく分からないの……。

わたしさ、自分がブリジットならって考えてたら分かっちゃったの。

魔法と共振するオリハルコンを大量に使って城を築いたのは魔法から身を守る為じゃないわ。自分の能力を限界以上に引き出す為の増幅器として、波紋をより敏感に感じ取るアンテナの役目を白帝城にさせたかったのよ。

ほう…。流石に同じ能力を持つだけあって中々に説得力がある…。うむ。そうかも知れん…。

今から、白の女皇帝の力を使ってみる。1MP/sの波紋を城に放ってその反射で帰って来た波紋をわたしが受け止める。どれだけ増幅したか見てて。…パチッ

むむっ…。200MP/sであるな…。確かに増幅されておる…。

ふふふっ。200倍ね。この増幅された波紋がわたしに返って来る前にアンタが共振させたらどうなるかしら…。増幅された波紋の共振効果がわたしに返って来るって思わない？ それで一気に最大魔力値を引き上げるの。わたしのMPが無くなったら今度はアンタが予測共振を続けてわたしを失神させる。失神から目覚めたわたしは最大魔力が引き上げられた分、魔力回復量も多い筈よ。その増えた魔力をまた白の女皇帝の力で城に向けて精密放出を行い、以後ルーブって作業ルーチンを延々と行うの。

…い、いや…いやいや、そのようなゲームのチートの如きことが実際に上手くいく筈が…。なにより危ないではないか。共振結果が本来の値より大き過ぎる。そのようなものを受け入れたら姉上の体にどのような影響が出るか…。もし悪い結果になったら…。

駄目よ。結果を恐れず勇気を出して踏み出さないと得られないものはあるの。わたしにとって今が意志の力を示すときなんだわ…。も

う臆病で怖がっていただけのわたしじゃない。変わるって決めたの。同じ過ちは二度と繰り返さない。大切なものは自分の手で掴み取ってやる…。

姉上…。

……大丈夫よ、きっと上手く行く。

わかった。姉上にそこまでの覚悟があるのならもつ何も言つまい…。

じゃ、やるわ。まず10MP/sを放出するから。

うむっ。2000MP/sで揃えて共振させる。いつでもよいぞっ。

絶対、絶対、絶対、アンタに追いついて、わたしの波紋でアンタをメロメロにさせて悶絶させてやるんだから…。ああ、次回が楽しみ…。アンタどんな嬌声をあげるのかしらね…。どんなエッチな顔をするのかしら…。ふふふっ。失敗する気がしないっての…。じゃ、3、2、1、放出！ ……パチッ

……………(／／／／

なんでやんないのよっ…！

やれるかっ…！一瞬、からだが固まったわっ！ そのようなことの為にするのではないっ！

冗談だよ…。本気な訳ないじゃん。緊張しないように。それだけなのに…。酷いよ…。

そ、そうか、いや、すまぬ……。姉上。ではもう一度頼む……。

うん……。3、2、1、放出！……パチッ

どうしたの…？ そんなに切なそうな顔をして…。

姉上…(ノノノノ)

うん…。その呼び名もいいけど、ちょっと距離感があるわね。お姉ちゃんって呼びなさい。

おねえちゃん…(ノノノノ)

いい…。その火照った顔で、儂げな目で、こんな綺麗な子から訴え掛けられるとなんでも聞いてあげたくなっちゃう…。何かな？ 弟くん…。頬をなでなで。

もう同期を解いて…。共振を止めてっ…(ノノノノ)

ええ…。わたし、さつきから魔法は使ってないよ？ もうアンタの波紋に合わせる必要がなくなっちゃったの…。アンタの波紋はわたしの波紋となつて、わたしの波紋はアンタの波紋となつて、自然に共振をし続けているの…。ふふふっ。心が繋がっちゃったね…。チユツ(ノノノノ)

ああっ…。あっ…。あっ…。あん…。あぁ…。あっ…(ノノノノ)

アンタ、ほんと可愛いわね。こうして見ると、どこからどう見ても女の子よ。弟と妹が同時に出来たみたい…。チユツ(ノノノノ)

んっ…。あう…。あっ…(ノノノノ)

チュツ（／／／／

ううっ…あ…あん…（／／／／

チュツ（／／／／

んんっ…んああっ…。も、もう波紋をズラして…。このままでは…。
余は…（／／／／

波紋をズラして同期を解きたいならアンタがズラせばいいじゃん。
チュツ。どうして自分からしないのかな？ チュツ（／／／／

それは…。それは…。ああっ…あん…あっ…ああ…（／／／／

それは、なに？ 本当は、わたしと繋がっていたいんじゃない？ 気
持ちよくって止められないんじゃないの？ ならいいじゃない。チ
ュツ。このまま続けてアンタがどうなるか、お姉ちゃんが見ててあ
げるわ。チュツ（／／／／

ううっ…っ…ううっ…っ…ううっ…（／／／／

ああっ…。ご、ごめん、泣かないで…。

ううう…。うう…っ…。ヒクッ…ヒクッ…（／／／／

そ、そうね…。魔力は十分に上がったし、アンタの可愛い姿は見ら
れたし。そ、そろそろ終わろうかしら。コンマ一秒わたしの波紋を
ズラすね。……パチッ

ああああん…っ…っ…。ハアハア…。ハアハア…。ハアハア…。ハアハア…。ハアハア…（／／／／

ふうっ…。ハアハア…。この部屋に入ったのが6時で、今はもう1時半…。ハアハア…。5時間半もやってたのか…。7時の謁見式の時間過ぎちゃったね…。9時の夕食会も…。ハアハア…。黒猫さんわたしのこと探してるかな…。

ハアハア…。ハアハア…。ハアハア…。ハアハア…（／／／／

ねえ、落ち着いた？ チュツ（／／／／

ハアハア…。ハアハア…（／／／／

凄い汗ね、シーツがベチャベチャ。あらあらこんなに泣いちゃって。涙と鼻水でアタの綺麗な顔が…って、ああ…それでも綺麗なのか…。なんかちよつとムカつとするわ…。でも、こんなに体から水分出ちゃったら…。アタのど渴いてない？

ハアハア…。ハアハア…。頭をコクコク（／／／／

じゃあ、冷蔵庫の中の…。コーラもウーロン茶も飲んじゃったか。カルピスとかいう飲み物しかないけど飲む？

うん…。ハアハア…。ハアハア…。

栓抜きはコレね。スポン…。トプトプ…。コップに入れて…。さあ召し上がれ。

姉上…。ハアハア…。

ん？

それは原液である…。カルピスとは何かで割って飲むもの…。

カ、カルピスの飲み方くらいしってるわよ。お、お姉ちゃんを田舎者だと思って馬鹿にしないでよねっ（／／／／

い、いや、馬鹿にしているつもりはないが…。これは常識…。

ふ、ふん…生意気ね…。み、みてらっしゃい…。ごくごく。ブチユ〜ッ（／／／／

んんんっ…。コクコク…。コホ…。コクコク…。コホ…コホ…（／／／

すぐに飲んじや駄目…。お互いの唾液で割るの。割って飲むのがカルピスの正しい飲み方なんですよ？ ふふっ。アンタそんなことも知らないのかな？ ごくごく。ブチユ〜ッ（／／／／

んんんっ…。コホ…。んんんっ…。コク…ううっ…（／／／／

んん…っ…ん…クチュ…っ…ん…っ…クチュ…ん…っ…クチュ…んん…っ…コク…（／／／／

んっ…コク…。んっ…コク…。コホ…コホ…（／／／／

こぼしちゃ駄目でしょ。ほら綺麗なお顔に付いてる…。ペロ…ペロ…ふふっ。甘い…。こんなところにも付いてる…。ペロ…ペロ…（／／／／

……（／／／／

どうしたの泣きそうな顔して……。キャッ！ バタン！

姉上っ……。！（／／／／

な、なに！？（／／／／

余はもう我慢出来ぬ……。最後までやるが……。よいか？ チュッ（／／／／

わたしとするの……。？ だっ、駄目よ……。／／／／

性交が怖いのか？

怖くはないし、して欲しいけど……。でも……。

でも？

性交しちゃったら、ハーレムの選定がそこで終わっちゃって、もうアンタは誰とも恋愛出来なくなるんでしょ？

構わぬ……。余のハーレムはメルルと姉上の二人でお仕舞いとする。
チュッ（／／／／

や、やっぱり駄目……。

なっ、なぜじゃ……？

なんでって……。うん……。えっと……。アンタとわたしが出会って
お互いが成長したからかな……。人との出会いがどれだけ大切かって
ことを身をもって実感したから……。だから駄目。アンタに与えられ
た半年の期間を大切にしたいの……。

……。
ていうか、ごめん、もう眠いんだ……。凄く眠いの……。明日の為に魔
力を回復しときたいし……。

わかった……。

もうそんな顔しない。アンタがハーレムの選定を終えたら直ぐにお
姉ちゃんの元にいらっしやい。わたしも初めてだから手取り足取り
って訳にはいかないけど、ハーレムで他の女の子の前で恥をかかな
いように、お姉ちゃんがアンタの練習相手になってあげる……。アン
タがしたいことならどんなことでも何度でもお姉ちゃんにしてい
から……。チュツ（／／／／

……。約束であるぞ。チュツ（／／／／

でも……。心だけでなく、からだまで完全に重なったら、わたし達ど
うなるんだろう。

より深く繋がって離れなくなるであろう……。

うん……。でも心がそうになると尊く感じて、からだがそうになるとエッ
チに感じるね。どうしてなんだろう……。どっちも同じなのに……。心と
からだは違うのかな？

姉上…（／＼／＼

ん？

バカなことを言っていないで早く寝て下され。全ては明日を越えることである…。

明日か…。

ハーレム候補のキリノが余の姉上であることは鳳凰宮に知られてしまったであろう。明日は姉上にとって辛い日になるやもしれん。式典準備の為に朝の5時起きでもあるしな。

ご、ごじ！ そうね…。朝早いのは辛いわ。ふっ。まあ、どうなるかは大体分かるよ。鳳凰宮ってここから南へ20kmの塔群でしょ？ わたしへの殺気が混じった波紋が数え切れない程に黒々と煌いている…。そしてアンタとわたしを捉えようとひっきりなしにこっへ鋭いナイフのような波紋を飛ばしている…。

…やはり余も行く。何が起きるか分からん。

アンタはここにいて…。これはわたしとアンタのお母さま方との問題なの。

で、では衛兵に蓮華を選ぼう。あの者がいれば…。

それも遠慮する。わたしの力で解決しないと…。剣聖さんに甘えても、それは解決にはならない。問題を先送りにするだけだわ。

そうか…わかった…。

ごめんね…。

いや、余が悪かった。余はまだ姉上のように強くない。余も強くならねば…。

うん。わたし達、ずっと一緒にいる為にはお互いがもっと強くならないと駄目だと思う。明日はわたしが頑張る。見てて…。

うむ…。

アンタが見てくれてたらきつと最後まで頑張れるよ。ふふっ。

…では、もう寝るとするか。灯りを消すぞ。プチッ。

手つないでいい？

うむっ…。

さっきは虐めてゴメンね…。

いや、もっと…。いやいや…(ノノノノノ)

ねえ…。ギョッ

んっ？

わたし達のお父さんってこの国の前の王様だった人だよね…。

うむ…。

王様はハーレム以外の女性と恋に落ちて煉獄の塔に囚われ、相手の女性は拷問で殺されてしまったって…。

……。

相手の女性って、わたしのお母さんだよな？

すまない。エロス家が行った姉上の母への仕打ち、謝って償えるものではないが、申し訳ない…。母上方の中で二人の仲に酷く嫉妬する者がいたのだ…。ハーレムの中に長くいるとそれだけ世界が閉じて狭くなっていく。父上の心が自分やハーレムから遠ざかることを恐れ、耐え切れなくなっ、それで…。

違う…。そういうことを聞きたいんじゃないの。わたしのお父さんとお母さんの話、知ってる？

……煉獄の塔に収監される前、父にどういことが問いただした。大体のことはわかる。

聞かせて。

……明日は早い。姉上は魔力を完全に回復させねばならん。この話は長くなるから後日ゆっくりと時間を…

お願い。聞かせて。

……では、眠りながら聞いてくれ。

眠りながら聞ける話なの？ お母さんがお父さんをどう陥れるか策

謀を巡らせる、スリリングで目が冴えちゃうような話かと思ったんだけど…。

不器用な二人の恋物語である。最初の出会いが酷いもので悲劇でもあるが、そう悪い話でもないのだ。

ふふっ。アンタの波紋が乱れてる。嘘でしょ？ そんな気休めの作り話じゃ、確かに途中で寝ちゃうかもね…。

そうだな……。頭をなでなで。 ……パチッ

えっ…？ あっ…あれっ…？ ほんとうに…ねむく…。ア、アンタ…。まさか…。わたしに…まほうを…。

洗脳魔法発動。 ……パチッ

わたしは…。

姉上…。姉上は何を聞きたかったのであろう。

おかあさんは…おとうさんを…にくんでいたの？ あいしていたの？ どっち…？

両方だ。始めは殺す気満々だったが次第にラブラブになっていった。

わたしは…ふくしゅうのために…。

違う。

じゃあ…。わたし…。わたしは…。

愛されて生まれてきた。

よ、よかった…。よかったよう…。ううっ…。うっ…。

姉上が生まれたことを二人は祝福した。

ああ…。ううっ…。ううっ…。ううっ…。ううっ…。

姉上は愛されておる。

ううっ…。ううっ…。ううっ…。

チュツ（／／／／

…。スウ…。スウ…。

…。おやすみ。姉上…。

ケルトにございます。至急、王子へお知らせしたいことがございます。神聖なるステータスレポートの書簡でお送りしますが無礼をお許し下さい。キリノさまのハーレム候補についての採決が本日深夜0時、鳳凰宮評議会にて行われました。ハーレム入りに賛成が1、反対が6です。反対多数。よってキリノさまのハーレム候補取り消しが決定致しました。本今朝8時から予定していたキリノさまの鳳凰宮入りの式典は中止となり、メディアなど各関係機関には既に連絡済みです。

評議会が否決した理由は大きく二つございます。

ひとつは、キリノさまが王子の姉であると判明したことによるもの。医学的に近親者の婚姻は危険であり道義的にも許されないの、キリノさまからハーレム候補資格を剥奪して家に帰すべきとする常識的な否定意見です。反対意見の6の内5です。

もうひとつは、昨日発現したキリノさまの魔法能力によるもの。キリノさまには『白の女皇帝』という危険な特殊能力が開花した可能性が高く、魔力値の低い今の内に処置するべきとの極端な否定意見です。コーデリア妃ひとりが強硬に主張されております。彼女は実質的に鳳凰宮のトップであり、今回の件についても主導的立場をとられております。

鳳凰宮評議会ではキリノさまへの採決に続き、査問委員会開催の緊急動議がコーデリア妃によってなされ、これが賛成が4、反対が3の賛成多数で可決されてしまいました。キリノさま。キリノさまをルーレットで射抜いた剣聖さま。そして貴方さまの召喚が予定され

ているとのこと。王子には鳳凰宮精約監査部への討伐勅令について疑念が出ているのです。

キリノさまがこの査問委員会に出席拒否をすることを見越して、昨夜からキリノ討伐軍なるものが編成されつつあります。エロス王家近衛魔法騎士団100人全員が完全武装で鳳凰宮正門広場に集結。王都を防衛する国軍の第一師団1万も鳳凰宮周辺に布陣。諸侯の軍勢も近日中に合流の予定です。魔法科学技術省では白の女皇帝に対抗する波紋バリアの試作開発が突貫で行われ、既に遮蔽結界が完成しているとの情報も入っております。

迅速かつ適切な行動を取られてこの危機的状況を打開されますことをお祈り申し上げます。

王子にはケルトの夢を叶えて貰わねばなりません。このようなことで躓かれては困ります。

も、もうあきまへん！ にげましょー！

王蟲ドドドド〜。 王蟲ドドドド〜。

に、にげる言つたかて、ど、ど、ど、どこに逃げるんや！

王蟲ドドドド〜。 王蟲ドドドド〜。

ああつ！ 殿下や！

なつ！ 巨神兵！？ 殿下アカン！ それ使つたらアカン！

お前、なに言つてんねん！ いま使わんでいつ使ついうねん！ つーか上官に意見すんなアホ。おい巨神兵、あのキモイ蟲、なぎ払つたれやつー！

王蟲ドドドド〜。 王蟲ドドドド〜。

バシユー！！ ……ピカツ！！ ドガアアアアアアン！！ モクモク…キノコ雲。

すつ、素敵やん！ 殿下、アンタやつたら出来る子や思つたでっ！！

クシヤナ殿下さいごーや！

ええ乳しとんのう、ちよつと揉ましてんかー！

殿下バンジャ〜イ！

スカ…。スカ…。

なにやってんねん！ ちゃっちやと次撃たんかい！ まだ一杯蟲おるんやで？ はよしい！ それでもアンタ世界で一番きつたないといわれとる一族の末裔かいな。もっとキバリやっ！

バシュ！！ ……ピカツ！！ ドガアン！！ モクモク…キノコ雲。

王蟲ドドド〜。 王蟲ドドド〜。

次やっ！ 次っ！！

スカ…。スカ…。

ああ…。アカンわ…。早すぎたんや…。腐つとるでアレ…。

次っ！！ 次はよ撃たんかいっ！

勘弁してえなあ、無茶言うたらアカン…。見て分からんか？ ワイのからだドロドロなんやで？ なんかの病気なんや…。ちよつと休ましてえなあ…。ちよつとでええんや…。

ええい！！ 口動かす暇あつたらビーム撃てやっ！

うわっ、ドロドロ、ボトボト、肉が落ちて来たわ…キモツ。逃げるで！

待てコラ！ 持ち場を離れたらアカンって！ うわっ…。

スカ…。スカ…。ああ、もう弾でえへんわ…。ワイの命も弾切れや…。口からまだ出るもんいうたら、涎とあんさんへの恨み辛みの言葉くらいでっしやるか…。もうちよつと、ワイ、褒めて育てて貰いたかったですわ。あんさんそないに偉そうになんでかんでもやれやれいいますけどな、そないに出来るもんやあらしまへんで。人いっちは…。ワイは人ぢやいまっけど…。やる気にさせやなあきまへん…。ワイ、この仕事もう限界ですわ…。生きることにはとほと疲れ果てましたわ…。バタン…。

王蟲ドドドド…。 王蟲ドドドド…。

うわわわわっ、あのダンゴ虫ら、なんや、めっちゃ怒つとるんぢやう？ 目、真っ赤やで、ああ怖っ！ あれ人殺しの目やわ…。ごめん、ワシも逃げるわ…。

ワイも…。

ウチも…。

ワシも…。

はあ…。今更走って逃げてもアカンやろ。ワイはもうええわ。好きにさらせや。っーか逃げるんやったら始めから戦車で山に逃げとつたらよかつたんぢやうん？

いや塹壕掘って身を隠すんはどつや？ あいつら狭いところ入れへんやろ？

そつ、それやがなつ。そうやるべきやったなあ……。でも、もうアカンわ。時間ないわ……。

アホな上官持つとたまらん……。

あんま言つたんなよ……。あの巨乳ツンデレもええところあるんよ？人前では意地はつとるけどな、可愛いところもあるんよ……。ライタ―、シユボツ。タバコ、プカー。

ツンデレ？ デレなんかあつたか？ おつ、お前まさか、殿下と……。

……。ババさま、巨神兵死んでもうたわ……。

……。それでええんよ。あんなんにな、頼って生きてもな、しゃーないねん。

あつ！ 姫ねえちゃんが！

ほんまや！ あいつまた空に飛んどるで……。

高いところ好きやな……。

今頃何しに来たんや……。

うわっ、王蟲大群のちよつと手前に降りたわ……。

意味不明や。ちっちゃい王蟲もおるで。

あれちやう？ ムシキングみたいにバトルする気なんとちやう？

あんなちっこいのか？

実は強いとか、たぶん特殊能力があるんや。超音波とか、電撃とか、波乗りとか。

それポケモンやろ？

……どっちでもええやろ？ バトルに強いんとちゃうかって言いたかったんや。細かいこと言うなアホ。

アホやて？ なに言うてんねん。間違つたんはお前やろ？ なあ？

……ほんまム力つくわ。やるか？ お前と俺でムシキングしたるか？

こんなときに喧嘩すんな……。つーか、ムシキングちゃうみたいやで、あのちっこい王蟲の目、見てみ。真っ青や……。あれは戦士の目やない。めっちゃビビツとる。いたいけな子供の目や。オシッコ漏らしとるで。

うわあ……。ほんまや……。なんか青い液が下にベチヨベチヨやん……。

いや、もしかしたらあれはオシッコ漏らしとるんと違って、トルメキア軍を潰そう思て、この暴走を引き起こしたペジテの連中にリンチされて出来た傷から漏れてる体液なんちゃうか？ 王蟲の大群の暴走の方向を誘導する為に空からあの子供の王蟲を連れまわしてるのを、姫が見つけて制圧、連中に王蟲の前に降ろすよう言うて、降りたと。理由は王蟲の暴走の引き金となった王蟲の子供を王蟲の群れに返す為や。それで暴走が止まるかどうかは分からへんけどな。人間の愚行を姫さまは自分が犠牲になることで贖罪する意味合いもあるんかも知れへん。なんでか言うたら子供を群れに返すだけなら

自分まで降りる必要がないからや。どやこの推理。

うわっ…。すっ、凄いわ、お前…。たぶんそれ当たりや。よ、よう分かったな…。名探偵コナンも吃驚やで…。

でも相手は人とちゃうで？ 蟲やで？ そんなんで暴走が止まるか？

贖罪の為に降りたんやのうて、子供が怪我しとって心配やから一緒に降りただけちゃう？

暴走が止まるとして、姫さまは大丈夫なんか？ あんなデカイの急には止まれんやろ。

お前ら議論は後や、もうアカン、カウントダウン入ってまうで！

10！

9！
姫

王蟲トトトト。

8！
姫

王蟲トトトト。

7！
姫

王蟲トトトト。

6！
姫

王蟲トトトト。

5！
姫

王蟲トトトト。

4！
姫

王蟲トトトト。

3！
姫

王蟲トトトト。

2！ 姫 王蟲ドドドド。

1！ 姫王蟲ドドドド。

王蟲ドドドド。 ～～～～姫

姫ねえちゃんがっ！！！！！！

きゃ～～～っ！！！！！！

おい携帯で撮ったるなや！！！！！！

姫さま～～～～！！！！！！

さてさて姫さまはどうなったのでしょうか。くくくつ。皆さま、おはようございます。わたくし暗黒公爵サキエルにございます。

えーっ。今日は鳳凰宮入りの式典が中止になったということ、特別番組として、ナウシカ ラピユタ となりの山田くんのジブリアニメ三作連続放送を予定していましたが、ここで番組を急遽中断して臨時ニュースをお伝えします。

くくくつ。ナウシカさまが王蟲に撥ね飛ばされたところで放送を打ち切るとは鬼畜の所業にございますね。あれでは救いが全くございません。

申し訳ありません。この国を揺るがす重大なニュースが入りまして、なんとハーレム候補の座を奪われた筈のキリノさまが…

くくくつ。少しお待ちなさい……。この国の将来を担うお子様方のト
ラウマになつてはいけません。わたくしがこの後の展開を簡単にこ
説明致します。1分で結構ですので、お時間、頂けますかな？
そうですが、わかりました。では手短にお願いします。

くくくつ。まず王蟲に跳ね飛ばされた少女ですが、死にます。

……。ほう。

くくくつ。そのあと大勢の蟲達の触手によつて、からだを触られま
くられ、陵辱されます。

……。エ、エロも入ってるんですか。

くくくつ。ババさまがそれを見て号泣。

……。あれっ？ あのババさま目が見えないっていつてませんでした
っけ？

くくくつ。少女は死姦の屈辱に耐え切れず、黄泉の国から蘇り……。

……。蘇ってもあの怪我では……。

くくくつ。ゾンビとなって立ち上がって王蟲の触手をグシャグシャ
と踏みつけます。

……。なるほどゾンビと来ましたか。

くくくつ。触手は敏感な感覚器官。つまり弱点だったのでしょうな。

蟲達は堪ったものではありません。おずおずと腐海に退散し、世界は救われたのです。

簡潔明瞭なご解説ありがとうございました。どうしてもあの続きが観たいという方はツタヤでレンタルDVDでも借りて下さい。そこまでして観たくはないが……という方もご安心下さい。来年も、再来年も、その次の年も、何度でもこの映画は夏にこのチャンネルで放送していますので。

くくくつ。では、そろそろ…。

はい。臨時ニュースです。本日9:28。王都全域に戒厳令が布かれ、そして9:31。今から5分ほど前、王都の縦の動脈、白帝城と鳳凰宮を結ぶ幅200m長さ20kmの国道1号線において激しい戦闘が発生しました。これはライブ映像です。爆煙で分かり難いですが、おびただし数の閃光が発生しているのが分かると思います。これは国軍の90式重戦車の発砲によるものです。主砲から劣化ウラン弾が発射されるときに発生する閃光です。

くくくつ。国道1号線は昨夜から鳳凰宮北5kmの地点で国軍第一師団に属する90式戦車50両が横一列に並んで封鎖してありました。戦車の3km後ろにはMLRSと呼ばれる多弾頭地对地ミサイル車両が20台。そしてさらにその後ろ、鳳凰宮周辺には300門の火砲の陣地が出来上がっております。いま彼等が戦っている相手はハーレム候補のキリノさまにございます。

サキエル卿、何故このような事態となったのか説明して頂く前に、確認しておきたいのですが、キリノさまはまだハーレム候補さまなのですか？

くくくつ。そうでございますが、なにか。

キリノさまはハーレム候補の資格を失ったと鳳凰宮からFAXで連絡があつたもので。

くくくつ。精約にはハーレム候補は王子が決めると明確に定められております。王子はキリノさまをハーレム候補として受け入れ、キリノさまは王子のハーレム候補となることに同意しました。この意志はどちらも覆っておりません。よってキリノさまはハーレム候補です。

しかしハーレム候補と認められるには鳳凰宮評議会の議決が必要で、それが否決されたと。

くくくつ。そのような決まりは精約のどこにも書かれておりません。慣習として続いていただけのことでございます。慣習も場合によっては慣習法として法の力を持つこともあるのでございましょうが、最高法規である精約を覆すことは出来ません。鳳凰宮評議会の議決はあくまでも参考意見。王子が受け入れなければ何の効果もございません。キリノさまをハーレム候補と認めぬ議決など絶対に受け入れぬ、王子は今朝、白帝城の玉座でそう仰りました。くくくつ。とはいえ鳳凰宮も王子の考えを受け入れるつもりは微塵もないようですがねえ…。

なるほど…。で、王子と鳳凰宮との間で骨肉の争いが始まったと…。つまり国を二分する内乱が始まった訳ですか。

くくくつ。ご安心下さい。いま戦っておられるのはキリノさまお一人のみにございます。どのようなことがあつても王子が動くことはありません。この戦闘は内乱ではございません。キリノさまの鳳凰

宮入りの式典が始まったただけのことにございます。いつもと少し趣向の変わった式典となりましたが、王子のハーレム候補としてキリノさまが相応しいかどうか、それをこの式典を乗り越えることでキリノさまご自身が確信出来たならば、見ている我々も同じように確信出来るのかも知れません。見守りましょう。くくくつ。しかし、まあ、あのようにドレスの裾を短く切られてヒラヒラと…。動き易くはあるのですが、見えておりますな。くくくつ。おパンツもドレスと同じく純白にございますか…。今日は昼から雨となりましよう。それまでに決着が付けばよいのですが。

標的がラインより800地点まで到達。ラインからの第6次一斉砲撃開始…。着弾。結果…直撃44。標的のダメージ認められず…。

クソツ…。90式の重砲が800mからの距離で全く通じないのかよ…。

赤木師団長。標的の移動速度上昇しました。4km/h。ライン到達まであと12分です。

第7次一斉砲撃は予定通り700m地点だ。タイミングを繰り上げる。MLRS、1と2を総合連動から外し着弾ポイントを予定より400m先に変更。出来次第撃て。けん制に使う。時間がない。作業急げ。

了解です。あつ…。

なんだ。

魔法ソナーNo.120が強力な魔力を感知。ここにテレポートしてくる者がいます。波紋照合。…。エロス王家近衛魔法騎士団、団長セナさまです。

…。パチツ　ふうっ…。（赤木セナ：　：15才：エロス家に代々仕える名門赤木家の長女で、メガネっ娘の天才魔法剣士なのだ。黒と白のアクセントでコーディネートされた赤木家伝統の戦闘衣をいつも身に纏っているのが黒騎士とも呼ばれているぞっ！　しかしレポートから出て来るときに捲りあがった黒のミニスカからチラ

リと見えるお下着は、アダルトな黒のおパンツではなく、フリルがほんの少し入った薄いピンクの可愛げなおパンツなのでありますぞっ！ん…？ 何ここ…。テント？ むさ苦しいところね。クーラーも効いてない…。鳳凰宮の中に師団司令室があるんだからそこで指揮すればいいのに…。

……。

お兄様。おはようございます。

……セナ、今は作戦中だぞ…。

作戦？ ふっ…。わたくしそのことでここに参ったのですよ。適当でよろしいのです。そのように真面目にやらなくても、誰もお兄様の部隊には戦果など期待していないのですから。

随分とハッキリ言うんだな。

国軍の兵器は魔法使いを倒すようには作られていませんもの。

標的がラインより700地点まで到達。ラインからの第7次一斉砲撃開始…。着弾。結果…直撃46。標的のダメージ認められず…。

クソッ…。

魔法使いを倒すことは魔法使いにお任せ下さい。

うるせえなあ…。

勝とうだなんて思わないで…。

お前、もう帰れよっ。

……お、お兄様は人間相手にだけ戦争やってればいいのよ。

はあ？ アレも人じゃねーかよ…。

何を今更…。魔法使いは人間に比べたら神さまみたいな存在です。わたくし達を人間だとするなら、お兄様達のような能無しの旧人類は猿よ。類人猿。進化に取り残され消え去るゴミの種なのです。まあ、一応資源ゴミだから生き残させてあげていますが。

ぐぬぬぬっ！

標的がラインより600地点まで到達。ラインからの第8次一斉砲撃開始…。着弾。結果…直撃47。標的のダメージ認められず…。

クソッ！！

何を残念がってらっしゃるの？ 当たり前の結果じゃないですか。ゴジラやカメラが戦車で撃たれて死ぬ？ 使徒がミサイルで死ぬ？ ワルプルギスの夜が爆弾で死んだ？ 時間の無駄です。さっさと戦車とミサイル車両を1号道路からどけて下さい。わたくし達が出れないじゃないですか。皆、すごく怒ってますのよ？ 邪魔だからぶっ潰そうかって子をなんとかだめて、わたくしここに来たのですから。近衛魔法騎士団、団長として命令致します。即刻、道路から車両をどけなさい。

標的が…。キリノがラインに到達するまで待つてくれ…。

ライン？ ああ、あの戦車の列ですね…。まあ、それくらいまでなら待つてあげてもいいですけど…。お兄様、早くあの戦車どけた方がよろしくなくて？ キリノはまだ一度も攻撃をしていませんが、強力なバリアを張っていますわ。あの子が戦車群に接触するだけでバリアに巻き込まれて全滅してしまう。

全滅？ 始めからそのつもりだが。

乗員を犬死させるおつもりですか？

俺らは猿だろ？ だったら犬と大差ねえーだろうがよ…。

標的がラインより500地点まで到達。ラインからの第9次一斉砲撃開始…。着弾。結果…直撃50。全弾直撃。標的のダメージ認められず…。

ありえん…。キリノは昨日魔力に覚醒したばかりだろ。魔力は多く見積もっても5000MPが限界の筈。出力もせいぜい100MP/sくらい。この距離で砲撃を跳ね返すバリアの出力はないし、あったとしても魔力はもう尽きてもいい頃だ…。どうなっている。ひまわりのデータはまだか？

す、すみません。どうもひまわりは故障中のようで、標的のデータがありません。数値を…。

…いいから。出せよ。

標的の最大魔力12兆3210億MP、最大魔力出力500億MP / s…です。

……。

うふふふつ。お兄様。そう吃驚する程のことでもありません。魔力を上げる方法は色々とございます。素質と覚悟があれば一日だろうが一時間であるうが、どうとでも上がるものです。キリノが単身で鳳凰宮に乗り込もうとしているのは、頭が狂ったか、何か勝算があるのか、よく分かりませんが、やっと見極めることが出来ました。礼を言いますわ。

標的がラインより400地点まで到達。ラインからの第10次一斉砲撃開始……。着弾。結果…直撃50。全弾直撃。標的のダメージ認められず…。同地点にMLRSのミサイル弾幕。着弾。爆煙により標的を確認出来ません…。

確認するまでもない。最大魔力出力500億MP/sもあるんだ…。この火力ではダメージどころか足止めにもならん…。椅子にドサツ。

……お兄様、今すぐ戦車を後退させて下さい。

……駄目だ。

この陣地にある火砲を全く使っていないではありませんか。戦車とキリノとの距離がこれ以上近づいてはもう撃てなくなります。第一師団の虎の子、ヘリ部隊も飛んでおりません。何故ですか？

うるせえなあ…。まだ準備が出来てねーんだよ。

……お兄様の第一師団が負けるのは仕方ありません。負けても誰も責める者はいないと思います。しかし不手際があったのなら話は違って来ます。後でお兄様が処罰されてしまいます。勝たなくて良い

のです。あとはわたくしがやりますから、犠牲者が出る前に戦車を下げて下さい。意味のない発砲でも撃てる武器があるなら今すぐ全てお使い下さい。でなければお兄様が…。

ふっ。なんだ、お前。俺のこと心配してくれてんのか？

わ、わたくしは……そのう……（／＼／＼

標的がラインより300地点まで到達。ラインからの第11次一斉砲撃開始……。着弾。結果…直撃50。全弾直撃。標的のダメージ認められず…。

……大丈夫だ。心配するな。

心配しますよっ！ 赤木家はエロス家に1000年も前から仕えてきた武門の名家、エロス家に叱責されたら当主であろうが誰であろうが、腹を切って詫びねばなりません…。

泣くなよ。お前らしくもない。ツンデレか？ そういつのはもうちよっと可愛い妹がするもんだ。

すみません……。シヨボン…。

……戦車を下げないのには中に人が乗っていないからだ。ここでオペレーターが照準を合わせて発砲している。人の代わりに載せているのは、核でな…。

なっ！

標的がラインより200地点まで到達。ラインからの第12次一斉

砲撃開始…。着弾。結果：直撃50。全弾直撃。標的のダメージ認められず…。これよりコスモスの制御を行います。裏コード発信。

MLRSも戦車と同じく無人でその半数の10台に核を10発ずつ。計100発搭載してる。キリノの正面から叩き込む。ヘリが飛んでないのは核の爆風を食らうからだ。あれにも核弾頭ミサイルを積んでる。12機に4発ずつ。計48発、キリノのバリアの側面から叩き込む。

なっ、何を考えてらっしゃるのですかっ！！ 王都のしかも鳳凰宮の直ぐそばで核爆発など…。ばっ、馬鹿なことはお止め下さい！！

鳳凰宮は強力な魔法バリアで守られている。核の直撃ではない。戦術核でもあるし大丈夫だろう。王都から住民は全て避難している筈。放射能の除去はすまんが魔法でやってくれ。

そういうことを言ってるのではございません！ このような作戦、鳳凰宮の鳳凰宮評議会の議決も得ずに行ったら、成功しようと、失敗しようと、お兄様は責任を取らされるではありませんかっ！！

議決は貰ったから安心しろ。

そんなの貰える訳がないでしょ！！

ふん。ばれたか。詰まらん。

標的がラインより100地点まで到達。ラインをフルオート砲撃のバーサーカーモードに切り替えます。ラインの核安全トリガー、50機、全て解除しました。コスモスから裏コード認証の返信。コスモス1、コスモス2、コスモス3、攻撃姿勢に。位置微調整終了。

トライアングルを形成します。

このような馬鹿なこと、いま直ぐにお止め下さい。キリノ如き、わたくしが必ず仕留めますから。

お前は魔法戦闘では天分の才を持っている。だからこそ、その年で近衛の団長にまでなった。ム力つくことに俺より位が上ときた。最大魔力は100兆を超える。もしかすればいつの日か蓮華を超えてルーン最強になるときが来るのかも知れん…。お前は赤木家の誇りだ。

だったら、わたくしに全て任せて…。

俺は白の女皇帝の能力を調べた。あれは魔法使いに対して無敵という外ない。お前も分かっているんだろ？ あの攻撃は防ぐ方法がないってことを。

い、いえ、あれは魔法科学技術省が遮蔽結界を…。

そこで働いてるダチに聞いたよ。その話はキリノや王子にプレッシャーを掛けて譲歩を引き出す為のブラフでしかないってな。

……。

標的がラインに接触。戦車は崩れません。標的がバリアを解いたものと思われます。ライン、起爆します。

駄目っ！！

ミ ミ ミ ミ ピカッ ミ ミ ミ

ドドドドドゴツゴゴゴゴゴゴ~~~~ン!!!!!!

キノは数日前までは普通の中学生だった。人を殺したことはまだない筈だ。戦車の中に人がいると思いついてバリアを一瞬解くかも少し期待はしていたが、本当に解くとは甘い。飛び越えるか、レポートすればよいものを鳳凰宮入りの式典の様式になぞらえてノコノコと歩いて来たりするから、敵に行動を読まれ罠にも掛かる。

あああつ…。

が、この程度で終わりとも思えん。

標的のダメージ不明。標的がいると思われるライン中央へMLRSの核ミサイルを超低空で水平発射……。着弾。

ミ ミ ミ ミ ミ ミ ミ ミ ミ
ドドドドドゴツゴゴゴゴゴ~~~~ン!!!!!!

標的のダメージ不明。ビル屋上に待機していた攻撃ヘリ、アパッチ・ロングボウを離陸させます。

もうこれではお兄様が…。馬鹿っ!!! うつつつ…うつつ…。

ふふっ。怒るのはまだ早いぞ。お前、国軍の兵器は魔法使いを倒すようには出来てないと言ったな？

……。

実はひとつあるんだぜ？ いやみつつかな。ひまわりをキラ衛星から守護する3つの衛星コスモス1号、2号、3号。ひとつひとつ

はただの防御衛星でしかないが、3つが集まって同時にオリハルコンレーザーを発射するとエネルギーが反応し合って威力が3乗となる。その連動プログラムを鳳凰宮に内緒でコッソリと仕込んでおいた。俺も魔法使いと戦いたくてな。上にバレたら死刑は確実だが。

馬鹿っ…うっっ…うっ…。

標的がいると思われるライン中央へアパッチ・ロングボウから巡航ミサイル、サイドワインダーを超低空で水平発射…。着弾。

ミ ミ ミ ミ ミ ピ カ ッ ミ ミ ミ
ドドドドドゴッゴゴゴゴゴゴ~~~~ン!!!!!!

標的のダメージ不明。コスモス1、コスモス2、コスモス3、核燃料電池をオリハルコンに直結させ、振動を開始させます。発射可能まであと30秒。回路が焼きつく為、一発しか撃てません。

核をキリノの側面や正面からしか当てなかったのはこの切り札があったからだ。キリノがもし核の攻撃を凌ぎ生きていたなら、側面のバリアを強化して頭上のバリアを弱めている筈…。

……。

お前を死には行かせない。俺がいまここでケリを付ける。キリノを道連れにする。俺は今回のことが終わったら王子の前で腹を切る。

…… 赤木家のこと、後は頼むな。

お兄様、わたくしは…。お兄様のことを…。

…… 後にしてくれ。…いやもうお前は戻れ。俺も多分お前と同じ気

うるさいですわ！ ……パチッ

うああ…つとと。おおっ、怖っ！ なっ、なにすんのよっ！ もうちよっとで死ぬところだったじゃん。シャレにならないよ。全く…。アンタさあ、上手く行かなかったからって、私に当たるんじゃないわよ。

クソッ！ クソッ！ クソッ！ キリノ…ッ！

アンタのお兄ちゃん頑張ったみたいだけど核や衛星兵器も残念ながら無意味だったみたい。キリノの波紋は揺らいですらない。アイツ全くダメージを食らってないよ。

無意味…。わたくしの為に…。ふふっ…。キリノ…。殺してやりますわ。出ますっ！ カナコ、皆に出撃の合図を！

白の女皇帝対策は？

各自で波紋を飛ばして撥ね返して下さい。

キリノの波紋攻撃を感知したときにはもう手遅れなんだろう？ そんなのどうやって撥ね返すんだよ…。

気合です。

気合ねえ…。

あれだけ林立していた塔が一つも残っていません…。いえ塔どころか、何も残っていません。これが王都の映像とはにわかには信じられません…。黒い世界が現れました…。まるで石炭のぼた山のよう…。黒い砂丘が延々と…。何でしょうこの光景は。異世界のよう…。地獄のよう…。

くくくつ。核の火に焼かれて塔が崩れ、瓦礫となり、小石となり、砂となり、最後は消し炭となって、このように広大な黒い砂の海が出来上がってしまいました。太陽が爆煙で隠れ、お昼前だというのに日暮れのような薄暗らさでございます…。おや、空から雪のように死の灰がチラチラと降って来ましたよ。くくくつ。なにやら、さきほどのアニメ映画の続きを観ているようでございます。くくくつ。あの核の猛攻を火の七分間とでも名付けましょうか。

いえ核攻撃は三十分以上連続しましたので、残念ながらそのネーミングには無理があるかと思いますが、それにしても、ここまでやる必要があったのでしょうか…。

くくくつ。結果から言えば、キリノさまはご健在でありますので、いま一歩足りなかつたなど。

ご健在？

くくくつ。ほら、あそこに…。

な、な、な、なっ！？ なんとーっ！？ キリノさま、ガリガリ君を食べながらダルそうに歩いてらっしやる！？ ど、どこのコンビ

二でパク…いえ、お買い求めになられたのでしょうか？ い、いえ、そっ、そうではなく、どうして核攻撃を受けて平気でいらっしやるのでしょうか？！？

くくくつ。キリノさまは攻撃を受けておられません。魔法使いであってもあのような猛攻をまともに受けては無事では済みません。さつき足りないと言ったのは核の威力ではなく、この作戦の指揮を取った者の魔法使いへの認識と、それを踏まえての覚悟でございます。しかしそれは仕方のないこと。魔力を持たぬ者に魔法使いを本当の意味で理解することなど出来ませぬから…。三次元に住むものが四次元の世界を理解するが如しです。理解したような気になっているだけでございます。

魔法使いの理解についてはともかく、キリノさまが攻撃を受けていないとはどういうことなのでしょう？ わたし確かにキリノさまが戦車の大爆発に巻き込まれるのをこの目で…。

くくくつ。国道1号線沿いの塔群の中には高島屋がございます。ご存知ですか？

はあ…。それはもう有名ですから…。500年も前から店を開いている老舗百貨店の高島屋の本店で、エロス最大の売り場面積を誇る巨大な商業塔です。屋上は昼はお子様向けの遊園地ですが夜はビアホールになっています。実はわたし、昨夜ひとりで飲みに行ってきたところなんです…。先日命を落とした若林はそのビアホールで出る、から揚げが好物で…。まあ、普通のから揚げなのですが…。あの反乱事件のあった前日もわたしと一緒に…。お前はメタボだからと食べるのを止めさせたのですが…。ハア…。あれが最後なら、もっと気の済むまで、口が油まみれになって、手がベタベタになるまで、食わせてやりたかった…。そう彼を偲んでしんみりと、枝豆

をつまみに生ビールを飲んでいたら、わたしはっ……。わたしはあ……。
もうう……。

くくくつ。今日のことを思い出して下さいませ。

あっ、確か…道路に面したショーウィンドウに今年の秋物の服が飾られていて、それをキリノさまが少し足を止められて見ておられましたね…。

くくくつ。はい、それでございます。戦車に接触する寸前、自分とマネキンの位置をレポートで入れ替えられたのでございます。マネキンのプラスチックボディーを魔法で熱してグニャグニャと柔らかくして、遠隔操作で動かし、あたかも自分の分身のように……。キリノさまは城を出るときに蓮華めとキャツキャツと話をしておりました。あやつに変わり身の術を教えて貰ったのでございましょう。

ちよ、ちょっと待って下さい。サキエル卿。からだはマネキンで良いとして、白のドレスはどうされたのですか？ マネキンのキリノさまはドレスを着ていましたよ。いま歩いておられるキリノさまも同じものを着ておられます。偶然キリノさまと同じようなドレスを着たマネキンが高島屋のショーウィンドウにディスプレイされていたというのですか？

くくくつ。マネキンが着ていたのは本物のドレスでございます。レポートでキリノさまは自分の服をマネキンに……。

で、では、いまキリノさまが着ておられるのはなんなのですか？

くくくつ。キリノさまは何も着ていません。下着姿です。

……いえ、いえいえ、サキエル卿。よくご覧下さい。あのよう
にキリノさまは白のドレスを……。あっ、あれっ？ よ、よく見れば、
何やらキラキラとドレスが光っていますね……。キリノさまのドレス、
あのように派手…だったでしょうか…。

くくくつ。微小の冷却魔法を大量発生させてその白い光の集まりを
服に見立てているだけでございます。くくくつ。涼しげでございま
すが、どこであるような魔法を覚えたのでしょうか…。くくくつ。

キリノさまが実際に着ているのは下着だけ…。

くくくつ。その通りにございます。

あのドレスは魔法…。

くくくつ。その通りにございます。

つまり魔法が切れれば…。

くくくつ。ご想像の通りにございます。

なるほど、よくわかりました。この後の展開がとても楽しみ……
ごほごほっ。いえ心配になって来ましたが、しかしそうなりますと
キリノさまは戦車がトラップだとあらかじめ分かっておられたこと
になりますね。もしかして核攻撃があるとまで看破されておられた
のですか？

くくくつ。魔法使いへの認識が足りないと言ったのはまさにその事
です。魔力を持つことは人とは全く別の種に生まれ変わるのも同義
です。そのような超人に対し人間相手と同じように戦ってはいけま

せん。強力な魔力を持つキリノさまには、ある程度の未来やその場の状況が直感で見通せてしまうのです。

魔力を持つと予知能力のようなものが生まれると？

くくくつ。その通りにございます。ですので魔力の度合いにも依りますが、魔法使いに対して罠を張るのであれば、相手が罠であると分かっても有効性が残る罠であらねばならぬのでございます。キリノさまが戦車の中に人がいると思ってバリアを緩めるであろうなどという、そのような不確かで甘い考えの罠で、魔力を持たぬ者が持つ者を破る偉業を成すなど、到底出来ぬのでございます。

なるほど…。ちなみにどういう罠であれば有効であったのでしょうか？

くくくつ。予知能力があるということを入れて、それを逆手に取って相手の行動を制限するような罠。例えば、あらかじめキリノさまの家族を拉致して戦車の中に拘束するのはどうでございましょう。魔道具で戦車に結界を張ってレポートで救出が出来ぬようにすれば、キリノさまは危険を犯しても救出の為に戦車へと接触しようとするでしょうし、救出しなくても家族が目の前で死ねば、キリノさまは冷静な判断能力や精神集中を失い、魔力が上手く引き出せなくなるでしょう。そのような状況に追い込めれば核など使わずとも通常兵器で楽に勝てるのではないのでしょうか。

しかし、そ、それは…。失礼ながら、あまり褒められた作戦ではありませんね…。卑劣といえますか…。

くくくつ。絶望的な能力格差は自分の力で埋める他ありません。その力をどこから持つてくるか…。正々堂々、騎士道精神で戦うのは魔法使い同士だけで…。んっ？

どうされました？

くくくつ。あの砂丘の上。くくくつ。来ました、来ました。キリノさまを唯一脅かすことが出来るであろう対抗馬が…。

おおつと、騎士です！！ 騎士団です！！ 黒、赤、黒の旗。エロス王国近衛魔法騎士団が突如現れました！！ キリノさまから200mくらいでしょうか。いつの間にかキリノさまの周りをぐるりと取り囲んおります。数は50といたるところでしょうか。いや、もつといますでしょうか。皆、馬を止めて、ただじつとキリノさまを見詰めています…。あつ…。キリノさまが地面に膝をつき苦しげな表情を…。わわわつ…。ドレスがお腹の辺りで引き千切られたかのようにエツチに透けて、肌が露出しています。オヘソが見えています。これはいい…。

くくくつ。魔法攻撃は既に始まっております。中距離魔法の定番、光の矢でございます。魔法エネルギーを鋭く尖らせて相手を射抜きますので、魔法バリアが多少強力であつても貫通してきます。とはいえまだキリノさまのバリアの方が数段上にございますので、貫通しても魔法エネルギーの殆どは無効化され、キリノさまが受けるダメージは軽微なものでしかありませんが…。精神集中が少しでも切れてしまうとバリアが崩れますので、一気に畳み込まれるやもしれませんね…。

キリノの魔力が揺らいだ。波紋攻撃がまた来るぞ。タイミングは各自で。気合で返せ。

副長。無理です。波紋は完全に同期させないと打ち消せません。相手の波紋が来るタイミングが分からないのに防御なんて…。無理…。成功する確率なんて何万分の1…。

泣き言いうな。やらないと100%倒されちゃうつての。防御波紋を撃てば何万分の1の確率でも助かる。

ミ ミ パンツ ミ ミ キャツ!! バタツ…。

報告! キリノからの波紋攻撃、第23波により狙撃班長のマナミさま討たれました! はわわわわっ…。軍団の攻撃の要が…。もっ、もう無理です!! キリノのバリアは安定期に入り、こちらの攻撃は全て跳ね返されています。それに比べこちらはキリノからの波紋攻撃で30秒に1人のペースで倒され続けて…。こ、こんなの戦いじゃありません。一方的虐殺です。逃げましょう!!

逃げるったって何処に逃げるんだよ。勝たない限り帰る場所なんかない。とはいえ…。どうするクシヤナ殿下…。じゃないや、セナ団長。巨神兵のような秘密兵器ある?

…。あのバリアをなんとかしないと駄目ね。わたくしが行きます。

駄目だ。バリアを壊してる最中に波紋で狙い撃たれる。

……では神具の封印を解きましょう。

ロンギヌスの槍か。まあ、アレなら一撃だろうが……。うん……。じゃあ特攻させるか……。サオリ。出番だよ。

……。！？ ……へっ！？ せつ、拙者でござるか！？

うん……。派手に決めてきてよ。

い、いや……。それは……。このような重大な作戦に拙者が……。

バジーナ家の血を引くアンタでしかあの槍は完全に能力を発揮しないだろ……。大丈夫。私の馬を貸してやる。こいつは初速からマツハ5で走る。ここからキリノへは200mしかない。一瞬だから迎撃されることはない。槍をバリアに打ち込んだら馬ごとテレポートで離脱してくれ。戦域から出てくれていい。後は私と団長がやるから。

わ、わかりました。

頑張れサオリ。手柄を取って没落した名門バジーナ家を、アンタのその手で再興させるチャンスだ。悲願なんだろ？

はいっ！！ 行きます！！ シユタツ！

……。じゃ、団長。私も行ってくる。

……。貴方、またあの力を使う気なの？

うん……。私の取り柄、あれしかないし……。

で、でも…

ねえ…。団長（／／／／

ん？

キス…してくんない…かな？ だっ、駄目…かな？ へっ、変な意味じゃないのっ！ そ、そのう…精神を集中するのに…。そういうのがあれば頑張れるかな…みたいな（／／／／

チュツ（／／／／

えへへへっ…。ありがと（／／／／

無理しないでカナコ…。

…バリアは必ず壊すから後はよろしく。ふうっ…。サオリは…っ
と…。ああ、よかった…。まだ出陣してない。おゝいっ！ 言い
忘れたけど、馬から振り落とされ…

サオリ・バジーナ出撃します！！ バシュ！！ どりゃああああ
！！ どわわわわっ…。きゃ〜っ！！ バタン。うっうっ…。痛い
。

うへえ…。

副長殿…。お助け下さ… ミ ミ パンッ ミ ミ キ
ヤンッ！！ バタッ…。

うへえ…。

報告！ キリノからの波紋攻撃、第24波によりサオリさま討たれました！

私がやるしかない…か…。特殊能力発動！！ デビルカード！
…パチッ

ハアハア…。何だったんだろあの子…。凄い槍を持ってたけど…。
ハアハア…。まあ、いいか…。あと76騎…。

…パチッ ふん…。へえ…。ここがあの鉄壁のバリアの中か…。
…。凄いね姫さま。あれだけの人数から魔法の連射を浴びても全く動じずにここまで綺麗にバリアを立て直すって…。

なっ！？

バリアの魔力出力をここまで上げて安定されちゃうと中・遠距離攻撃では姫さまに全くダメージを与えられず、完敗じゃん？ だから直接攻撃しに来ちゃいました

直接攻撃って…バリアを突き抜けて…テレポートしたっての…？

エロス近衛魔法騎士団、副長、来栖カナコといます。姫さま。バリアの中に勝手に入ってすみません。テヘッ

あっ、ありえない！！ アンタどうやって…！！ ……パチッ

ヒョイっと。あはははっ！ 私のことカナカナって呼んで下さいな。
……パチッ

≡ ≡ ≡ バキッ!! ≡ ≡ ≡ キャッ! うつつ…。なん
で…。こんなのオカシイ…。バリアの中に入れる訳がないのに…。

気になる? さて、どうしてなのかな? ……パチッ

≡ ≡ ≡ バシッ!! ≡ ≡ ≡ キャッ! あつつつ…。

えへへっ。姫さまエロいよ。エロい。魔法の服が引き裂かれて、も
う殆ど下着姿じゃん。勝気な顔が驚愕して苦悶に歪んでいくのって
見ててゾクゾクする。絶望したらもつとエロイ顔になるのかな?

うつつ…ああ……。えいつ!! ……パチッ

うわっつとと。残念。上手い切り替えしだけど。ちゃんと狙わな
いと当たらないよ? 運動神経も魔法能力も一流だけど…魔法戦闘
は素人だね。 ……パチッ

≡ ≡ ≡ ドガッ!! ≡ ≡ ≡ うつつ…。

ハアハア…。姫さまに恨みはないけどさ…。私ら近衛の連中は領地
持ちの貴族じゃないんだ。鳳凰宮の機嫌を悪くすると食いつばぐれ
るの。お家を取り潰されちゃう。本当はみんな王子側に付きたいの
よ? 近衛だし。でもね…。力のない奴についても仕方ないじゃん。
きゃはははっwww 出でよ!! モーニングスター ……パチ
ッ - - - - - コロン…。

ハアハア…。ハアハア…。

よいしょつと、重いなあ…。姫さま…。これ600kgもあるんだ
…。ブルン〜ブルン〜ブルン〜ブルン〜 あはははっwww

ww モーニングスター 食らっちゃえっ!! - - - - バ
コンー!!

キャッ! あああああっ……。~~~~~コロコロ~~~~コロリン
……。ドサッ……。うっっ……。ゴホゴホ……。今は……。ちょっと効いた
かも……。

……バカな。

よっこらしょっと……。ん? もう打たないの?

バリアの内からの攻撃だぞ? 600kgのモーニングスターの直
撃を心臓へモロに食らってなんで死なない!! なんてバリアが崩
れない!!

自分のからだにシールドを張ってるの……。ふうっ……。アンタが攻
撃して来ないならこっちから攻撃させて貰うわ。次の波紋攻撃の準
備が整った……。

……。

戦意喪失? どうやら、わたしの勝ちみたいね。

ふふっ……。団長にバリアは必ず壊すとか大見得切って、この様が……。
情けない……。

アンタ頑張ったと思うけど……。カナコって名だっけ……。

……もういい。やねよ……。

……ねえ。カナコ。最後に聞いときたいんだ。どうやってバリアの中に入ったの？ 理屈では絶対に入れない筈なのよ。実戦では想定外のことが起こるって分かってたけど、こんなことちょっと信じられないんだ……。わたしのバリアに欠陥があるのかな？ 入り方、教えてくれない？

そういう特殊能力なの。どういう理屈で入れるかなんてしるかっ。

……テレポート系の能力を極めたの？

違うよ……。これ。

ん？ カード？ 真っ黒ね……。

デビルカードってんだ。私の能力の象徴だよ。

……。

ドラえもんって漫画読んだことあるだろ？ デビルカードってのはそこに出て来る道具の名前なんだよ。身長と引き換えにお金を貰うって道具。私さ、背低いじゃん。子供の頃、7才だったかな。その漫画を読んで、私なら身長より寿命の方がいいなって思ったんだ。ちよつどそのときに魔力が覚醒したんだ……。

寿命と引き換え……。

そうよ。叶えて欲しい状況を願うと、難度に合わせて1分あたりに必要な寿命がカードに表示されるの。換命レートね。今回かなり高かったんだ。バリアの中で居続けることが出来る願い、1分間に必要な私の命は1年……。ここに來て3分過ぎたから3年も使っちゃっ

た…。だからバリアに欠陥はないと思うよ…。あつたらもつと…

馬鹿…。アンタ馬鹿じゃん？ そんなことをして勝っても…。

姫さまには分かんないだろうな…。さつきも言ったでしょ…。私ら近衛はこの腕一本でお家を背負ってるの。少しでも強くなれるなら強くならないと駄目なの。そうすれば地位があがって、俸禄が増えて、お家は安泰。家族を養える…。弱ければ…悲惨なものよ…。

…。

私もう50年分くらい寿命使っちゃったんだ…。でも近衛の副長になれた。家族はみんな喜んでくれた。70が寿命なら、私あと数年の命だけど…。

…。

ふふふつ…。来栖家は…。私がいなくなってもやっていけるかな…。来栖家は…。うう…。ううあ…。ううう…。ヒクツ…ヒクツ…。

…。先のことなんて分からないわ。70が寿命？ 150が寿命かも知れないじゃないの。それならアンタ100才まで生きて大往生出来るわ。来栖家がそんなに心配なら泣いてないで、長生きして結婚でもして、アンタの思いを子供に託しなさい。これはわたしが預かります。

！？ カードが…。いつの間に…。返せっ！

駄目。近衛は今後、王子の手足となって忠節に励んで貰わねばなりません。無駄に命を減らすこと許しません。

ふんっ。あれだけ殺しておいて…。

なっ！ 殺してないわよっ！ 人聞きの悪いこというなっ！ みんな、ちよつと気を失ってるだけなのっ！

気を失う？ アンタ、波紋攻撃で心停止させてたんじゃ？

違うっ！ 全員の波紋は微弱ながらちゃんと鼓動してるから死んでないっ！ 仮死状態なのっ！

倒れた連中の波紋が感知できないから死んだのかと思った…。

それはアンタの能力が未熟だからよ…。ていうかアンタ達、後でわたくしが鍛え直すわ…。あまりに酷すぎる…。これがエロス家の近衛つて…。最強の騎士団がこれつて…。

なにさ。姫さまこそ甘甘じゃないの。歯向かった奴は全員皆殺しにしるつての。こんな甘いことしてたらいつか足元すくわれるつての。心停止にしとかなかったこと後で絶対、後悔するんだから。

残念ながら、まだ心停止させるまでの力が無いのよ。でも今度王子の決定に歯向かったら、全員殺すからね。覚えておきなさい。わ、わたしはやるときはやる女なんだから（／／／／

ふんっ…。

なっ、なによ、その顔…。本当なんだからねっ…。もう腹立つわ…。ふんっ…。で、アンタのこのデビルカードとの契約だけど、バリアの中に居続ける時間、寿命が縮むんだよね？ ということは今の契

約を切るにはバリアを解くしかないか…。バリアを超えて帰ることは出来そうにないし…。

私なんかの為にバリア解くなよ…。団長はわたしより10倍は強い…。解いたら確実に姫さま殺されるっての。べつに私が死んだっていいだろ。近衛を強くしたいなら、もつと有能な奴を連れて来て育てればいい。さっきもいったけど私なんか先は短いし。デビルカードを使わないと並み以下だし。カード使えない私なんて…。

うっさいわね…。アンタのこと、ちよつと好きになつたから助けてやるのよ(ノノノノ)

同情なんていらーよ…。哀れむな馬鹿…。

違うよ…。アンタ、わたしのこと姫さまって呼んでくれてるじゃない。それって王子との間のことを認めてくれてるってことでしょ？ わたしき。この鳳凰宮入りで姫さまって言葉で祝福されたのってアンタが初めてだから、ちよつと嬉しかったのよ(ノノノノ)

…二人のことは二人で決めるべきだっと思うし、王子が決めたんならアンタが姫さまだっと思うっただけだよ…。祝福とか、そういうんじゃないくて、私は、別に、姫さまのことなんて…(ノノノノ)

うん…。だから助けてあげる。カナコがわたしを姫と認める限り、わたしはアンタの主であり、アンタは私のシモベだから。

で、でも…。

いいよ。気にしないで。蓮華さんから序々にからだに慣らしながら魔力を上げて行くように言われてたけど、そうも言ってもらえなくな

ったわ。ていうか、そろそろ慣れて来たから本気でやるのかなとも
思ってたし。ちょうどいい頃合よ。心配そうな顔しないで。別にバ
リアがなくても…。波紋偽装解除！ バリア解除！ ……パチッ
……パチッ

なっ、何を言ってるんだ？ 本気？ 波紋偽装？

わたし波紋系の能力だから自分の波紋を偽装出来るの。力が大き
ぎるとアンタ達、逃げちゃって実戦演習にならないからさ、一応、
わたしの魔力を、最大魔力1兆2兆3兆2億MP、最大魔力出力5
00億MP/sってことにしていたけど、本当は、最大魔力429
京23兆32億MP、最大魔力出力230兆2500億M
P/sなのよ。

……。

えへへへっ。気持ちよくて、王子とちょっと共振し過ぎちゃったん
だ(ノノノノノ)

姫さま…。やっぱり私…。

緊張しないでカナコ。どうしても怖かったら、お茶だけ飲んで帰るだけでもいいの。強制はしないから。ねっ？

……うん。

じゃ、わたしの部屋に入って…。

おじゃまします…（／＼／＼／

パタン…。ちよつとそのソファ―に座って待ってて。お茶入れてくるから。パタパタ。

あつ、私が…。

いいよ。お客様なんだから大人しく座ってて。

う、うん…。そわそわ…。キョロキョロ…。

お待ちませ。紅茶と…。カチャ。チョコレートケーキ…。カチャ。ど
うぞ…。

ありがとう…。カタカタ…。アレ…？カタカタ…。ごめん…。手が
震えて…。

背中から抱きつ…。カナコ…共振ってそんなに怖いものじゃないよ。

わたしがリードするわ。アンタの波紋にピッタリと隙間なく合う波紋を飛ばして、全てを満たし、ゆっくりと引き上げてあげるから……。

私、初めてなんだ……。上手く出来るかな……。ガタガタブルブル。

安心して。わたしに全てを委ねて……。全部やってあげる……。はい、ケーキ……。あ〜ん……。

……（／／／／

食べられない？　じゃ……。わたしが……。パクッ。もぐもぐ……。

……あうう……。……。

ふふっ……。クチュクチュ……。肩をトントン……。

ふえ？

ブチュ〜ツ（／／／／

んんっ！？　んんん……。んっ……。クチュクチュ……。んっ……。
コクン……（／／／／

……どじっ？

甘いよう……。

可愛い……。チュッ（／／／／

……（／／／／

女同士でこういふことするの嫌？

頭フルフル。私…。おとこ嫌い…。

わたしのこと好き？

頭コクコク。強い女の人…好き…。

アンタ…黒騎士さんのことも好きだったでしょ？

う、うん…。でも団長はお兄ちゃんのこと…。

そうだね。他に好きな人がいたんだよね。わたしも弟のことが好きなの…。

うううっ…。うううっ…。

泣かないで…。アンタも好き。チュツ（／／／／

うう…（／／／／

わたしはカナコのこと好き。だからカナコもわたしのこと好きでいて欲しい。わたしと一緒にいて欲しい。永遠に…。

うん…。

じゃ契約ね…。

契約？

わたしはアンタの永遠の主であり、アンタは私の永遠のシモベ……。
いい？

……私は永遠の姫様のシモベです。

キリノでいいわ。チュツ（／／／／

あんっ……。キリノさま……。私、身も心も全てキリノさまに捧げます。
キリノさまの永遠のシモベとなります……。

じゃ、わたしはカナコの永遠の主になるわ。ブチュ
……ッ（／／／／

んっ！？ んんんんっ！！ んっ……んう……うう……
うっ……うう……うっ……（／／／／

んうっ……うっ……うう……んっ……ん……うう……。ふう。
契約完了っと（／／／／

あううう……。ああ……。ハアハア……。ハアハア……。

ふふっ。可愛い。じゃ、そろそろ共振……するわね。取り合えず今日
は最初だから軽く……。そうね……。アンタがこれから近衛の新しい団
長としてやって行けるくらいの魔力にまで引き上げるわ。

……。

どうしたの？

団長の代わりなんて私には無理だよ…。

自信を持ちなさい。黒騎士さんも推薦してたじゃない。次の近衛の団長はカナコ…。アンタしかいないって…。

でも私、基本能力なんて並み以下なんだよ？ 特殊能力なしじや…。

…アンタのデビルカードの能力は悪魔と契約して力を得ている訳じゃない。そんなものこの世にいない。本来よりも大幅な能力の引き上げを行うから、そのリバウンドとして寿命という対価が必要になってるだけのことなの。逆にいえば達成可能な素質があるから実現出来ていたともいえる…。アンタのあのテレポート能力は本物の。人の理を超えていた。魔力を上げてテレポート能力を極める訓練を重ねれば、いつかカードに頼らなくても同等のことが出来る日が来ると思う。蓮華さんのように人を超えた領域に到達出来るかも知れないの…。

人を超える？ カードが無ければ何も出来なかった、私か？

そう。アンタは人を超えた存在になれる。今の能力が低いのはカードによって安易に力を手に入れていたからよ。努力することを止めて可能性の芽を摘んでしまっただけ。

頑張ったら出来るのかな…。

素質と意志の力があればね。幸いにもアンタには素質がある。でも意志の力はとても弱い。団長になる為にとか、強さを極めるのが目的なら、多分上手く行かないかもね。直ぐに諦めが芽生え挫折が成長して、妥協という大きな毒花が咲き、心がポキッって折れる。そ

そこは能力が上がるけど、そこで満足してしまうの。

……。

でもね、カナコ。人の域を超える程に魔力を上げれば寿命を延ばすことが出来る。魔力で生命力を活性化させ続けて200年、300年と生きた偉大な魔法使いは実際にいるわ。学校の歴史の教科書に載ってる。もしアンタがそうなればデビルカードで寿命を50年使っただけでも余命なんて気にする必要がなくなるのよ。アンタの命への執着が人では越えられぬ壁を越える力ギになるかも知れない…。負い目を強さに変えるの。だから、わたしとの共振、頑張って。アンタ、わたしの永遠のシモベになるって誓ったんだから死んでは駄目…。許さないから…。

うん…。

じゃ、服を脱いで…。お互いが裸で抱き合うことで、より波紋を感じ取って共振の効果を上げるわ。

白のワンピースのお洋服、脱ぎ脱ぎ（／／／／

……へえ。アンタまだブラ付けてないんだ。

……（／／／／

どうしたの？

こゝ、これも脱ぐのかな…？（／／／／

脱いで…。

うう…。おパンツ脱ぎ脱ぎ（／／／／

カナコ、おパンツを服の中に隠さないで。ちょっと見せて…。

ええっ…。嫌だよ…（／／／／

さっきの契約…。

わ、わかった。おずおず…。…。はい…（／／／／

カナコのおパンツ、脱ぎたてで暖かい…。やわらかい白地になにかアニメキャラがプリントされてるわね。可愛いわ。うさぎさん…かな？

妖精…。魔法使いの女の子のしもべなの…（／／／／

へえ…。今度そのアニメ一緒に観ましょうか…。じゃ、おパンツはもう…。ん…？ あっ…。ここ…。クンカクンカ…。あらあら…。ふふふっ。

…。ああああ（／／／／

感想は言わないであげる。まだわたしが穿いてない新しいおパンツあるから、あとでそれを使いなさい…。これは後で洗っとくわ…（／／／／

…。…つづつ（／／／／

仰向けでソファーに横になって。

うん…。もそもそ…。(///)

じゃ、わたしも…。服を脱ぎ脱ぎ、ブラを脱ぎ脱ぎ、おパンツも脱ぎ脱ぎ(///)

綺麗…。

ふふふっ。ありがと。アンタも綺麗…。抱き合っわね。よいしょっ
と…。抱きっ(///)

キノノさま…。抱きっ(///)

うわっ…。カナコのからだ凄く熱い…(///)

キノノさまの肌、スベスベ…。からだ、すりすり(///)

そ、そう。じ、じゃ、共振始めるわね…。ギュッ(///)

お、お願いします。ギュッ(///)

緊張しないで、心をわたしに預けて…(///)

うん…(///)

カナコの波紋捉えたわ…。特殊能力、白の女皇帝発動！わたしの波紋をカナコと共振するよう来栖家固有波形パターンに偽装…。カナコの波紋と同期開始。 ……パチッ

あっ なっ！ 何これ！ ちょっと！ 嫌だっ！ 嫌！ ああっ…

… ああ …… あんっ …… んん …… ああ …… あっ …… (/ / / /

… カナコ …… 手を。

ああっ …… ああっ …… ああ …… あっ …… キリノさまっ …… ああっ …… あっ ……
… (/ / / /

… ……。

あっ …… あ …… あっ …… 力が抜けて ……。 キリノさま …… 私 …… もう …… あっ
…… っ ……これが共振 …… あっ …… ああ …… あっ …… あん …… っ …… (/ / / /

…… うん。でも、これはまだ普通の共振なの。魔力を少し引き上げてくれる ……。でもこれじゃ駄目なの ……。最初だからそんなにキツイことするつもりはなかったけど、いまからアンタの魔力を大幅に引き上げる共振をやってみるね。白帝城を使ってわたしの魔力を引き上げた方法をヒントにして出来上がった技 ……。

ハアハア ……。 ハアハア ……。 キリノさま …… (/ / / /

特殊能力、白の女皇帝派生能力、チート共振発動！ わたしとカナコとの同期結果をシミュレート。増幅共振結果25・00倍で演算開始。結果算出。架空波紋形成 ……。増幅共振結果生成開始 ……。完了。シナプス変換 ……。完了。出来た ……。データ復元 ……エラーチェック。OK。エラーなし。いくわよカナコ。いまからアンタの頭に特殊なデータレパシーを打ち込むから。最初は違和感あって痛いかも知れないけど、慣れるまで我慢して。

う、うん ……。

シナプス転送開始。 ……パチツ

きゃあああああ！……！！！！！！ 痛いっ！ 痛いよっ！ ああああ……
やめて……。頭が……。

カナコの手。ギョツ。

痛いっ！ 痛い……。ズキズキして痛いよう……。頭がオカシク……。あ
ああっ……。もう……。

カナコ……。チュツ（／／／／

んっ……。ああ……。ああああ……。ハアハア……。ハアハア……。

チュツ（／／／／

どう？

ハアハア……。ふえ……。あ、あれ……。頭の痛みが消えて……。転送、終
わったの？

まだ続いている……。でも、もうカナコの頭の中にわたしのシナプスの
転送経路が出来たから大丈夫。これからは痛みはないわ……。そのか
わり……。チュツ（／／／／

あれ……。あああっ……。ああ……。あんっ……。んん……。ああ……。あ
っ……。／／／／

共振の感覚が増幅されるけど……。チュツ（／／／／

あああああつ……。あつ……。あつ……。うあつ……。

ふふつ。アンタ凄くエツチな顔してる。ホッペをなでなで。……ちよつと休憩しましょうか。

ハアハア……。ハアハア……。ハアハア……。ハアハア……。

大丈夫？ 落ち着いた？

う、うん……。ハアハア……。ハアハア……。

ここまでよく頑張ったわね、ご褒美を上げるわ。魔法粒子結合……パチッ

白い戦闘衣……。

近衛の団長になったら来栖家の戦闘衣じゃなくて、わたしが生み出したこの戦闘衣を身に付けなさい。

わ、わたしが、キリノさまの服を……。

わたしが死なない限り、アンタがわたしのシモベである限り、その衣は不滅なの。どんなことがあってもアンタを守る……。刀や槍や弓、それが例え神具であったとしても、カナコを絶対に傷つけさせやしないわ……。

暖かい……。ああ……。キリノさまと同じ匂いがする……。

着てみて……。

い、いま？ あ…。私のからだ汚れてるから…。シャワーを浴びて、それから…（／／／／

大丈夫…。これは魔法の粒子を結合させて服に見せ掛けるだけだから、汚れが付くなんてこと有り得ない。

で、でも…（／／／／

…ていうか、カナコ汚れてる？ 何が汚いの？

汗とか…涎とか…涙とか…ア、アレとか…（／／／／

ふふっ。アンタのからだ、どこも汚くないよ。汗も。チュッ（／／／／

あんっ…（／／／／

涎も…。チュッ（／／／／

んづうっんづうっ…（／／／／

涙も…。チュッ（／／／／

ああ…（／／／／

これも…。チュッ（／／／／

ひあっ…う…う…う…いや…っ…だっ…（／／／／

ふふっ。全部キスで拭きとっちゃったよ…（／／／／

……(/ / / /

わたしが着せてあげるね。 ……パチッ

ああ…。軽い…。なにも着てないみたい。

似合ってる…。アンタほんと可愛い…。

……(/ / / /

黒騎士さんはもう近衛にいない…。これからはアンタが白騎士となつて近衛を率い、エロス家に、わたしに仕えるの。他はいらない。アンタは来栖家の為にもう十分過ぎる程に働いた。これからの来栖家はアンタなしでやっていけるようにならなくちゃダメ。アンタの力は来栖家の為なんて小さなことに使っちゃダメ。この国の全ての人の幸福の為に使うの。いい？

エロス家の騎士として…。エロス国に私の全てを捧げる…。

そう。でも公務以外では、わたしだけを見てね。チュッ(/ / / /

うん…。チュッ(/ / / /

やっとアンタからキスしてくれた…。嬉しい。チュッ(/ / / /

えへへっ。チュッ(/ / / /

……じゃ、そろそろ再開しよっか。この服は魔法の粒子で出てるから脱ぐときは魔法で解除するの。ちょっとやってみて。

戦闘衣解除。 ……パチッ

ふふっ。

あっ…。服がブレスレットに。

アニメの魔法少女みたいでカッコイイでしょ。

うん！

着るときはなにか可愛い呪文をブレスレットに唱えてね。じゃ、裸になったことだし、共振を続けるわ。頑張つて。これからカナコがその戦闘衣で戦い続けられるように…。増幅共振結果100・00倍…。 ……パチッ

ふあああ…。 あん…。 うあっ…。 あん…。 ああん…。 (////)

苦しい？

うん…。 でも気持ちいい…。 こんなに気持ちいいの生まれて初めて… (////)

そう。 チュッ (////)

ひゃあっ…。 …… ああ…。 あっ…。 (////)

増幅共振結果500・00倍…。 ……パチッ

あああっ！…っ！ あっ！ あああっ！ (////)

わたしもつとこうしていたい？

はいい！

わたしのこと好き？

好きです！

じゃ、死んではダメ。絶対にダメ。もつと生きる為に、共振を受け入れなさい。増幅共振結果1000・000倍……。……パチッ

ひああああ……。ああ……。キリノさま……。待って……。／＼／＼

どうしたの？

これ以上やったら……。／＼／＼

ん？ 限界なの？ これ以上やったらどうなの？

オシッコ漏らしちゃうよ……。／＼／＼

そんなことか……。漏らせばいいじゃん。

だって！ ソファー！ (／＼／＼)

ソファーのことなんて気にしないで。そんなの後で買い換えれば済むことよ。我慢しないでいい。共振効果が薄れるから早く漏らして、わたしとの共振に集中しなさい……。下らないことに気を逸らさないで……。増幅共振結果5000・000倍……。……パチッ

ふあああああつ……。あああつ。ひ、ひやああああ……。うああつ……。ジヨロジヨロジヨロ……。シヨロシヨロシヨロ……。

あら、勢いよく一杯出たわね……。ふふつ。わたしのからだにまで掛かっちゃった……。こんなに我慢してたのか……。可愛そうに。もう全部だした？ スッキリした？ チュツ（／／／／

ごめんなさい……。キリノさま……。ごめんなさい……。うつつ……。ヒクツ……。ヒクツ……。

泣かないで。カナコのだから汚くない。まだ出るんじゃない？ 全部出しちゃおうか……。お腹をなでなで……。ちよっと押し押し……。チュツ（／／／／

シヨロシヨロシヨロ……。ああ……。もう……。私、なにがなんだか……。うつつ……。

ふふつ。もうこれ以上、気持ちよくなるのは駄目？

駄目……。もう私……。駄目……。私、駄目になる……。駄目になっちゃう……。……。

いいよ……。駄目になっても。増幅共振結果限界値。10000・00倍に……。……パチツ

ああああ！……！！……！！。うあああう！！！！。うつつ……。うあつ……。あつ！ あつ！ あつ！ あつ！ あつ！ あつ！ あつ！ ああうつ……。ガクツ……。

失神しちゃったか…。ゴメン…無理させちゃって…。実はアンタに残された時間もう殆どなかったんだ…。今日にも鼓動が鳴り止む寸前だったの。でもこの魔力量ならもうしばらく…。

…すう…すう…。

頑張ったね、カナコ…。ふふっ。アンタ、今、黒騎士さんの魔力を超えたんだよ…。新しい近衛の団長…。可愛い白騎士さん…。わたしの永遠のしもべ…。もっともっと魔力を上げて不死にしてあげるんだから。チュツ（ノノノノ

…：…：鳳凰宮の制圧に成功したっていうから来てみれば…。貴女一体、何をしているのかしら？

うわっ！！ ……つて、なんだ黒猫さんか…。

王子だと思った？

王子はまだ鳳凰宮入りしてない。半年経たなきゃ来る訳ないし。別にやましいことしてる訳じゃ…。共振だよ…。この子の波紋にわたしの波紋を似せて共振させたの。魔力を引き上げようって思って。魔法粒子結合、ローブ生成、バスタオル生成、毛布生成。 ……

パチツ ……パチツ ……パチツ

私はてつきり、貴女が鳳凰宮に入っていきなり不倫してるのかと思っただ。

ちっ、違っよ…。ローブ、バサツ（ノノノノ

そう…。それならいいのだけれど。不倫最速記録のギネス申請は無

しにしくわ…。

次からわたしの部屋に入るときは、ちゃんとノックして返事があったから入ってよね…。いくら黒猫さんでもプライベートなことを覗かれたり口出しされるのは嫌だよ…。オシッコで濡れてない隣のソファ―にカナコを移動させてバスタオルでカナコの足とお股を拭き拭き。毛布掛け掛け。チュツ（／／／／

そうね。確かに失礼だった…。ごめんなさい。でも次からこういうことをするときには、扉に鍵を掛けておくことをオススメするわ。

…… 鳳凰宮つて王に求められたとき妃が拒絶できないよう鍵が付けられてないの（／／／／

ふーん…。それは難儀なことね。

扉に魔法を掛けると警報が鳴るし…。うーん…。ああ、ゴメン、立ち話もなんだし、とにかく座って…。って、ソファ―にはカナコが寝てるか…。奥の部屋のベッドに腰掛けてて。いま手を洗って、お茶入れて来るから。パタパタ…。

テクテク。キヨロキヨロ。ふーん…。テクテク。へーっ…。ベッドにパスン。いい部屋ね。外の眺めもいいし…。

うん！ 鳳凰宮最上階…。王都が一望出来て白帝城もよく見える一番見晴らしのいい部屋なの…。カチャツ。はい、どうぞ、エンゼルドーナツとカルピス。

ありがと、遠慮なく頂くわ。コクコク…。

……この最上階ってまだスペースに余裕があるんだ。わたしだけじゃ勿体ないからメルルさんに明日わたしの部屋の隣へ引っ越して貰うことにしたの。だって1階ってあんまり窓からの景色がよくないし。そもそもハーレム候補の住むフロアじゃないし。

……メルル様1階に住まれてたの？ それは酷いわね……。メイドや近衛の部屋より下の階って……。

でしょ？メルルさんは気にしてない様子だったけど……。でも、わたしはそういうの嫌だから最上階でお隣同士になるの。ていうかさ、同じハーレム候補なんだし、仲良くしたいじゃない？

そうね……。あの子はまだ7才だから内心とても不安がってると思うわ。貴女が話掛けて友達になって……。いえ、どうせなら友達よりもっと親密にスキンシップなんかもして、あの子のお姉さんになってあげたらいいかも知れない。

うん……。あつ、黒猫さんはこの部屋の向かいの部屋ね。メルルさんの向かいはアップリケさんの部屋。黒猫さんのことを話したら吃驚してた。

幼馴染なの。裏表のない素直な凄くいい子よ。コクコク……。

アップリケさん、黒猫さんと暮らせるって嬉しそうだった……。4人で仲良く最上階を使いましょう。今後来る王子のハーレム候補者の方は下の階ってことで。うん。これくらいの特権いいよね。早い者勝ちよ。

……でも鳳凰宮の最上階は全てコーディアの部屋じゃなかった？大丈夫なの？いくら鳳凰宮を制圧したからって部屋を強引に奪う

と他のお姑さん達からの反発があるんじゃない？

コーデリアはもう鳳凰宮のどこにも居ない。だからわたしが貰うの。家具なんかはもう全部換えたわ。実家からレポートしたんだ。コーデリアのは向こうに送った。

向こうって？

避暑地のトラスに王家の離宮があるでしょ？ あそこに移って貰ったの。コーデリア以外の評議員も全員あっちに移った。

……。

どうしたの？

私、貴女が近衛の副長を倒して魔力の偽装を解いたところまでしか知らないのよ。あの後、貴女が巨大な魔力を開放したせいで、中継衛星が落下してTVが映らなくなってしまったじゃない？ だから私からしてみれば、まるで週刊少年ジャンプの……。ああ、漫画の週刊誌なんだけど、その打ち切り展開のような端折り方をされた感じなんだけど……。

そ、そうかな……。

近衛をどうやって降伏させたの？ 鳳凰宮をどうやって制圧したの？ 評議員のお姑さん達をどうやって全員追い出したの？ 黒騎士との戦いやコーデリアとの戦いを観れなかったから全然話が見えて来ないのだけれど……。というかコーデリアってラスボスよね？ そんな重要なシーンを抜かして、どうして貴女のエロシーンをいきなり見せ付けられないきゃならないのかしら。

抜かしてない！ 黒騎士さんともコーデリアとも、ちゃんと対峙したよ？ 黒猫さんが観れなかったってだけじゃん…。ていうか、いきなりってエロって、それも黒猫さんがノックをしなかったからだ…。共振はエロじゃないもん…。さっき言ったじゃん…。

チョコレートケーキをモグモグして口移したり、おパンツをクンカクンカするのがエロじゃないんだ…。

さっ、最初からみてたんだ…（／／／／

声を掛けたんだけど二人とも夢中で全然気付かないのだもの。呆れたわ。

そ、そう…。で、でも、あ、あれもエロじゃないの。ちょっとエツチに見えるかも知れないけど黒猫さんの医療と同じで重要なことなの…。

貴女、カナコさんの命への執着を増そうと思ったのよね…。共振を成功させる為に…。頭ではわかっているのだけど、でもどうしても嫉妬しちゃうの…。ごめんなさい…（／／／／

嫉妬？ もしかして黒猫さんってカナコと同じようなこと、わたしとしたい？（／／／／

そ、そうね…。貴女達が楽しそうにしてるのを見てたら、我慢が…（／／／／

わたし黒猫さんとも凄く共振したいんだ。黒猫さん可愛いし…（／／／／

…………… (/ / / /

…………… (/ / / /

服は脱いだ方がいいの？ (/ / / /

うん。わたしも脱ぐ。魔法粒子結合解除。ローブ、パージ。 ……
パチッ

……………。黒のゴスロリお洋服を脱ぎ脱ぎ (/ / / /

へえ…。大人っぽい下着だね…。おパンツもブラも薄紫。胸はガツ
カリだけど…。

もう…。ブラジャー脱ぎ脱ぎ (/ / / /

でも黒猫さんの胸ってお風呂でも思ったけど、ちっちゃいけど形が
綺麗…。そういうのって凄くエッチだと思う…。チュッ (/ / / /

ちよ、ちよっと…。どこにキスをするのよ！ (/ / / /

ゴメン… (/ / / /

……………。おパンツ脱ぎ脱ぎ (/ / / /

黒猫さん、いま脱いだおパンツを…。

トキトキ…………… (/ / / /

……まあ、それは、いいや……。じゃ、契約のキスから始めるね。

……。ムカツ。

わたしの目をみて……。黒猫さん……。わたしは黒猫さんの永遠の主であり、黒猫さんは……。あつ、ゴメン、その前に、黒猫さんまだエンゼルドーナツ食べてないよね？ ヒョイっと。モグモグ。

ドキドキ……。／／／／

ゴクン。

……。ムカツ。

ふうう。落ち着いた。すごくお腹すいてたんだ。じゃ、改めて……。

ちょっと待ってキリノ。貴女わざと意地悪してるでしょ？

抱きっ！ なんのことかな……。何を期待してたのかな……。チュッ（／／／／

なにして……。それは……。そのっ……。／／／／

まさか、おパンツの匂いを嗅いで欲しかった？ 口移しでドーナツを食べさせて欲しかった？ へーっ。黒猫さんって意外にエッチなんだ。えへへっ……。チュッ（／／／／

もう……。／／／／

ふふっ。さっき覗いたお返し。クンカクンカも、お口でモグモグも

後でね……。ギュツ。わたし、もう我慢出来ないから……。ブチュ……
……ッ(ノノノノ

んん……んっ……。キリノ……誓いの言葉忘れてるっ……。んあ……んんっ……。
あんっ……。

チュツ……。チュツ……。黒猫さんのここやっぱり可愛い。チュツ……。
チュツ……。プリンみたい……。やわらかくて……。チュツ……。甘いの……。
チュツ……。チュツ……。チュツ……(ノノノノ

キスしながら共振を始めちゃ駄目……。キリノ……。ギュツ。ち、ちよ
つと！ ちよ……。やめ……。あん……。そんなところキスしちゃ……。い
やあっ……。っ……。っ……。ああんっ！ あんっ！ あっ！ あっ！ あん
……。んっ……。んっ……。ハアハア……。ハアハア……。んあ……
……。ああ……。いや……。あっ……。あっ……。あっ……。あっ……。っ……。っ……。……(ノノノノノ

キリノ…。もういいでしょ…。ハアハア…。休みましょう…。

ハアハア…。うん。疲れた…。カナコに続いて黒猫さん。ハアハア…。2人連続はキツイ…。

こんなに激しいなんて…。ハアハア…。

何か飲み物。冷蔵庫にポカリスエットがあった筈…。 ……パチッ

ドゴン！！ 冷蔵庫ごとテレポート…。カチャ…。ポカリあるわ。はいキリノ。

ありがと…。プシュ。ゴクゴク…。はあ…。

私も1本貰うわね。プシュ。コクコク…。ふう…。

ゴクゴク…。黒猫さんこういうの始めてだったんだね。

ブフツ！ ゴホツ…ゴホツ…。ゴホツ…ゴホツ…。

経験豊富そうだから後で性交がどういうものか聞こうと思ってたんだけど。男も女も両方未経験だったなんて。

ゴホツ…ゴホツ…。うるさい…（ノノノノ

照れることないよ。わたしも王子とカナコと抱き合った経験しかない…。黒猫さんって夜ムラムラしたときはずっと一人で慰めてたの

？ どうやってた？

もう…。コクコク…。そんなことより貴女のことを話さない。

わ、わたしはムラムラしたらエロゲーで…（／／／／

違う！ 鳳凰宮制圧に至るまでに何があつたかよ（／／／／

そ、そうか…。えへへっ（／／／／

貴女どうやって鳳凰宮から前王の妃達を追放したの？ 脅迫したの？

ちっ、違うよ…。穏便にやったよ？ 鳳凰宮の明け渡しは戦車砲を受けてる最中にわたしが評議会と交渉をして決めたことなの。

……どういうこと？

わたし鳳凰宮の式典を模してあの暑い中を歩いたけど、性約には式典についてなにも書かれてはいない。ただのお披露目パレードに過ぎないから模したところで法的には何の意味もない。でも鳳凰宮の伝統や慣習を重んじる人からすれば式の成功は婚姻の成立と同義なの。コーデリアはその典型的な人。実際、式典を全力で阻止しようと司令室で指揮を取ったわ。わたしはその隙に波紋テレパシーを使って他の議員の切り崩しをして、コーデリア抜きで臨時評議会を開かせ、評議会の解散と鳳凰宮の権限移譲に必要な議案をコッソリ可決させたって訳。

呆れたわ…。貴女、純白のドレスを着ていながらそんな腹黒いことしていたの？ 私はただあなたが王子と一緒にになりたい一心で鳳凰宮入りの式典を強行してるんだと思ってたのに…。

わたしは王子が認めてくれたらそれでいいの。式に拘ってた訳じゃない。ていうか暑いし。日焼けしちゃうし。観衆は誰もいないし。魔法の実践演習をしようにも戦車ばかりで肝心の近衛は出て来ないし。途中で面倒になってマネキンを使おうとしたんだけど、核攻撃で壊されちゃって、しょうがないからまた歩いて…。

えっ？ マネキンを使ったのは貴女の巨大な魔力が核攻撃を察知したからでしょ？

そ、それも違うよ…。戦車をのり越えるのが面倒だから、そこから先はマネキンにやらせようとしただけなの。装甲が熱そうだったし。手を付いたら火傷しちゃうじゃん。トラップを予知したって話を後で聞いて吃驚しちゃった。未来のことなんて分かる訳ないじゃん…。

そうなの…。TVで解説の人がえらく自信ありげに貴女に予知能力があると断言するから信じ込んでしまっていたわ…。

解説…。サキエルさんか…。あのひと、いつてることもやってることも全部データラメだから真に受けない方がいいよ。TVでもウケたくて適当なことを喋っていただけだと思う。蓮華さんからサキエルさんとは関わらない方がいいよって真顔で注意されてたけど、今ならその意味が分かるような気がする…。

つまり結果的に、たまたま上手くいったっただけなの？

うん。

でも評議員を懐柔出来たのはたまたまじゃないわよね？ 脅迫もなしに貴女に従うなんて、一体なにをしたのかしら…。まさか洗脳し

たの？

お金だよ。ひとり1000億ゴールドの和解金とトラスの離宮の譲渡で、鳳凰宮から出て行くことに合意してくれたの。なんでもそこで評議員の全員が集まってハーレム作るんだってさ。逆ハーレムっていうの？　なんで女性が主の場合、逆って付くのかよく分からなけれど。あの人達、今、奴隷市場に行ってるの。可愛い男の子を買いんだとか何とか…。7人で7000億ゴールドでしょ？　凄いい逆ハーレムが出来上がるんじゃないかな。

7000億ゴールド！？　貴女、そんな莫大なお金が用意出来ると思ってるの？　この国がいまだだけの財政危機に直面してるか…。王都の復興費も…。

それは大丈夫。鳳凰宮の実権は全てわたしが掌握したから徹底的にこの国の財政改革をするわ。7000億ゴールドなんて無駄の削減と予算の組み替えで余裕だよ。埋蔵金もあるんじゃないかな。全部で40兆ゴールドくらい捻出出来ると思うからそれを今回の王都復興費に充てて、その余りを…。

なっ、なんてアバウトなの。そんなにお金がある訳ないじゃない。一体どこから40兆ゴールドなんて数字が出てきたのかしら。国家予算をドンブリ勘定してはいけないわ。鳳凰宮の実権を握ったんだからもっと現実的になって…。貴女が夢みたいなことを言ったらこの国は…。

40兆ゴールドあるよ…。わたし、これでもちゃんとTV観てるんだからね。政治討論で小沢さんが…。

こっ、個人名を出さないで。そ、そうね…。あ、あるのかも知れな

い。40兆ゴールド。う、うん。何もしないで無いと言い切ることは出来ないわ。だ、だからこの話は、内政の話はもうやめましょう。えーっ。残念だな…。わたし他にも凄い政策を考えてたのに…。たとえば金利ゼロの国債を発行して、それを全額中央銀行総裁の白川さんに強制的に買い取らせるの。そうすれば好きだけお札が刷れるでしょ？ 凄くない？ もうこの国はお金の心配をすることがなくなるの。これは亀井さんの…。

ゴホッ、ゴホッ…。

ど、どうしたの？

いつてないから。そんな無茶な政策、亀井さんいつてないから。

そうだったかしら…。

ハア…。貴女には早急に財政学とマクロ経済学の講義をケルトから受けて考えを正して貰わないと…。しかし7000億ゴールドは貴女が議員達に約束をしまった以上、もう撤回することは出来ない…。ハア…。逆ハーレム…。なんて羨ましい…。いえ、破廉恥な…。

彼女達、前王が幽閉されてから、かなり男への欲求不満が溜まっていたみたい。逆ハーレム構想をわたしに語るときの波紋テレパシーの勢いが半端なかったよ…。

貴女の提案は願ったり叶ったりってところだったのかも知れないわね。離婚出来ないから貴女にそのしがらみを解いて貰いたかったのかも。

うん…。結局あの人たちを鳳凰宮に捕らえていたのは前王ケインへの愛じゃなくて、誰が決めたのかも分からない規則や伝統でしかなかったんだよ。彼女達は束縛から開放するわたしを歓迎してくれた。煉獄の塔で前王と一緒にってコースも提案したけど、それはいいわ。wwwwって、みんな苦笑してた…。わたしは将来どうなるんだろう。王子への愛を無くしたらあんな感じになるんだろうけど。出来れば…永遠に…。ハア…。幻想なのかな…。甘いのかな…。

それは貴女と王子の日々の暮らしの積み重ねの上に出るものなの。未来のことなんて分かる訳ないんだから、先の心配なんてするより、今なにをするかよ。王子との日々を大切にしてくね…。

うん…。

…でもコーデリアはどうなの？ 他の人は自由を求めたでしょうけど、コーデリアは鳳凰宮を出て行くことに同意しなかったでしょう？

始めは嫌がってたけど、でも評議会の解散でコーデリアは議員を失職して全ての権限を失っていたし。わたしは全権委任状をコーデリア以外の全ての議員から貰っていたし。彼女の頼みの綱である近衛はわたしに降伏していたし。他の騎士団も彼女を見限ってわたしに服従すると言って来ていたし。…アイツ、しばらく喚き散らしてたけど、最後には泣き崩れて、出て行くことに同意するって…。

それで見逃したの？ ちゃんと言っとくべきだったわ。コーデリアは…

わかってる。王子や蓮華さんから聞いた…。わたしのお母さんを性約監査部ってところと一緒になって拷問で責め殺したのはアイツだ。

罵声を浴びせ殺してやりたかったけど、他の議員達が駄目だった…。鳳凰宮から出て行く条件の中に彼女を許すって条項を含ませていたの。全員…。始めはわたし、そんなの拒否したけど、議員達からコーデリアの話聞いてると…。

……。

あの人、北域の名門貴族の末娘で10年前は活発で明るく優しいお姫様だったそうなの。貴族だったことを鼻に掛けることもなく、誰にでも同じように微笑みながら接して…。当時、最年少の10才でハーレム候補になったときはそんな子だった。他の候補の人からも可愛がられた。でも彼女が抱いていた理想と現実のギャップは大きかったんだね。前王のカインは…。わたしの父は、酷い性格の最低男で、だから愛も理想も直ぐに冷めて、彼女は洗脳魔法にのめり込んでしまった。その道のプロである魔法使いからの洗脳魔法だけでは足りなくなって、もっと危険で強力な洗脳魔法を自分で自分に何度も掛けるようになった。その結果、彼女の人格や精神は醜く不安定に歪んでしまった…。現実と妄想が区別出来なくなって、わたしの母を責め殺した時には発狂寸前だったそうなの。王が煉獄の塔に幽閉されてからは自殺未遂を繰り返していたんだって…。

そう…。

コーデリアを許すつもりはないけど、わたしがお母さんの恨みを晴らしたら、多分、弟のお母様方と血みどろの殺し合いになる…。お母さんには申し訳ないけど、わたしそんなの出来ない。だって弟と一緒にいられなくなるじゃん…。最後には弟とも殺し合いになるかも知れないじゃん…。嫌だよそんなの。だから、もういいの。お母さんも許してくれると思う。勝手な思い込みかも知れないけど…。

……貴女がそう思うなら、そんなんだと思うわ。自分のことよ。死んだお母さんに引きずられて生きては貴女の人生でなくなる。自分の思った通り、悔いのないように生きなさい。

うん…。

よくここまで成長したわ…。貴女、少し前まではあんなに臆病な女の子だったのに…。

えへへっ…。

魔力も今や王子を超えてルーン最大になった。

おっ、大きいだけだよ…。

謙遜しない。黒騎士も倒したんでしょ？ 噂によれば圧勝だったそうじゃないの。黒騎士が貴女にひざまずいたって…。鬼のような戦いっぷりだったって…。あの子、蓮華と同じで本物の天才なの。貴女にどれだけの魔力があっても勝てる相手ではないと心配していたけど、彼女を倒したのなら貴女の力は本物よ。胸を張っていいわ。

あれは…。そのう…。

ん？

えっと…。レポートで黒騎士のお兄さん拉致って盾にして戦ったんだよ…。黒騎士さん半泣きになってわたしに土下座したんだ。それが噂になってるんだと思う…。

……。

あっ！ ぐっ、誤解しないで！ 黒騎士さんと戦う前、カナコから黒騎士さんがお兄さんにベタ惚れしてて、でもお兄さんは今回の失敗で腹を切ることになりそうだって聞かされて、わたし黒騎士さんにお兄さん助けるよって言ったの。そしたらスンナリと降伏してくれたの…。

貴女は黒騎士と戦ったの？ 戦ってないの？

うん、それが…。降伏の後ね。黒騎士さんから相談を受けたの。ほら…わたし弟とアレ…でしょ？ お兄さんと一緒になるにはどうしたらいいかなって…。あの子、切実だったから、それだったら告白すればって言ったら、顔を真っ赤にして目をウルウルさせて、兄は頑固だから受け入れないっていうのよ。だから、じゃ、わたしがアントのお兄さんを盾に戦うから、そのときにお兄さんへ泣きながら告白したら効果的じゃないかって。お兄さんのプライドを引き裂いたところで妹のアントが献身的な姿をみせたら簡単に落ちるよ、みたいな…。

……。

でもあのお兄さん凄く頑固で上手く行かなかつたんだ…。だからさ、わたしがもう鳳凰宮の実権を握ってることを告げて、二人を赤木家から離籍させて貴族の称号も剥奪して軍からも追放して無一文で二人でやって行かせることにさせたのよ…。平民に貶められる屈辱の中、二人で死ぬまで苦しみ続ける！ 自害したら赤木家を潰すぞっ！ ぐはははっ！ みたいな。これなら狭い部屋で二人、身を寄せ合って暮らすことになるじゃない？ そうなったら。ねえ。お兄さんも本心では妹さんのこと好きみたいだし。ふふふっ。てかさっそく今朝、黒騎士さんから電話があつたんだよ、結ばれましたって。

へへへっ。早いよね…。うふふっ。黒騎士さん凄く感謝してお礼がしたいって言うから、時給780ゴールドのパートタイムで蓮華さんの手伝いをさせることにしたんだ。蓮華さんお庭番衆が足りないって嘆いていたし、わたし蓮華さんに借りがあるし、黒騎士さんもお兄さんと長く離れるの嫌だから夕方定時に帰れるパートの方がいいって…。お兄さんも夕方定刻で終われる戦車工場の勤務を選んだっていうし、お熱いんだ。

ハア…。それでカナコさんが次の近衛の団長に…？

そうなの。カナコ以外にも近衛全員の波紋を共振させて能力を引き上げて鍛えないとね…。白帝城を守るのがお庭番衆、鳳凰宮を守るのが近衛魔法騎士団。女性しか入れない鳳凰宮の警護だから全員女の子の騎士団なの。みんな幼くて可愛い子ばかりなんだ

貴女、極度のブラコンだと思ってたけど極度のシスコンでもあるのね…。

うん！ 妹も大好き！ 王子って女の子みたいじゃん？ だからアイツとずっと抱き合ってたらなんか女の子と抱き合ってるみたいでさ…。それが可愛くて気持ちよくて。えへへっ。だから女の子もいかなかった。わたしブラコンだけでなくシスコンにもなっちゃったみたい。カナコやアンタの可愛い姿を見たら、わたし我慢出来なくなる…。チュッ（／／／／

もう…。あんなにやったのに、この子は…。チュッ（／／／／

えへへへ。カナコはまだ起きてないみたいだし。もっとなんか共振しよっ？（／／／／

王子が王子の理想のハーレムを築いていく側で、貴女は貴女の理想のハーレムを築いていくつもりなのかしら。

女の子限定のね。チュッ（／／／／

女の子限定？ 貴女のハーレムの中心には王子がいるじゃない。貴女、王子が一番好きなんでしょ？ チュッ（／／／／

そ、そんなの比べられないよ。みんな同じくらい好きだから…。

……キス忘れてるわよ。チュッ（／／／／

……う、うん。チュッ（／／／／

ふふふっ……。貴女、すぐ顔に出るんだから……。貴女は貴女のハーレムの女の子悲しませたら駄目よ。もっと上手く嘘を付けるようにならないと……。チュッ（／／／／

黒猫さんゴメンね。チュッ（／／／／

ん……。チュッ（／／／／

お詫びに……。チュッ……。チュッ……。

ひゃん……。も、もうっ！ 貴女、ど、どこにキスしてるのよっ（／／／／

チュッ……。チュッ……。

や、やめなさいっ！（／／／／

しもべが主に口答えしちゃ駄目だよ…。チュツ…。チュツ…。

だってっ！ あん、もう…（／／／／

ハーレムの女の子はご主人様の求めにもなんでも従わないと、ね？
わたしは黒猫さんのここにキスしたいの…。チュツ…。チュツ…。

ああ…いや…あ…あっ…あぁ…（／／／／

嫌なの？

頭フルフル（／／／／

ちゃんと答えなさい。チュツ…。チュツ…。

ふぁ…あぁ…あっ…。わっ、私はキリノ様のしもべです…。あ
あ…あああつ。うぁ…。キ、キリノ様がしてくれること…。あうう
…。何でも嬉しいです…。あうっ…はあっ…あっ…っ…（／／／／
そう…。ふふっ、これからは今みたいに素直になりなさい。てっ…、
うわああっ…（／／／／

ハアハア…。ハアハア…。

あ、あれ。黒猫さんどうしたの。目が、目が怖いよ黒猫さん…。怒
った？ あははは…。ご、ごめんね、ちょっと調子に乗りすぎちゃ
った…。汗汗…。

私はしもべだからご主人様にご奉仕する側なの。ハアハア…。だか

ら私も同じこと貴女にしてあげるわ。ハアハア…。

わ、わたしはいいって、キヤツ！（／／／／

チュツ…。チュツ…。んっ？ 貴女…。

うう…。うん…。だからもう黒猫さん、止めて…。わたし今日そこ
汚い…（／／／／

…。綺麗にしてあげる…。チュツ…。チュツ…。チュツ…。

ちよ、ちよっと、嫌、嫌、嫌、嫌だあ…。ご、ごめんなさい、黒猫
さん…。謝るから…もう…もう、いやあん…あっ…いやだあ…あ
っ…うあっ…あっ…ふあんっ…（／／／／

奥も…。ここを…。こうして…ふふっ…。チュツ…。チュツ…。チ
ュツ…。

いやああっ…いやっ…いやああっ…いあっ…あっ…あっ…あ
っ…あっ…あっ…（／／／／

キリノ…。チュツ（／／／／

ん…。ああ…。黒猫さん…。ここは…。そうか、わたしの部屋…。

気が付いた？ 水…。飲んで…。

ありがとう…。ゴクゴク…。ふう…。

キリノ…。大丈夫？ ごめんなさい…。私、興奮し過ぎて…（／／／

う、うん…。それより黒猫さんこそ大丈夫？

なにが？

だ、だって、その、わ、わたしの汚い…（／／／／

大丈夫、前もいったけど貴女のことならどんなことでも汚いと思えないの…。

気持ちの問題じゃなくて！

ふふつ。ごめん。実は魔法で綺麗にしてからキスしたただけなの。心配しないで。チュツ（／／／／

そ、そっか…（／／／／

気持ちよかった？ チュツ（／／／／

うん…。凄く興奮した…（／／／／

嬉しい…。でも貴女、とても疲れた顔をしているわよ。

カナコの後にアンタと2回もやったんだもん。凄く疲れた…。

貴女のハーレムには私の他に、近衛の女の子が99人。あと164日すれば王子も鳳凰宮入りして貴女を求めるに来るわ…。貴女のからだ持つのかしらね。

一晩寝れば大丈夫だよ。今日はあと1回くらいが限界…。

まっ、まだ出来るの…？ 元気ね…（／／／／

毎日倒れるまで共振しまくるわ…。カナコとはネットリ…。ジックリ…。重点的に共振して…。黒猫さんとは他の子にはまだ出来ない共振を試しながらやって…。あの子とは…。そうね…。4〜5人ずつこの部屋に呼んで同時にやってみようかな。共振をやり易い子とやり難い子がいるだろうから、それを早く見極めて難しい子とは丁寧に一杯してあげないと…。

共振って言葉がちょっと卑猥な感じに聞こえるわ…（／／／／

そ、そんなことないよ…。あはははっ（／／／／

で、明日は誰とするの？

明日？ 明日は勿論メルルちゃんだよ。とうとうあの天使ちゃん

がわたしと…。によへへっ…。メルルちゃん魔法使いじゃないから共振できないけど、一緒にお風呂入って、キスして、からだの洗いっこして、キスして、マッサージしてあげて、キスして、パジャマ着せて、キスして、一緒にご飯食べて、キスして、屋上に行って、キスして、星空の下2人で歌をうたって、キスして、部屋に戻って、キスして、ベッドで裸で抱き合って、キスして、朝までグッスリ寝るの。

貴女、鼻血出てるわよ…。

はわわわっ。頭を上げて首をトントン。

…貴女、あんな小さな子までハーレムに引き込むつもりなの…？
メルル様を妹のように接してあげてとは言ったけど、裸で抱き合ったり、キスをしたりするのは妹とのスキンシップの範疇を超えてるんじゃないかしら。貴女、メルル様は王子のハーレム候補でまだ7才だっただけで忘れてない？

裸で抱き合うのもキスもスキンシップだよ…。わたしメルルちゃんのお姉ちゃんになるの。

…メルル様に貴女が変なことをしないよう明日はこの部屋へ監視しに来ます。

えーっ、嫌だ…。明日はメルルちゃんと2人つきりで…。

駄目！

ふふっ。無理しちゃって…。黒猫さん本当は明日はわたしやメルルちゃんのことなんて構ってられないんじゃない？

ど、どうして？

知ってるよ。黒猫さんがアップリケさんを大好きだったこと。小さい頃からズ〜〜ツと好きだったんだって？

なっ、なっ、なっ、なにを言うのよっ！（／／／／

黒猫さん直ぐ顔に出るんだから…。ハーレムのご主人さまを悲しませたら駄目なんだよ？ もっと上手く嘘を付けるようにならないと…。チュツ（／／／／

ど、ど、ど、どうして…。誰にも打ち明けたこともないのに、なんで…（／／／／

えへへっ。蓮華さんから聞いたの。

蓮華？ あの子、私の頭を覗いたのね！ ゆっ、許せないっ！

蓮華さんは黒猫さんに特殊能力は使わないと思う。黒猫さんこんなに分かり易いんだもの、普通にバレちゃうって…。アップリケさんも気付いてると思うよ？

わわわわっ…。ガタガタ…ブルブル…（／／／／

大丈夫。アップリケさんが黒猫さんのことを話すとき顔を赤らめた。多分、アップリケさんも黒猫さんのこと好きなんだと思う。

そ、それ…。本当？（／／／／

うん。だから明日はわたしがメルルちゃんと仲良く一緒にいるから、
アンタはアツプリケさんを部屋に呼んで、仲良く、ね？

……（／／／／

黒猫さん、わたしを信じて。キスも裸で抱き合うのもスキンシップ
なんだよ。

……そ、そうかしら？

そうよ。

……そ、そうね。そうよね。キスなんて外国では挨拶だというし、
裸で抱き合うのも……。裸で抱き合う……。裸……。そう。裸族。外国に
は裸族というのが未開の地にはいるそうだから、これもただのハグ。
挨拶といえるかも知れないわね。スキンシップだわ。ごめんなさい。

よかった……。

私もう帰らないと。これから引越しの準備しなきゃ。電化製品はま
だまだ使えるから今のをレポートするだけで大丈夫だけど、家具
が……。突然ベッドが今朝壊れてしまって……。しょうがないから買い
替えることにするわ。大きくてフカフカのを高島屋の外商さんに注
文してつと……。枕も二つ……。ダメ……。これじゃアレだと思われる……。
大きくて長いのを……。ああ、キリノ、ではまた明日ね……。

だっ、駄目だよ……。引越したら後で手伝うから。帰るのちよつと待
って。お願いっ。ベッドは天蓋付きの凄く可愛いのを白帝城から貰
ってくるからさ……。

天蓋付き…。

う、うん。女の子の憧れだよ？ つい横になりたくなるような、そんなベッド。大きいしフカフカ。白帝城の使われてない部屋の中にいくつかあるから、それ王子に電話して送って貰うから。

……それは有難いけど。貴女、もしかして私になにか頼みごとでもあるの？

頼みってというか、いっぱい汗をかいたじゃない？ だからお風呂に一緒に入るうかなって。カナコも起こしてさ。この階に奥の角の部屋にガラス張りの大浴場があるんだ。3人で入りたくなって…。

ありがとうキリノ。嬉しい…。じゃ、お風呂、遠慮なく頂こうかしら。

う、うん…。で、でね…。

ん？

黒猫さんには。えへっ。大浴場でカナコの健康診断を…。猫猫診療室でお尻の診断をやって欲しいなって…。わたし見るから。

……。

へっ、へんな意味じゃないの。あの子、効果の代償に寿命を縮める魔法を使ってる…。その影響でからだに何か病気が発生していたら大変だから調べて欲しいの。

健康診断はともかく、貴女が見てる必要がどこに…。

カナコが不安になるでしょ！ わたしが付いててあげるのっ！

そ、そう。それならいいけど。カナコさん大丈夫だと思うわよ？
寿命を縮めるのが成約の条件だとするなら、寿命〓死ぬまでに打ち
鳴らす鼓動数の筈だから。

わたしも多分そうだと思うけど…。

医学とは別の次元の話だね。魔法学的に言わせて貰えば、ここまで
魔力が上がったカナコさんには無意識下でも魔法結果が反映され続
ける。鼓動が鼓動を生み出し続けるから、そうそう命が尽きること
は…。

心配なの…。予想外のことって、起きるから。

……わかったわ。じゃ、これからレポートで医務室から潤滑液と
弛緩剤を取ってくる。少し待ってて。

ああ、それはもう用意してある。カナコが怖がって暴れないように
媚薬入りの潤滑液を特注しといたの。肌から直接浸透するタイプ。
これなら弛緩剤は要らないよ。ていうか、わたしのとき使わなかつ
たじゃん。

……媚薬？

うん。そこにわたしの共振も加えるから大丈夫だよ。力なんて抜け
まくりで入りようもない。

ちよ、ちよっと待ちなさい、そんなの使ったら、わたしもシッポか

ら媚薬を吸収して…。

そうだね。黒猫さんも大変なことになるね。貴女が医療ミスをしな
いようにわたしも全力でフォローする。

貴女、医療をなんだと…。

大丈夫だよ黒猫さん。もうそんな建前は必要ない。だってこの章の
話はここでおしまい。名前すら知らない他人が勝手に定めた表現規
制や年齢規制なんて、これから先は気にしなくていいの。わたしは
規範に心を奪われた人達の傲慢さや残酷さを見てきた。規範に縛ら
れて心を見失った人達の悲惨な末路も見てきた。わたしはそうはな
らない。わたしの心はわたしのもの。どうするかはわたしが決める。
わたしはわたしを束縛しようとする全てに抗う。

……貴女が何をいつてるのかよく分からないのだけど。つまりどう
いうことなのかしら。この話がここで終わるならもう格好をつけな
いで、貴女の本心を言っごらんさい。自分で自分をごまかして
は駄目。

カナコにはわたしと同じ経験をして欲しい…。アンタ達が乱れる姿
がみたい…。わたしもそこに加わりたい…。(/ / / /

それが貴女の望みなのね？(/ / / /

うん…。カナコが心配なのは本当だけど、わたしちょっとエッチな
の…(/ / / /

なら始めからそういえばいいの。私達は貴女のしもべ…。貴女は自
分のしたいことをなんでも私達に命じて…。貴女の望みは私達しも

べの望み。貴女の心が満足すれば私達しもべの心も満たされる。だから心を偽らないでありのままの貴女を見せて…。

ごめん…。黒猫さん。わたし…。

言葉の後は素直な気持ち、これで伝えて…。チュツ（／／／／

あんっ…。黒猫さん。チュツ（／／／／

キリノ好きよ…。チュツ（／／／／

わたしも、わたしも、黒猫さん好き。カナコも好き。2人とも大好きなの…。大好きなの…。早くエッチしたい。もう我慢できないよ。う…。チュツ（／／／／

じゃ、お風呂行きましょうか。

うん！ カナコ起こしてくる。バタバタ…。

ハア…。山猫姉さん…。私、あんなにエッチな娘とやっていく自信がないよ…。ああっ…。もっと、もっと、私、エッチにならなくちゃ…（／／／／

重要なお知らせ：

キリノ様の鳳凰宮制圧によって、長きに渡り封印されてきた鳳凰宮地下最下層・エロス王家専用魔法図書室が利用可能となりました。早速ご依頼を受けていた件を調べてみたのですが、王子のご推察通り、エロス帝国時代において近親婚はごく一般的に行われておりました。どうやら血が濃くなることを抑える近親婚魔法なるものが存在していたようです。性交時に発動することで近親婚のリスクが一般婚と同程度となる遺伝子組み換え魔法です。現在、魔法科学技術省がこの魔法の復活に全力を挙げております。王子の鳳凰宮入りの初夜までには必ず完成させますのでご安心下さい。

評価：

キリノさまの淫乱値を星5としましたが、キリノさまが好意を持つ男性の対象は王子のみで、他には女性にしか興味を持たれておりませんのでハーレム的には何の問題もございません。キリノさまの性格はやや頑固で少し扱い辛いところがございますが、求愛値が非常に高く王子にデレデレの状態ですので、現時点ではこちらも全く問題がないように思われます。求愛値が下がるとツンツンされますのでお気を付け下さい。ただ、実の姉弟の関係がベースにございますので、王子とキリノさまの仲がいくら険悪になられたとしても、求愛値と寵愛値が修復不可能な星なし状態になることはありません。最悪でも星3が下限と予想されますので安心してキリノさまにお甘え下さい。求愛値をわざと下げキリノさまをツンツンさせてそのギャップを楽しむのも刺激があって面白いかも知れません。

鳳凰宮評議会による候補者の承認議決は廃止となり、総合評価も今後は私が参考意見として出すこととなりました。性格以外に関しては、教養・身体能力・健康状態ともに申し分なく、洗脳値も低く、キリノさまのステータスはハーレム候補として理想的です。王子へ

の求愛値と王子の寵愛値も高く、近親婚魔法により近親婚のリスクもなくなる為、キリノさまのハーレム総合評価を星5とさせて頂きました。

追伸：

キリノ様による鳳凰宮制圧で国権の全ては王子へと一元化されました。エロスは名実共に王子が掌握したのです。これからは内ではなく外の世界へ目を向けようではありませんか。私の夢、いえルーンの民の夢でもあるエロスによる世界統治。キリノ様の白の女皇帝の能力を使えば今すぐにも実現可能な筈です。

王子は私の世界征服案をこれまで拒絶され続けましたが、今度こそ受け入れて下さるとケルトは信じております。世界を支配する！エロス帝国の復活を望む！玉座でご宣言下さい。それで世界は救われるのです。エロスだけが平和ならそれで良いとする独善的で無責任な考えはもうお捨て下さい。

蓮華さま、サキエルさま、キリノさま。3人とも私の案に賛同してくれました。王子が同意するなら協力をすると約束して下さいました。明日、最新の資料を持って登城します。外の世界がどれだけ悪意に満ちているのか王子に直接ご説明致します。事態は王子が考えている以上に深刻で切迫しているのです。手遅れになる前に、なにとぞ、なにとぞ、ご英断を！

王子。ほらっ、売店でアイス買って来ましたよ。

蓮華、ご苦労であつたな。

いやー。人がいっぱいで大変でしたよ。あつ、お隣の席、失礼します。ポスン。ふう…。まだ始まってないようですね。

うむっ。競りの開始まであと5分といったところか。

ギリギリセーフでしたか。ゴソゴソ…。はい王子、どうぞ。

これが噂のアイスモナカであるか…。どれどれ、ビリビリ。ふむっ、大きなモナカが冷えておるのう。どれどれ。パクッ…。モグモグ。

じゃ、私も。ゴソゴソ…。ビリビリ。パクッ…。モグモグ。

ほう、モナカの中は餡子ではなくアイス…。うっ！？ 脳を麻痺させる程に甘いバニラアイスクリームと塩辛く歯ごたえのあるモナカの皮が口の中で絡み合ってくるのう。なんじゃこれは…。モグモグ。や、やめられぬ…。モグモグ。

美味しいですか？ モグモグ。

うむっ！ モグモグ。

そうですね。それはよかったです。

余は満足じゃぞ！ モグモグ。

あはははっ。王子とのデートは安くついていいわ。

むむっ。蓮華よ。

はい？ モグモグ。

これはデートなどというお気軽なものではないぞ。モグモグ。

はあ…。モグモグ。

余の名誉を守る為の重要ミッションと考えよ。モグモグ。王都の復興で忙しいであるっお前をわざわざ余の参謀として同行させるのだ。それなりの理由があると思え。モグモグ。

奴隷買いがどうして重要ミッションなのですか？ モグモグ。チラッ。

モジモジ（／／／／

王子、その理由とやらをお聞かせ願いたいのですが。

う、うむっ…（／／／／

名誉回復と仰るからには、奴隷をハーレム候補にする訳でもないの
でしよっ？

そっ、そちだから告白するのであるぞ、余はな…。実は…（／／／／

はい。

駄目じゃ、あのような恥ずかしきこと余の口からは…(///)

言えないのですか？

いや余も男である。ここは勇気を出して言わねばならぬ(///)

はい。

しかし男であるからこそ言えぬこともあるのだ…(///)

イラッ。

言えぬ、だが余は…。しかし余は…(///)

ああっ、もう面倒臭いなあ！ 魔法発動！ 特殊能力、思考遊戯…。

……パチッ

ああっ…。こ、こら、余の頭を覗くでないぞ…(///)

んっ！？

……ううっ(///)

下らない…。こんなことの為に私を誘ったのですか？

こんなこととはなんじゃ…。余はこの前、共振の快樂攻めでキリノに散々虐め抜かれたのじゃ。余とキリノは互いに魔力を引き上げ合
い力が互角となって、もうヤツに対抗する為には性技のレベルアッ

プをする他にない。力が同じであるなら技が夜の戦いの雌雄を決する。余はもうあのような無様な醜態、姉といえど絶対に晒す訳にはいかん。男の沽券に係わるのじゃ（／／／／

それで夜の練習相手に奴隷を買おうと思ったが、でも一人でここに来るのが心細かったので私にお共させたという訳ですね。

いや、本当はそちに練習を頼みたいのだがな…（／／／／

ええっ、私とですか？（／／／／

そちら余が練習中に理性が飛んでそのまま暴走して襲い掛かっても簡単に止めることが出来るであろう？ それにな、そちら余は安心して身を委ねることが出来る（／／／／

あのっ、私、夫がおりますので（／／／／

うむ…。だから人妻の技を余にだな…（／／／／

はあっ？ 何を仰ってるんですか王子？（／／／／

怒るな蓮華、本当にアレをやるのではないのだ。練習なのだ。不倫にはならん…と思うが、嫌か？（／／／／

当たり前でしょ。せ〜〜ったいに、いや、で、すっ！（／／／／

であろう？ そちがそう断るであろうことは、余にはお見通しであった。だから、そのう…。余には、せつ、性奴がな…。必要なので…あるぞ…（／／／／

そういうことなら私じゃなくてもよいではないですか。サキエル卿とでは駄目だったのですか？

サキエルとだと？ 余はゲイではないわ。

そうではなく、ここに一緒に来るお相手としてですよ。

ふん。アヤツに何かをさせて上手くいったことがあったか？

うん…。ないですね…。って、わわっ、アイスモナカが…。モグモグ。

というかアヤツは今日大事な用があるとかで休みを取っておるのだ。まったく使えぬ奴よ…。って、ああっ、モナカからバニラアイスが解けて垂れて…。ペロペロ。モグモグ。

そう言っつてクビにはしないのだから。モグモグ。

腕は確かなのだ。モグモグ。やる気になったら出来る奴なのであるぞ…。モグモグ。

王子はこのアイスモナカのように甘いですね…。でも、まあ、王子がそう望まれるならいいですよ。蓮華も今日一日、王子にお付き合います。

蓮華はいつも余に優しく忠実であるのう。感謝するぞ。チュッ（／／／

あっ、もう…（／／／／

わはははっ (/ / / /

10歳で性奴を持ちたがり、人妻に不倫を持ちかけ、そして躊躇なくホッペにキスをするなんて…。蓮華は王子の行く末が心配になります… (/ / / /

わはははっ (/ / / /

もっ…。ほんとにエッチなんだから。キョロキョロ…。王子。ちょっと顔を近くに…。

ん？ なんじゃ？

お口の周りにアイスが…。チュツ。ペロペロ… (/ / / /

… (/ / / /

練習のお相手が出来ず申し訳ございません。蓮華は夫を裏切れません。これでお許し下さい… (/ / / /

う、うむ…。あ、あのな蓮華よ… (/ / / /

は、はい… (/ / / /

そちの口元もアイスが付いておるぞ… (/ / / /

王子… (/ / / /

チュツ。ペロペロ…。蓮華は甘いのう。ペロペロ…。チュツ、チュツ (/ / / /

لست ...) / / /

クチュ…ん…っ…。クチュ…んんっ…。王子…（／／／／

ん…っ…。なんじゃ蓮華…。チュツ…（／／／／

あんっ…。もうキスはお止め下さい…。あうっ…クチュ…ん…っ…
（／／／／

駄目じゃ…。チュツ。そちをまだ食し終えておらぬ…。蓮華の唾液
は蜜のように甘く滑らかである…。チュツ（／／／／

それは…。クチュ…ん…っ…。それは、さっきアイスモナカを食べ
たばかりだからですっ（／／／／

いや、そちはアイスモナカより、ず…っつと、ず…っつと、甘いぞ…。
チュツ。余は蓮華の全てを味わい尽くしたいのだ…。チュツ…（／
／／／

ああん。もうっ…。王子…。こんなキス、何処で覚えたんですか…。
あんっ、ん…。んんっ…。もういい加減に…。ん…あっ…。王子…
っ…。せっ、競りが始まってしまいますよ…。あん…。んっ…ん
…王子…。蓮華は…んっ…。蓮華は…（／／／／

…ん？ 競りとな？ あっ！ そっ、そうであった！ ガバツ。
いかんいかん。すっかり忘れておったわ。こんなことをしておる場
合ではないわ。

…ムッ。

うわわっ、周りの席の者たちがこちらとは不自然に180度逆の方を向いておる。ううっ…。見ぬ振りをしてくれておるのだろうが、この小さな気配りが逆に恥ずかしいのう蓮華よ…。んっ？ 蓮華…？

……ムカツ。

ど、ど、どうしたのだ蓮華、なっ、なにをそんなに怒っておるのだ…。余のキスがそんなに嫌であったか？ す、すまん。もうせぬから。ちよつと調子に乗ってしまっただけなのだ。

……プンスカ。

ええっ！？ 謝ったのに、な、なぜ、更に怒っておるのだ…。謝り方が悪かったかのう。すまなかった、許してくれい。このとおりである。

もういいです…。シヨンボリ。

うううっ…。蓮華よ。余はそちが悲しんでいる顔を見るのは、そちが怒っている顔を見るより辛いのである…。シヨンボリ。

ニッコリ…。

おおっ、すこしきこちないが蓮華が笑ってくれた。余も笑おう。ニッコリ…。

ハア…。で、王子、冗談はここまでにして…

んっ？ 冗談であったのか？

当たり前です。人妻の私が10才のお子様のキスくらいで、怒ったり、悲しんだり、本気になる訳ないでしょう。全く…。

わはははっ、なんじゃ、そうか。心配して損したわ。しかしさすがは蓮華じゃ演技も上手いわ。コロっと騙されたわ。

……それで王子、真面目な話、今回の競り、お眼鏡に適う子は見付けたのですか？ 奴隷は犬猫のペットじゃないんですから、奴隷といえぞ人なのですから、真面目にちゃんと選んで下さいよ？ 適当にこれでいいや、とかは絶対に駄目ですからね。

うむっ……。わかっておるぞ。ああ、ちよっとすまぬが、蓮華、そのi-Padを…。

はい。ノポイツ　　i-Pad　ガシャン！

……。

……。

……蓮華よ？

はい。

やはり怒っておるのではないか？

いえ。手元が狂いました。

う、うむ……。そ、そうか……。ピロピロ。おおっ、i-Padは大丈

.....

どれどれ……。あっ、星付き……。奴隷の中に魔法使いがいるとは珍しいですね。それも3人も……。

ふふふつ。このようなチャンス滅多にないであろう？

ええ、年に数回あるかどうかでしょう……。そうか、だから今日はこんなに客が多いのか……。つて、んっ？ まさか王子はこのことをご存知だったのですか？

勿論じゃ、ここ数日は毎晩ネットで奴隷情報をチェックしておったのだぞ。

ほんとスケベなことにはご熱心なんだから……。

なにか言ったか？

いえ。で、この6人中で本命はどの子なのです？

ふふん。余が一番に狙っておるのは、勿論、最高Sランクのバマミである。隣国マギカ王国の有力諸侯のひとつであった巴家のひとり娘だ。

先週、マギカ王家に謀反を起こして取り潰されたお家ですね。報告は聞いてはいましたが、まさかもうその姫が奴隷となってエロスの奴隷市場で売られているとは……。

奴隷は鮮度が命というからな。ここは産地直送、皆、とれとれピチ

ピチなのである。

残り2人の魔法使いは巴家の家臣だった騎士達ですね。

うむ。美樹家と佐倉家、どちらも武門の名家じゃ。マミが駄目であればコヤツ等のどちらかにしようと考えておる。

魔法使い狙いですか…。

駄目かな？

いえ、一般人より無難な選択かと思えます。魔法使い同士だと気心が知れていますし、礼儀作法などを一から教えなくてよいので躰けが楽です。精神力も体力も強靱ですので奴隷の境遇となっても弱るなどということは先ずありません。

うむっ。

…しかし王子、その下の綾崎というのは少年ではないのですか？

ああ、それはだな…って、おおっ！ 蓮華！ 蓮華よ！ やつと競りが始まるようであるぞ！ ふはははははっ。小気味よい曲に乗って、今日の競りに掛かる奴隷がゾロゾロと出て来おったわい。

顔見せですね。今日の競りに掛けられる奴隷は200人ほどですか。

…しかしなんじゃなあ。全員服を着ておるのか。ガツカリじゃのう。こらっ！ もう少し肌の露出がないと誰を余の性奴にするか決められぬぞっ！ パンチラもないのかっ！ サービスが足りぬぞっ！

……王子、みつともないです。少し落ち着いて下さい。今はただの顔見せです。競りに入れば個別に十分なお披露目が行われますから。う、うむっ……。しかし全員をよく見ておきたいぞ……。競り落とした後でもっと良いと思える性奴が出て来たら困るのだ……（／／／／

王子そういう場合は奴隷をトレードすれば良いのです。

トレードとな？ 買った奴隷を後で交換できると申すか。

はい。ランクの低い奴隷の持ち主がランクの高い奴隷の持ち主にトレードを持ちかけても殆どが断られるでしょうが、高い奴隷で低い奴隷のトレードを持ち掛けることは競りの後でよくあることで、成立する確率も高いです。

なるほど……。

ですのでトレードを考えに入れるなら、出来る限りランクの高い奴隷を競り落とすのが無難です。今回で言えばあの3人の魔法使いということになります……。しかしあのように強く脈打つ波紋……。3人共、予想以上に強い力を持っております。特に真ん中の金髪の少女、バマミ……。神具ソドムの鎖で束縛されてはいますが、あの研ぎ澄まされた魔力なら自力で縛を解くことも可能でしょう……。王子、彼女は避けた方が良いでしょう。油断すると寝首を搔かれるかも知れません。

ふはははははっ。面白いではないか。齒ごたえがあつた方が屈服させがいがあるぞ。

……王子はマミに面識でもあるのですか？

んっ？ いや、全くない。もしかすると、どこかの城の舞踏会で会っておるのやも知れぬが、記憶にはないのう。

面識がないママにそこまでご執心される…。王子って年下好みかと思いましたが、意外に年上好きなのですね。

好き？ いや余はママのことを全く好きと思えぬが。

えっ？

少し語弊があるかのう。余はママのことを恋愛対象とは思えぬ。だからこそ良いのだ。

はあ???

余はいまハーレム候補を選んでおる訳ではない。余の性交の練習相手を探しておるのだ。余の嗜好と完全に一致する者を奴隷にしたなら、余は練習では我慢が出来ずに性交に至ってしまうことであろう。それでは駄目なのである。性交違反でハーレム選考が終わってしまう事態は避けねばならんからな。

つまり恋愛対象としての好みに合致しないで情が移らず、性交の練習で寸止めが出来るほどに自制心が保てる相手で、尚且つ最高の女性をお探しのですか。（ハア…。ほんと面倒臭い人だわ…）

うむっ、ほれ蓮華よ、見てみよ、ママのふくよかな胸を…。素晴らしいであろう？。そしてあの澄んだ目、愛らしいのう…。主に従順な証でもあるぞ。ふふっ、これは名門巴家の血筋のよさから来るものであるうな。頭も良さそうである。安心して割り切ったお付き合

さて、そろそろ実際に競りが始まる訳だが、蓮華よ。

はい、ランクの高い奴隷からの順番になりますので、この後すぐ王子の本命の巴マミの競りとなります。

うむ…。緊張するのう…。

i - P a d に奴隷の金額を入力をして10分間その値を超える者がいなければ落札です。値が上がること時間は0に戻され続け、最高値が10分維持されない限り木槌が振り下ろされることはありません。

確定に10分も掛けるのか。長期戦になるかも知れんな。まあ、競りのルールがどうであろうが、競りで何が起きようが、マミは余が絶対に競り落としてみせるが…。

ララ〜ラ〜 ラ〜ララ〜 ランランララ〜 ラララ〜

あっ…。

えらく荘厳なメロディーが流れて来たのう…。

巴家の家曲です。S級ともなると登場シーンの演出にも気合が入っているようで…。

ララ〜 ラ〜 ラ〜 ララ〜 ラララ〜 ラララ〜

三 三 三 三 ポン！ 三 三 三 三

おおっ！ マミが爆煙の中から！！！！ んっ?? なっ!?? なん
じゃあの衣装は！！！！

巴家の正式な女子用戦闘衣です。戦闘衣というより古風な貴族衣装
といった感じですが。

くうっくうっ！！ 可愛い。可愛いぞ。実に可愛い戦闘衣であるぞ。
ミニスカなのは当然として、頭にチョココンと乗っかっているあれは
ベレー帽であるな？ 羽が付いてお洒落であるぞ。おおっ。胸はブ
ラウスのみであるか。急所を敢えて全く防御してないところがいい
のう。巴、カブキよるわ！！

王子、マミのパーソナルデータが i - pod に送られてきました。

- - - - -
- - - - -
No . 0 0 1 R a n k S A g e 1 5 T o m o e M a
m i
1 6 2 c m 4 9 k g B 8 1 W 5 4 H 8 3 総合評価 S + +

性格：S 知力：S 知識：S 精神：B 礼節：S
血統：S 健康：A 体力：A 魅力：S 淫乱：A

備考：魔法使い。マギカ王国旧巴家。

最大魔力量 5兆2600億MP 最大魔力出力 455億4000万
MP / s

特殊能力：リボンの騎士（リボン変形具現化）

ああっ！ 駄目じゃー！！ 腕で隠そうとするでないぞー！！ そちの
豊満な胸とお尻を余に見せるのじゃー！！ こ、こら、しゃがむでな
い。立ち上がれマミよ。余も立ち上がるぞっ！！ おチンチンがな
ふははははっ。

.....。
無駄な努力は止めるのだマミ。その巨大な胸や尻はそんなことで隠
し切れるものではないぞ。ふははははっ。見えておる。見えておる
のだ。

.....。
その張りのあるムツチムチのからだは、ふつかふかのポヨポヨで抱
き心地は最高であろうなあ……。きつとマミは余のよき抱き枕になる
であろう。そしてよき掛け布団や敷布団にもなってくれるであろう。

.....。
肌も綺麗であるぞ。真っ白である。ツルツルでスベスベしておるの
であろう。肌のきめ細やかさ滑らかさは性奴にもっとも重要な資質
であると余は声を大にして言いたい。ふははははっ。よしっ。マミ
を余の性奴にしたその初夜は、部屋の温度を氷点下にして2人で肌
をスリスリして暖め合うことにしよう。マミの肌の感触と温度を存
分に味わうのだ。ふはははははっ。余の胸は高鳴るわ。

.....。ちよつと、いい加減に黙ってくれませんか王子。うるさいです。
わはははははっ。蓮華よ、何を言っておる、大昔からエロスでは奴隷
の競りとは祭りなのである。ふはははははっ。今日は無礼講じゃ、固

いことを…

ギロツ。

はわわわ…。ガタガタ…ブルブル…。

王子…。

な、なんじゃ…？ ガタガタ…ブルブル…。

相手は性奴と言えど人なのです。観賞物ではありません。布団や枕でもありません。みな人の心を持っております。女の子が傷つくこと言っではいけません。

う、うむ…。そうであるな。うつつ…。よく見ればママは悲しんでおるではないか…。半泣きなのかのう…。どうやら余は興奮してしまっ言っではならぬことを口走ってしまったようだ…。

反省してますか？

すまなかつたのだ。余は後でママに謝ろうと思う。シヨボーン…。

フッフ。素直でヨロシイ。では王子、容姿以外の部分も、ちゃんと見てあげましょう？

うむっ。

i・Padをピコピコ。はい、これがママのパーソナルデータです。素晴らしい成績じゃないですか。

ほう、確かに…。スリーサイズばかりに気を取られおつたが、見事なステータスである。魔力も高いのう。E級魔法使いではないか…。しかし、このように有能な者を他国に売り飛ばすとは、マギカの王、クリームヒルト。余程の愚か者なのか、それとも何か理由があるのか…。訳が分からんのだ…。

マギカ王国は3年ほど前から魔法騎士団の強化再編を進め、今やルーンで屈指の実力を誇ります。中でもクリームヒルト直属の近衛騎士団は10兆MPを超える魔力量が入団の最低条件とか…。マミの魔力は5兆MP。EロスではE級でもマギカでは並みの魔法使いでしかありません。

5兆で並みなのか…。

はい。ですが魔法使いの実力を魔力量だけで測るのは愚か者のやること。魔力の量より質が重要ですし、巴マミの価値は魔力とは別の面から見出すべきでしょう。

うむっ…。

正直、わたしもあの子が欲しいです。

そちもマミを性奴にしたいのか？

いえ。

…他国の生まれのマミをお庭番に加えると申すか？

はい。

お庭番衆とは影の一族の中から選ぶのが慣わしであるう？

そうも言ってられません。

……そんなに手が足りぬのか？

王子のハーレム候補探して半数がルーン各地に散っております。いまは黒騎士さんにお手伝いして貰ってなんとかやりくりしてますが、あと何人が必要です。先日のような事件がまた起きては取り返しが付きませんので。

そうか。では巴の他に美樹と佐倉も一緒に競り落とすことにしよう。巴は余の性奴とするので譲れぬが、美樹と佐倉はそちに預ける。好きに使うがよいぞ。

えっ？

ん？ 巴でなければ駄目か？

いえ、美樹や佐倉も相当な魔法の使い手です。優秀なお庭番になってくれると思いますし、王子のお心遣いも嬉しいのですが…。

どうしたのじゃ？ 何か気になることでもあるのか？

えっと、その…。失礼ながら王子。予算の方は大丈夫なのですか？ 3人も競り落とすととなると相当な出費となってしまいますよ？

なんじゃ、そんなことを気にしておったのか。ふはははっ。

そんなことって王子。巴の開始値は700です。後の2人を入れた

ら一体いくらになることか。

案ずるな蓮華。今回の競り、余の予算は8000である。あまつた金で高級マンションを借りて、マミとそこで甘い生活を営もうかと思っておったが、そちにはメルルやキリノの件で色々世話を掛けたからな…。少し部屋のランクを落として浮いた金で残り2人、落札するのだ。

8000って、王子がそんなにお金を持つてる筈が…。

失礼であるぞ。余はエロスの王となる男である。8000万ゴールドくらい、ふん、お小遣いを3年貯めれば用意できる額なのである。

……………。

セレブの力、驚いたか？ ふはははははっ。

そうですね…。驚きました。ネットで奴隷の情報収集をされていると仰っていたので、まさかそのような勘違いをしているとは。

はて？ 勘違いとな？

桁が千も違っております。

えっ…。

バマミの競りの開始値は700万ではなく700億ゴールドです。

はわわわ…。ガタガタ…ブルブル…。

やれやれ。

で、では巴马ミの抱き枕は…。余のお布団は…。

お諦め下さい。ああ、ちなみにこのスレーブドームでの競りの開始値は最低のCランクでも1億ゴールドです。

うううっ…。うううっ…。つまり余は…。性奴を持つてぬのか？ ヒクッ…ヒクッ…。

はい。無理です。お金がない以上、こんなところに居ても仕方ありません。出ましよう。

嫌じゃ…。うううっ…うう…。

ハア…。聞き分けのないことを言わないで下さい…。

性奴を持つのは余が7歳の頃からの夢…。ううあ…。ヒクッ…ヒクッ…。

王子にはハーレムがあります。性奴なんか要りません。

でも、でも…。練習をしとかねばキリノにまた苛められるのじゃ…。

もうっ、しょうがないなあ…。わかりました。少しくらいなら私が王子の練習相手になってあげますから（／／／／

ヒクッ…ヒクッ…。よいのか？

キスの練習くらいまでなら…（／／／／

キス…。キスだけか？

…はい。私、人妻ですので（／／／／

そちはキリノのことを知らんからそんな悠長なことを言っておるのだ。アヤツは共振で余を抵抗出来ぬようにして、あんなことやこんなことをしてくるのだぞ？　しかも鳳凰宮で連日、近衛の連中と濃密な練習を繰り返しておると聞く。キスでどうやってアヤツに勝つのじゃ。ナイフで戦車に挑むようなものではないか。

ランボーなら…。

あれは映画であろう？　ああ、もう駄目じゃ。余は半年後、ハレムでなすすべなく快樂地獄で悶え狂って死ぬのじゃ。余の墓碑には淫獣ドラゴンに貪り食われた愚王との碑文が刻まれ、エロス末代までの笑いものとなるであろう…。ううっ…。ヒクッ…ヒクッ…。

わかりました。じゃあ…胸くらいは…。いいです…（／／／／

ヒクッ…ヒクッ…。胸…？

キ、キスの他に、胸を触らせてあげますから…（／／／／

ジロジロ…。そちの胸で練習になるのかのう。

失礼なっ！（／／／／

…余は性奴が欲しいのじゃ。何でも余の言うことを聞いてくれる者がいいのじゃ。気兼ねなくエッチなことを出来る相手が欲しいの

じゃ。うつつ。…。ママが欲しいのじゃ！ さやかか欲しいのじゃ
！ 杏子が欲しいのじゃ！ わああん…。バタバタ。

もう…。駄々捏ねないで下さい…。

うつつ…。ヒクッ…ヒクッ…。

王子、帰りにチョコレートパフェ奢ってあげますから。

うつ…うつ…。パフェ？ ヒクッ…ヒクッ…。

ええ、だから、ねっ、もう城に帰りましょう。

うつつ…。ホットケーキがいい…。

はいはい

ソファアーにドサツ。ふうっ…。王都に戻ると落ち着くのう…。クタ

ふふっ。折角、奴隷市場まで行ったのに無駄骨となってしまうし
たね

…なんじゃ。嬉しそうなのう。

そんなことないですよ

ふんっ…。まあ、よいわ。性奴を買うことが出来なかったのは残念
ではあったが、帰りに高島屋に寄ってメルルとキリノへのプレゼン
トを買うことが出来たからのう。それに…。ジーツ。

ん？ なんですか王子？

蓮華、近ごろ…。

は、はい。ソファアーにポスン。

今日はそちと久しぶりにデートが出来たから奴隷市場に行ったこと
無駄ではなかったのだ…。そちが余の練習相手になってくれると言
ってくれたあの言葉、嬉しかったぞ。余には大きな収穫であった。
抱きっ（／／／／

王子…（／／／／

オヤツの時間まであと1時間ある。それまで早速練習をしてみることにしよう。蓮華よ、そちの胸、触ってよいのであったな？

は、はい…（／／／／

では…。参るぞ。フン…フン…。

ちよっ、ちよっと待って下さい（／／／／

待てぬ…。ブラウスの上から、そっとペタツ…（／／／／

キャッ！（／／／／

サワサワ。んっ？ サワサワ。あれっ？ 胸が…。サワサワ。サワ

サワ。無い。はわわわっ。オロオロ…オロオロ…。

王子…？（／／／／

…ど、どう言葉を掛けてよいものか。小さいとは思っておったが全く無いとは想定外なのである。…い、いや気にするでないぞ。構わぬぞ。少し驚いただけなのである。余の動揺、気に障ったのなら謝る。すまぬ…。このようにペツタンコでも、余はそちの胸ならそれでよいのだ…。サワサワ。

い、いえ、あのっ…。そのっ…。

しかしオカシイのう。少し前までは確かにオツパイがあった筈であるのに…。へっこんでしまったのかのう…。結婚をして吸われてしまったのか？ よしっ！ これからは余が毎日モミモミをして、そちの胸を大切に育てようぞ！

今はさらしを捲いておりますので…。

そうか…（／／／／

結婚してから胸が大きくなってしまった…。少しお待ち下さい。いま取ります…。首のネクタイをユルユル…。

待ていつ！…！

はいつ！？

そ、その紐のような黒のネクタイは可愛いからそのままにしておくのじゃ…！！（／／／／

は、はい…（／／／／

うむっ…、で、では蓮華よ、続けたまえ…（／／／／

……白の薄手のブラウスのボタンを外し外し、スルスルと脱ぎ脱ぎ。さらしを解き解き…（／／／／

……うつつ。意外に大きいではないかっ！こ、これも想定外じゃ…（／／／／

そ、そうですか…。緩んだネクタイを締め締め…（／／／／

うつつっ、エッチなのじゃ。エッチなのじゃ。上半身が裸でネクタイのみ…。細長い黒のネクタイがまるで首輪のようであるぞ。下半身は黒のミニスカに膝上までの黒タイツ…。裸の上半身と服を着た

余の華麗な手捌きにもうメロメロであろう？ モミモミ。切なく
つてきたであろう？ モミモミ（／＼／＼

メロメロ…？ 切なく…？ うーん…。

我慢せずともよい。モミモミ。そちと余の仲であるぞ。隠し事は無
しじゃぞ。アハーンとかウフーンとか、言ってよいのじゃ。恥ずか
しがることはないぞ。モミモミ。この部屋は防音も完璧じゃ、大
声を出しても大丈夫なのじゃ（／＼／＼

言った方がよろしいのですか？

い、いや自然に声が出るであろう？ 出てしまつてはあつ？

……出ませんよ。

……。

王子は昔から私のお尻や胸を触りまくっていたではないですか。で
すから今更といますか。なんというか。あはははっ…。

シヨンボリ…。

すみません…。

……触っておつたのは何年も前の話であろう。今の余と違つのであ
るぞ。余はもう精通も始まつた大人である。気持ちを切り替えて欲
しいぞ。

失礼ながら蓮華には同じでございます。私は6才のとき王子のお側

役に選ばれ、王子がまだ赤ん坊の頃からお世話をしております。簡単に切り替えることなど出来ません。王子の存在は私には大き過ぎるのです。

……。

ずっと君を弟のように思ってたから……。だから、ごめんね……。チュッ（／／／／

……。

頭をなでなで。

……余が相手ではエッチな気分になれぬと申すか。

あはははっ。そうですね……。王子も私のことそういう風に思えないでしょ？

……違うぞ。余はずっと昔から、そちのこと、すっ、好きであったのだぞ？（／／／／

そ、そうですねか…（／／／／

うむっ。そちの結婚を祝福はしたが、その晩は悲しくて泣いておったのじゃ。もう少し早くハーレム候補探しが出来たなら、そちを選んでおつたらうにな。例えそちに振られるにしても、そちへの余の思い……。伝えたかったぞ……。

王子、私は……。

分かっておる。そちは佐助にベタ惚れである。余とこのような練習をするのは内心すごく嫌であろう？ 佐助にも悪いとは思う。だが少しの間我慢してくれい。余の男としての威厳が、いや余の命が危ういのだ。

いったいきりノさまに何をされたのです？

そ、そんなこと、言えないのである……。モジモジ……／＼／＼

ハア……。まあ、いいですけどね。王子とこういうことをするの嫌という訳ではないですし、10才の王子に胸を揉まれることくらいでアイツも怒らないでしょうから、気になさらないで下さい。

なんじゃ、もう倦怠期か？

ちがいます。……でも、どうします？ 私の方から胸を触っていいと言っておいてなんですが、気分が乗ってない相手といくらモミモミの練習しても自信を無くすだけだと思えますよ。もう止めますか？

いや、まだじゃ、そちの後ろから背中越しにモミモミするのじゃ。

後ろからですか。

そうじゃ、これなら余の顔は見えぬから、そちもムラムラする筈なのじゃ。

うん……。そんな単純な問題じゃないと思いますが……。いいですよ。王子の気の済むようにやられれば。じゃ、頑張ってモミモミマスタ―を目指しましょうか。あはははっ。

フツ…。蓮華よ。余を侮つていられるのも今の内だけなのじゃ。もう直ぐそちは余の虜となるのだ。略奪愛、失樂園なのじゃ。ふはははっ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4617u/>

ちょっとエッチで正しいハーレムの作り方

2011年10月13日21時15分発行